大熊町　住民意向調査
報　告　書

平成28年3月

復　　興　　庁

福　　島　　県

大　　熊　　町

大熊町　住民意向調査

報　告　書

目　　次

Ⅰ　調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

１－１　調査目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

１－２　調査内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

１－３　調査設計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

１－４　回収結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

１－５　報告書の見方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅱ　回答者の属性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

２－１　回答者の属性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Ⅲ　調査結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

３－１　現在の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

３－１－１　現在の避難先自治体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

３－１－２　世帯構成・人数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

３－１－３　職業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

３－１－４　震災発生当時の住居形態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

３－１－５　現在の住居形態 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

３－２　復興公営住宅の入居意向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

３－２－１　復興公営住宅への入居意向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

３－２－２　復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成 ・・・・・・ 31

３－２－３　復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス ・・・・・ 35

３－２－４　復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由 ・・・・・・ 37

３－２－５　復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態 ・・・・・・ 39

３－２－６　復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体 ・・ 41

３－３　将来の意向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

３－３－１　大熊町への帰還意向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

３－３－２　大熊町への帰還時期 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

３－３－３　大熊町へ戻る場合の家族 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

３－３－４　大熊町へ帰還する場合の住居形態 ・・・・・・・・・・・・・・ 52

３－３－５　大熊町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由　・・・・ 55
３－３－６　大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援　・・・・ 56
３－３－７　大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報　・・・・・・・・ 58
３－３－８　大熊町との“つながり”を保ちたいか　・・・・・・・・・・・・ 61
３－３－９　現時点で戻らないと決めている理由　・・・・・・・・・・・・・ 63
３－４　意見・要望　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
Ⅳ　参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
４－１　使用調査票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81

Ⅰ　調査の概要

１－１　調査目的

本調査は、大熊町住民の復興公営住宅の入居意向など避難期間中の生活環境の整備や、帰還に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

１－２　調査内容

※４－１　使用調査票を参照のこと

１－３　調査設計

（１）調査地域	大熊町
（２）調査対象と標本数	世帯の代表者　5,331 世帯
（３）調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
（４）調査期間	平成 27 年８月３日（月）～平成 27 年８月 17 日（金）
（５）調査主体	復興庁、福島県、大熊町
（６）調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

１－４　回収結果

有効回収数　2,667 世帯（有効回収率 50.0%）

１－５　報告書の見方

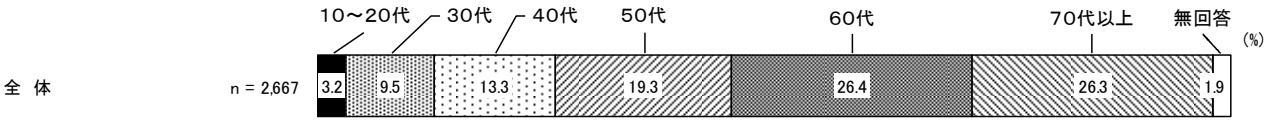
- 調査数（n ＝ Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第２位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- 回答者が２つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- 図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- 調査数（n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、統計上、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の住まいの行政区別の分析は n 値が 30 を下回る場合も言及する場合がある。

II　回答者の属性

２－１　回答者の属性

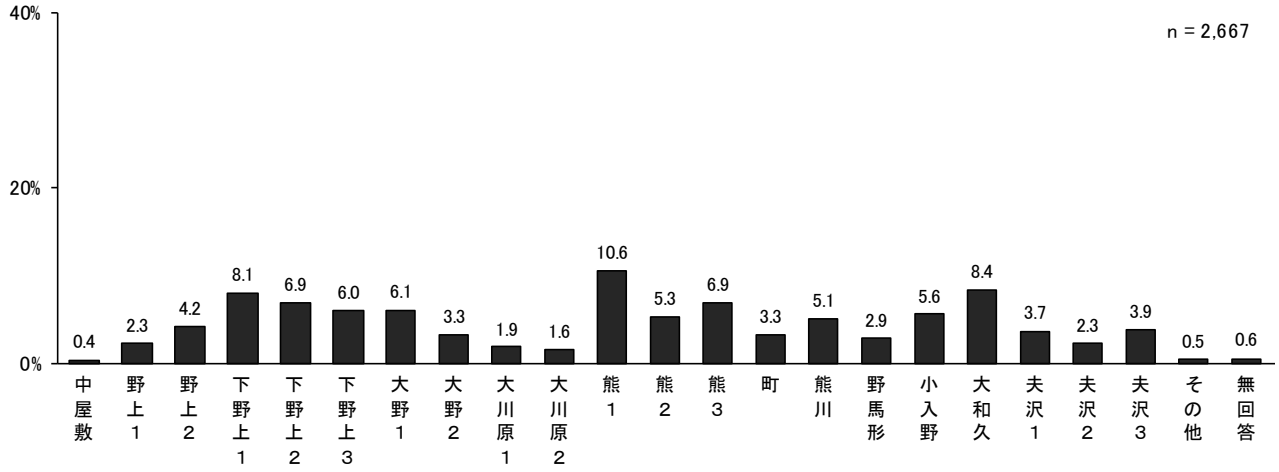
（１）年齢

＜図表２－１－１＞



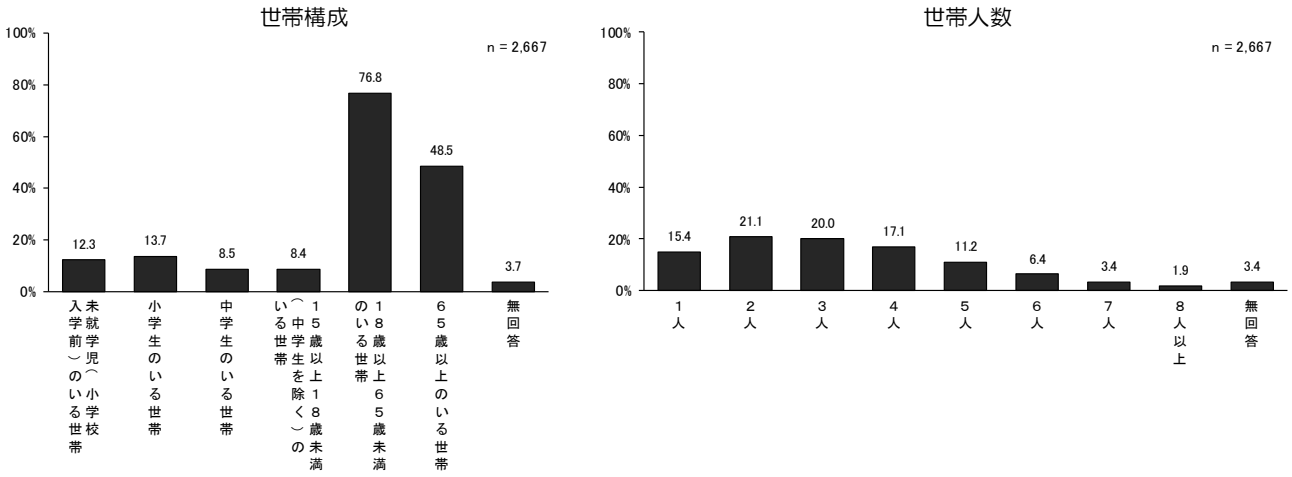
（２）震災発生当時の住まいの行政区

＜図表２－１－2＞



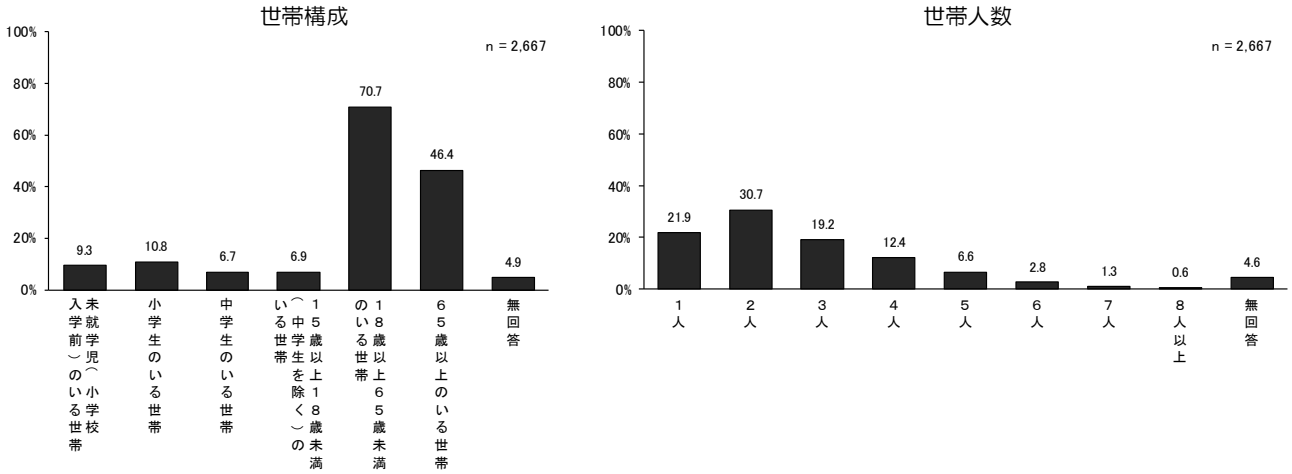
（３）震災発生当時の世帯構成・人数

＜図表２－１－3＞



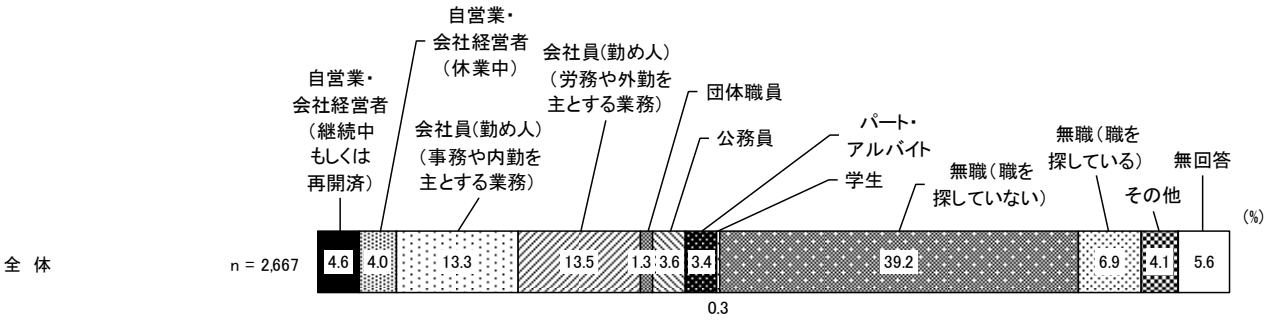
（4）現在の世帯構成・人数

＜図表２－１－4＞



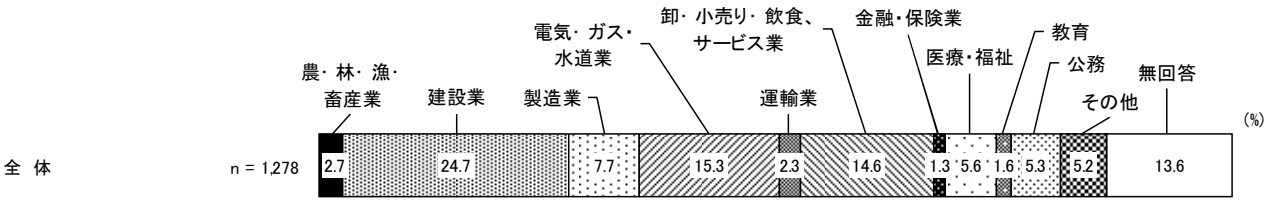
（5）現在の職業（就業形態）

＜図表２－１－5＞



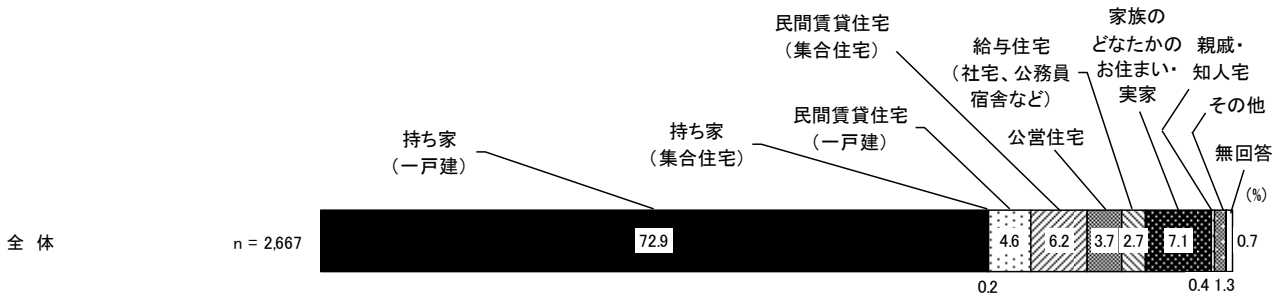
（6）現在の職業（業種）

＜図表２－１－6＞



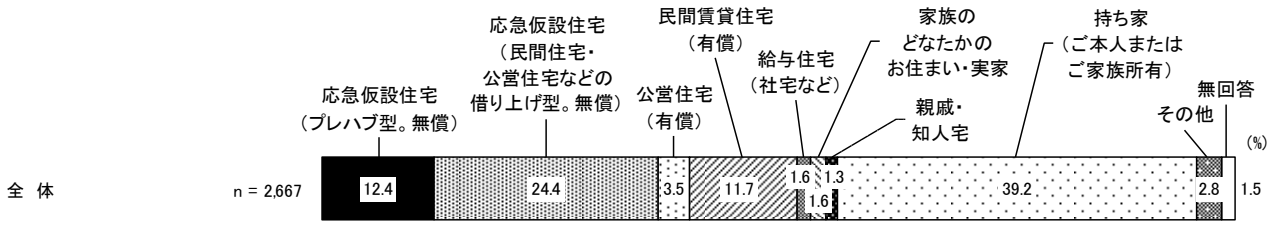
（7）震災発生当時の住居形態

＜図表２－１－7＞



（8）現在の住居形態

＜図表２－１－8＞



Ⅲ　調査結果

3－1　現在の状況

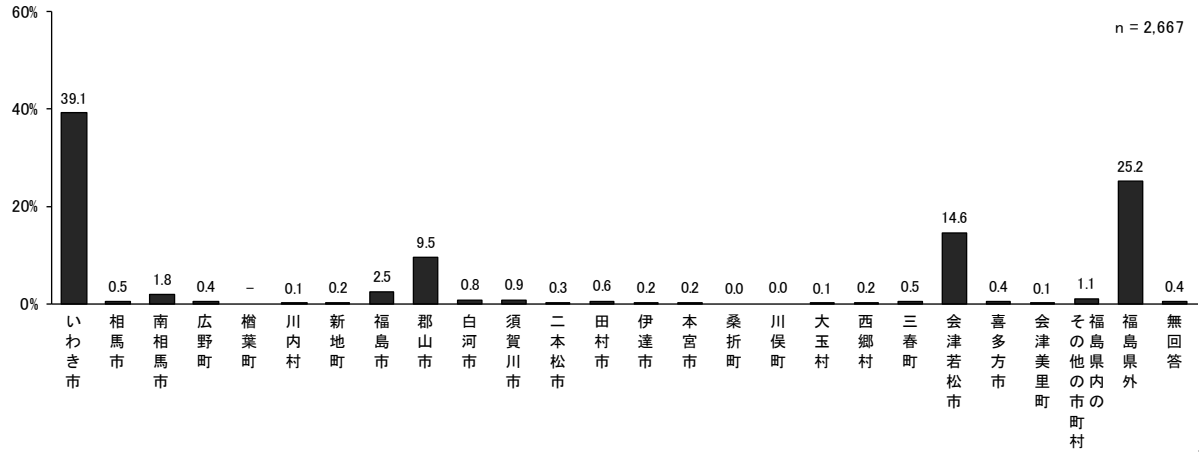
3－1－1　現在の避難先自治体

問5　あなたが現在避難されている自治体を教えてください。（○は1つ）

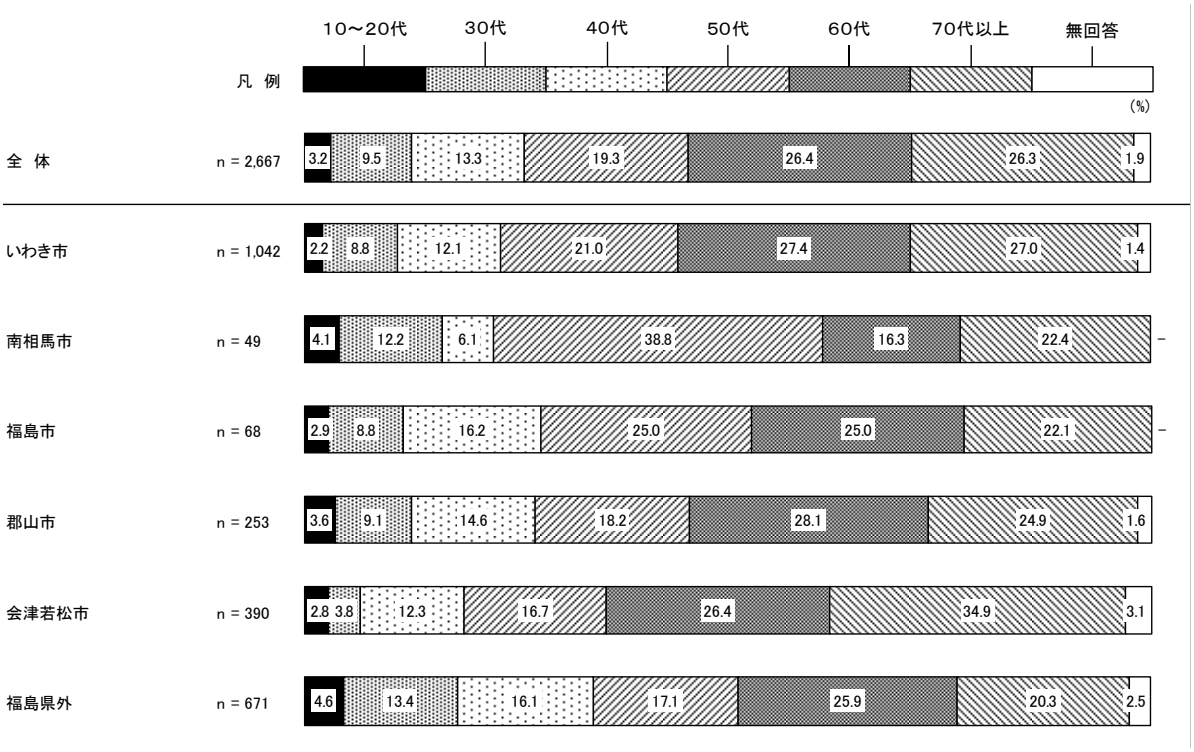
現在の避難先自治体については、「いわき市」が 39.1%と最も高く、次いで「福島県外」が 25.2%、「会津若松市」が 14.6%となっている。

主な避難先の自治体について回答者の年齢別にみると、６０代以上は「会津若松市」で 61.3%、「いわき市」で 54.4%、「郡山市」は 53.0%と半数以上を占める。一方、「南相馬市」では６０代以上は 38.7%と４割を下回る。

＜図表３－１－１－１　避難先自治体＞



＜図表３－１－１－2　主な避難先自治体の年齢構成＞



震災発生当時の住まいの行政区別にみると、ほとんどの自治体で「いわき市」が４割前後を占めている。一方、野上１、大野１、大川原２は「いわき市」が３割を下回っている。また、大川原２は「会津若松市」が３割強、野上１は「福島県外」が４割弱を占めている。

＜図表３－１－１－３　主な避難先自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

(%)

	n	いわき市	南相馬市	福島市	郡山市	会津若松市	福島県外
全　体	2,667	39.1	1.8	2.5	9.5	14.6	25.2
中屋敷	10	40.0	−	10.0	10.0	20.0	10.0
野上1	62	24.2	−	−	12.9	17.7	38.7
野上2	111	37.8	4.5	1.8	12.6	17.1	20.7
下野上1	217	32.3	2.3	1.8	10.1	10.1	33.6
下野上2	184	41.3	0.5	4.3	9.2	10.9	27.2
下野上3	160	38.1	2.5	3.1	8.1	10.6	30.6
大野1	164	28.0	1.2	7.3	11.0	14.6	32.9
大野2	87	41.4	−	2.3	11.5	18.4	20.7
大川原1	50	38.0	6.0	2.0	6.0	26.0	10.0
大川原2	42	23.8	−	7.1	11.9	33.3	19.0
熊1	284	37.0	1.8	1.4	8.5	14.8	29.9
熊2	142	48.6	1.4	2.8	7.7	14.8	16.9
熊3	185	44.9	2.7	2.2	8.1	13.5	21.1
町	87	40.2	1.1	2.3	5.7	26.4	13.8
熊川	136	43.4	1.5	4.4	11.8	14.7	22.1
野馬形	77	46.8	−	−	7.8	19.5	19.5
小入野	150	40.0	4.7	0.7	10.0	9.3	29.3
大和久	223	40.8	0.4	0.4	11.7	15.7	23.8
夫沢1	98	42.9	1.0	2.0	7.1	16.3	16.3
夫沢2	62	45.2	8.1	−	9.7	9.7	25.8
夫沢3	105	41.0	−	4.8	8.6	11.4	25.7
その他	14	50.0	−	−	7.1	14.3	21.4

３－１－２　世帯構成・人数

（１）震災発生当時の世帯構成・人数

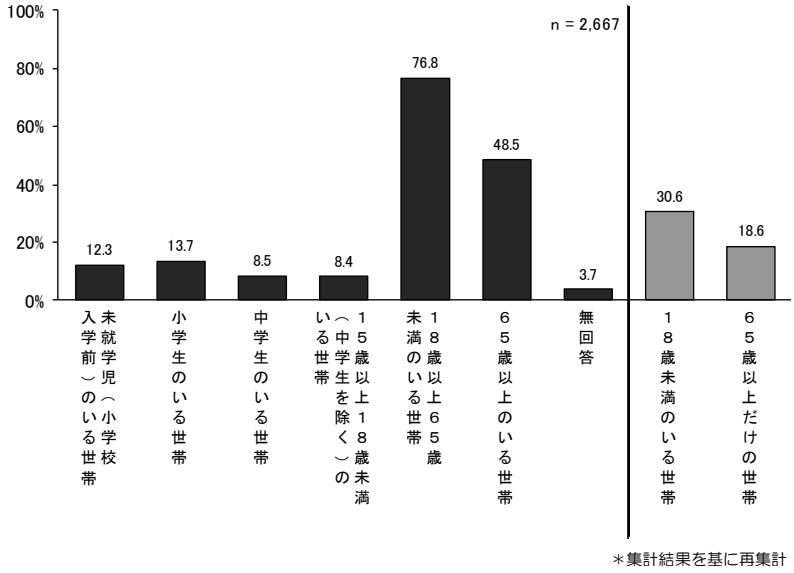
問６　震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。
（1）「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成は、「18 歳以上 65 歳未満のいる世帯」が 76.8%、「65 歳以上のいる世帯」が 48.5%となっている。一方、「未就学児（小学校入学前）のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「１５歳以上１８歳未満（中学生を除く）のいる世帯」はいずれも１割前後となっている。

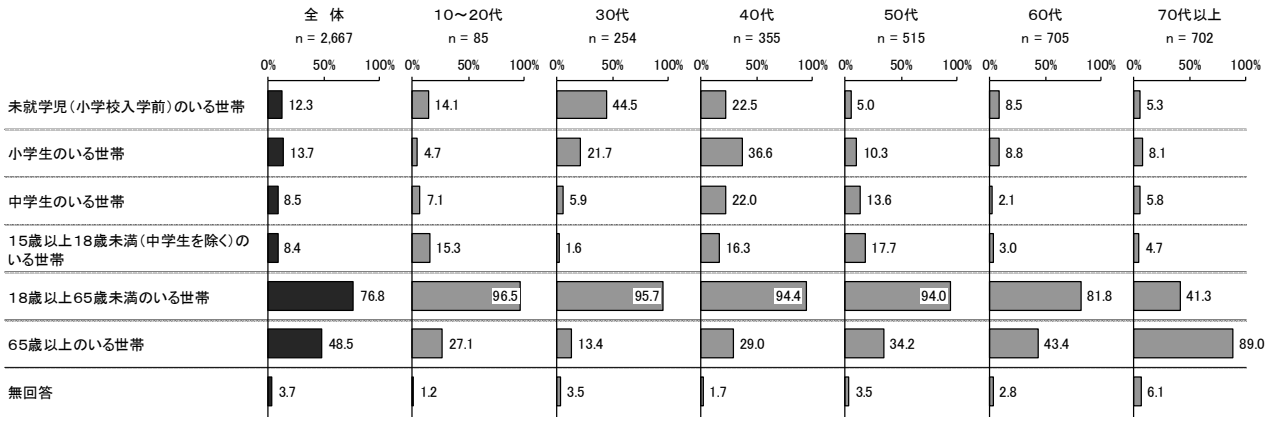
また、「18 歳未満のいる世帯」が 30.6%、「65 歳以上だけの世帯」が 18.6%となっている。

＜図表３－１－２－１　震災発生当時の世帯構成＞



＊集計結果を基に再集計

＜図表３－１－２－２　震災発生当時の世帯構成（年齢別）＞

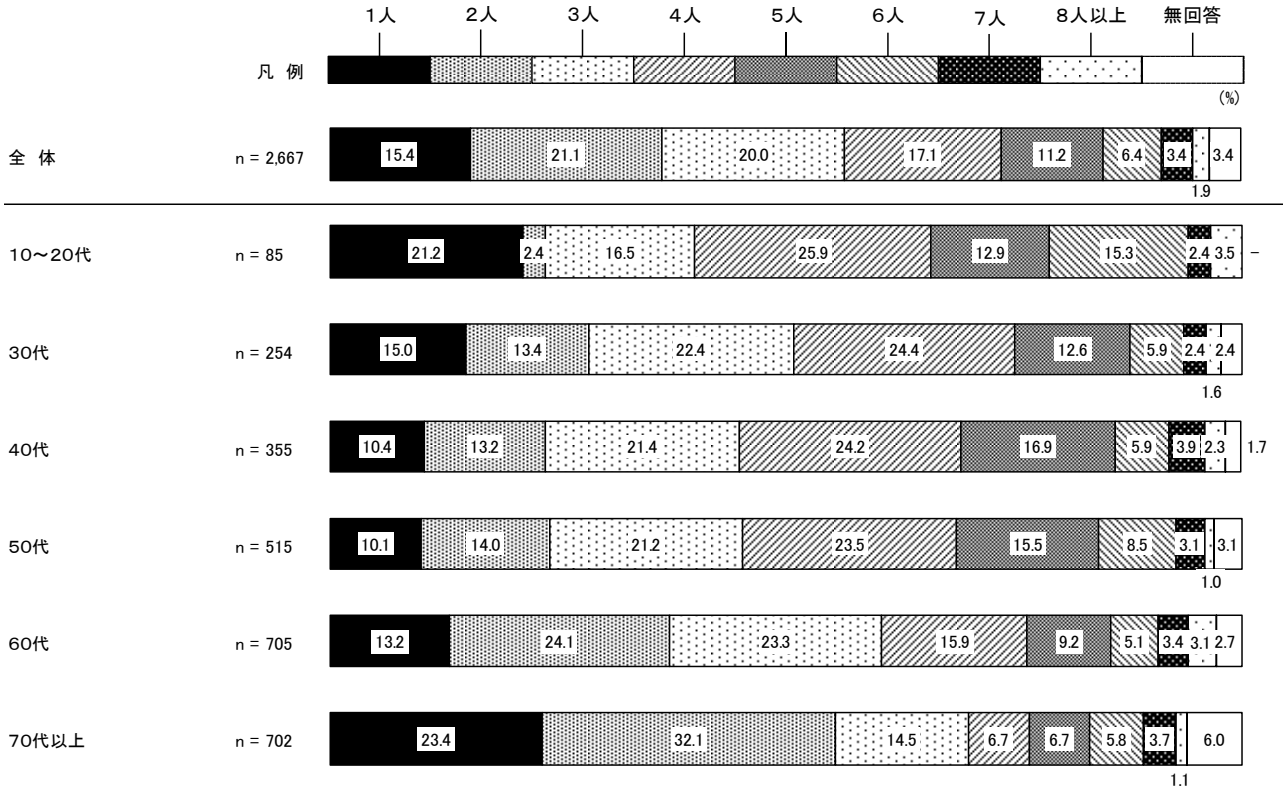


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数は、「２人」が 21.1%と最も高く、次いで「３人」（20.0%）、「４人」（17.1%）、「1 人」（15.4%）となっている。

回答者の年齢別にみると、「２人」は 40 代以降年齢が高くなるにつれ高くなり、70 代以上で 32.1%と最も高くなっている。「3 人」は 60 代で 23.3%、「4 人」は 10～20 代で 25.9%と最も高くなっている。

＜図表３－１－２－３　震災発生当時の世帯人数（年齢別）＞



（２）現在の世帯構成・人数

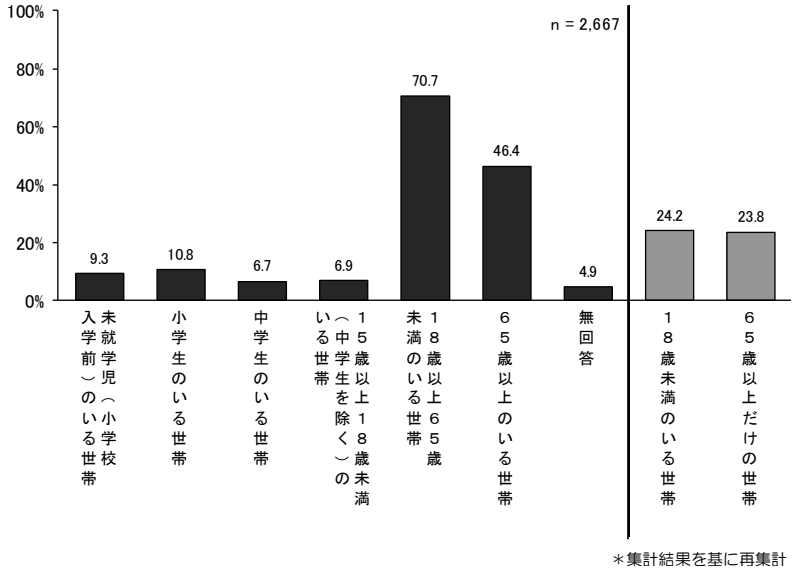
問６　震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。
（２）「現在」、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

①　現在の世帯構成

現在の世帯構成は、「18 歳以上 65 歳未満のいる世帯」が 70.7%、「65 歳以上のいる世帯」が 46.4%となっている。一方、「未就学児（小学校入学前）のいる世帯」、「小学生のいる世帯」、「中学生のいる世帯」、「１５歳以上１８歳未満（中学生を除く）のいる世帯」はいずれも１割前後となっている。

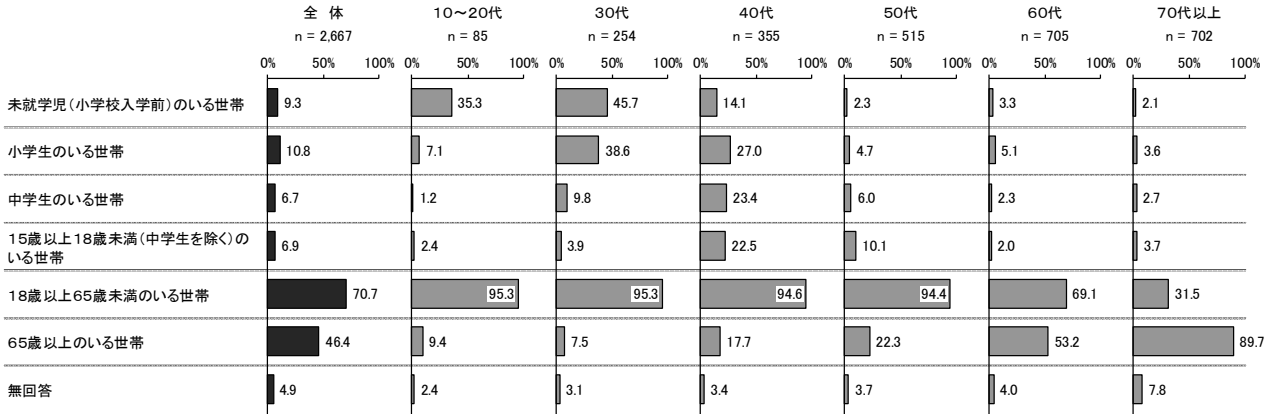
また、「１８歳未満のいる世帯」が 24.2%、「６５歳以上だけの世帯」が 23.8%となっている。

＜図表３－１－２－４　現在の世帯構成＞



＊集計結果を基に再集計

＜図表３－１－２－５　現在の世帯構成（年齢別）＞

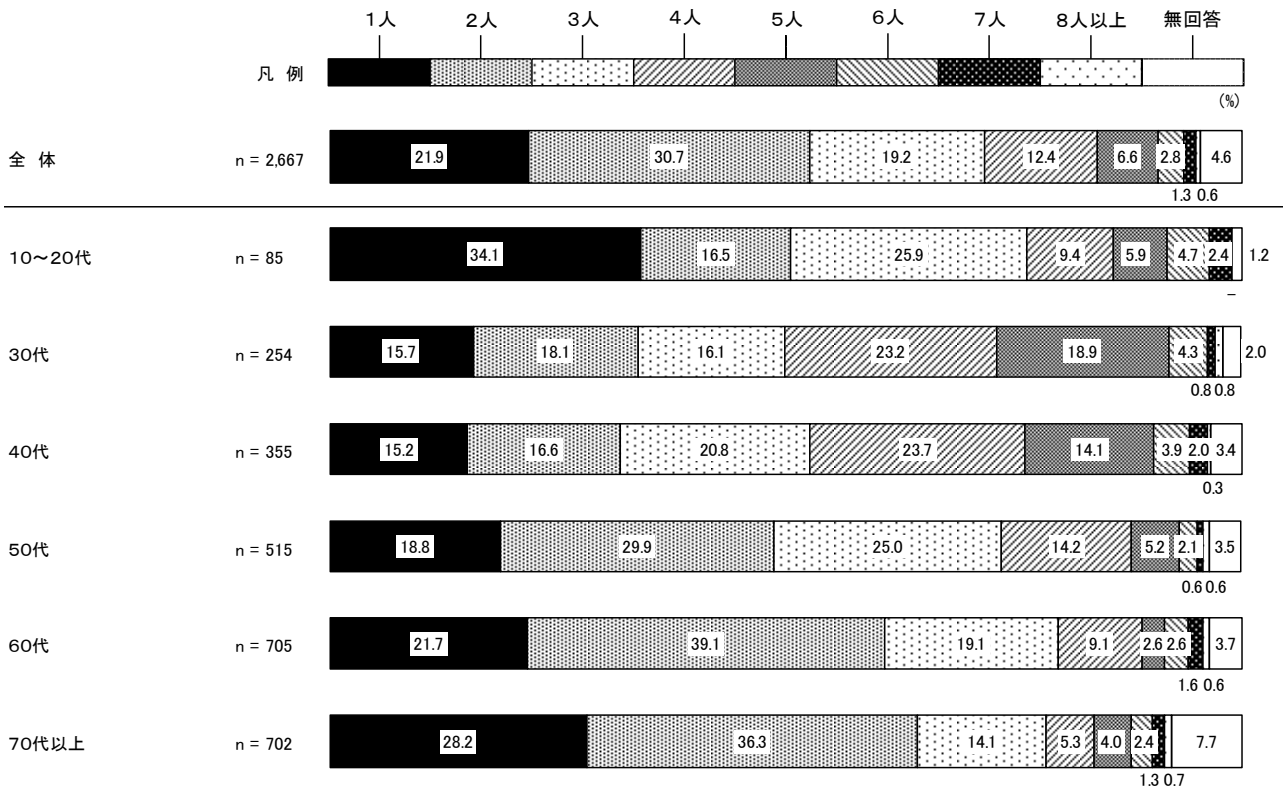


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数は、「2 人」が 30.7%と最も高く、次いで「1 人」（21.9%）、「3 人」（19.2%）となっている。

回答者の年齢別にみると、「2 人」は 40 代以降年齢が高くなるにつれ高くなり、70 代以上で 36.3%と最も高くなっている。「1 人」は 10～20 代で 34.1%と、他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表３－１－２－６　現在の世帯人数（年齢別）＞



３－１－３　職業

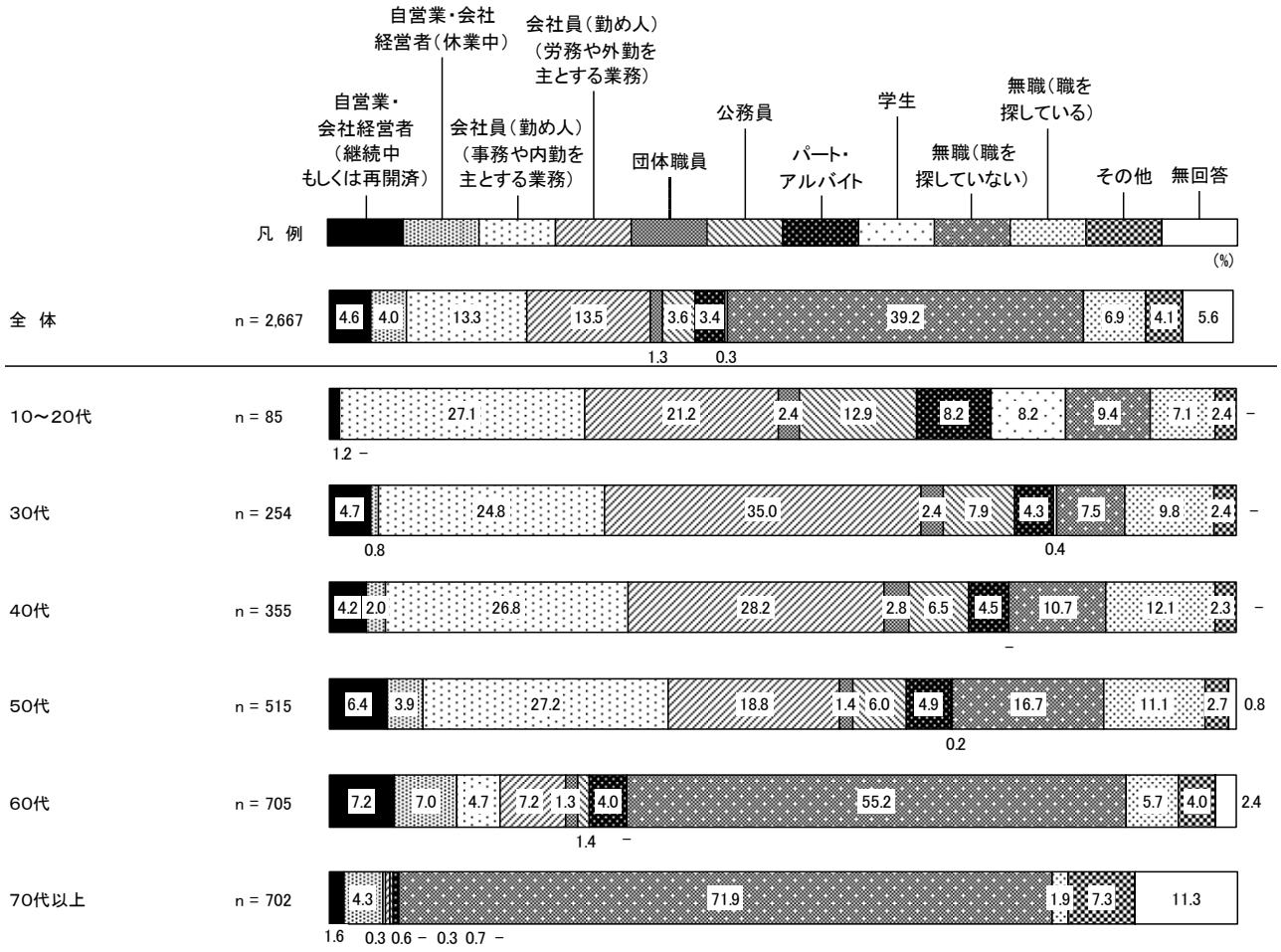
（１）現在の職業（就業形態）

問２　現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、２つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。
（1）　職業（就業形態）（○は１つ）

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない）」と「無職（職を探している）」以外では、「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」が 13.5%、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が 13.3%となっている。

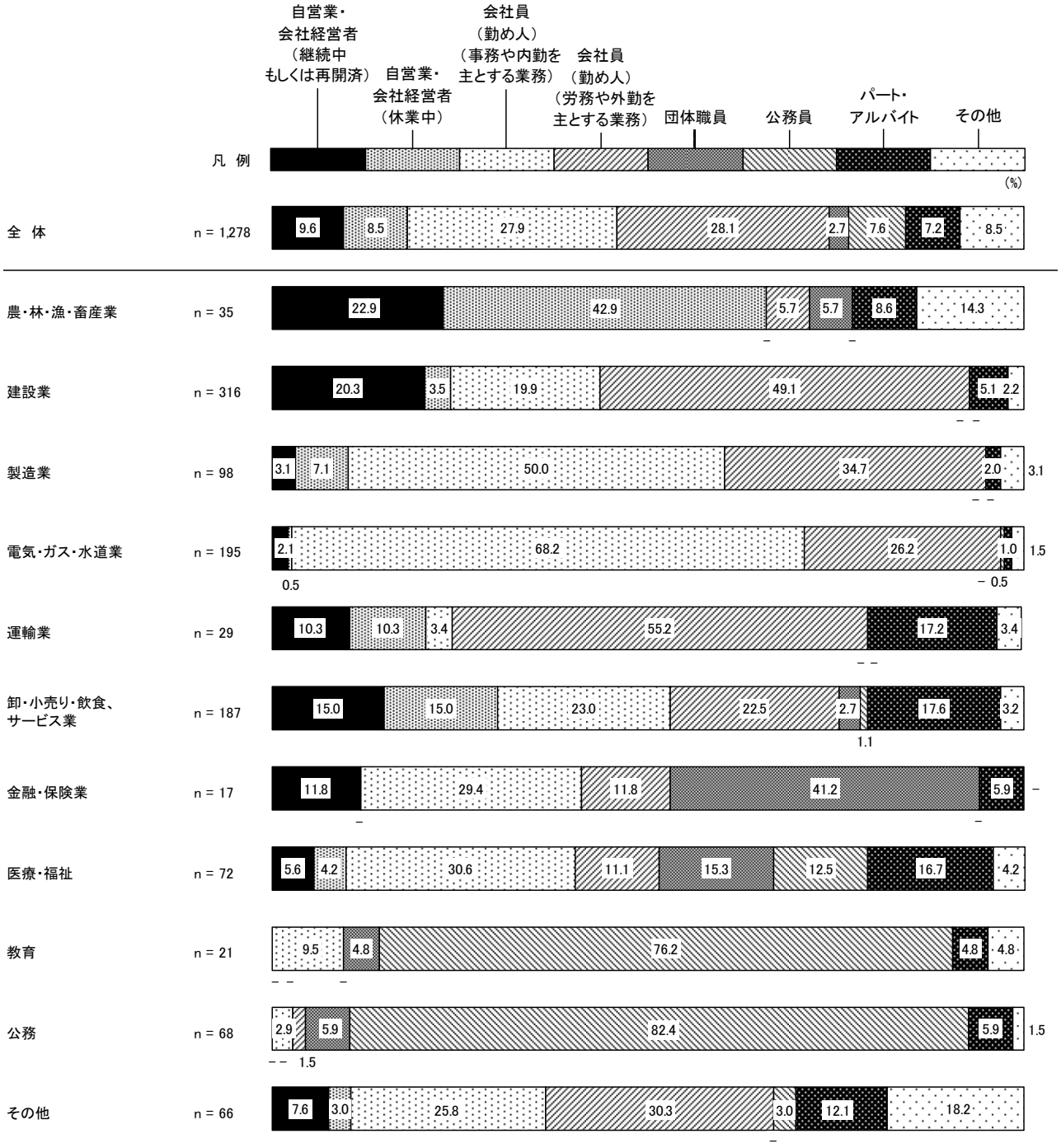
回答者の年齢別にみると、「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」が１０～２０代で 27.1%、５０代で 27.2%と高くなっている。「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」は ３０代で 35.0%、４０代で 28.2%と高くなっている。「無職（職を探していない）」と「無職（職を探している）」を合わせた無職は、５０代で 27.8%、６０代で 60.9%、７０代で 73.8%と高くなっている。

＜図表３－１－３－１　現在の職業（年齢別）＞



業種別にみると、建設業では「会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）」（49.1%）、電気・ガス・水道業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（68.2%）、製造業では「会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）」（50.0%）が他の業種と比べ高くなっている。

＜図表３－１－３－２　現在の職業（業種別）＞



（２）現在の業種

問２　現在のあなたの職業を教えてください。仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、２つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

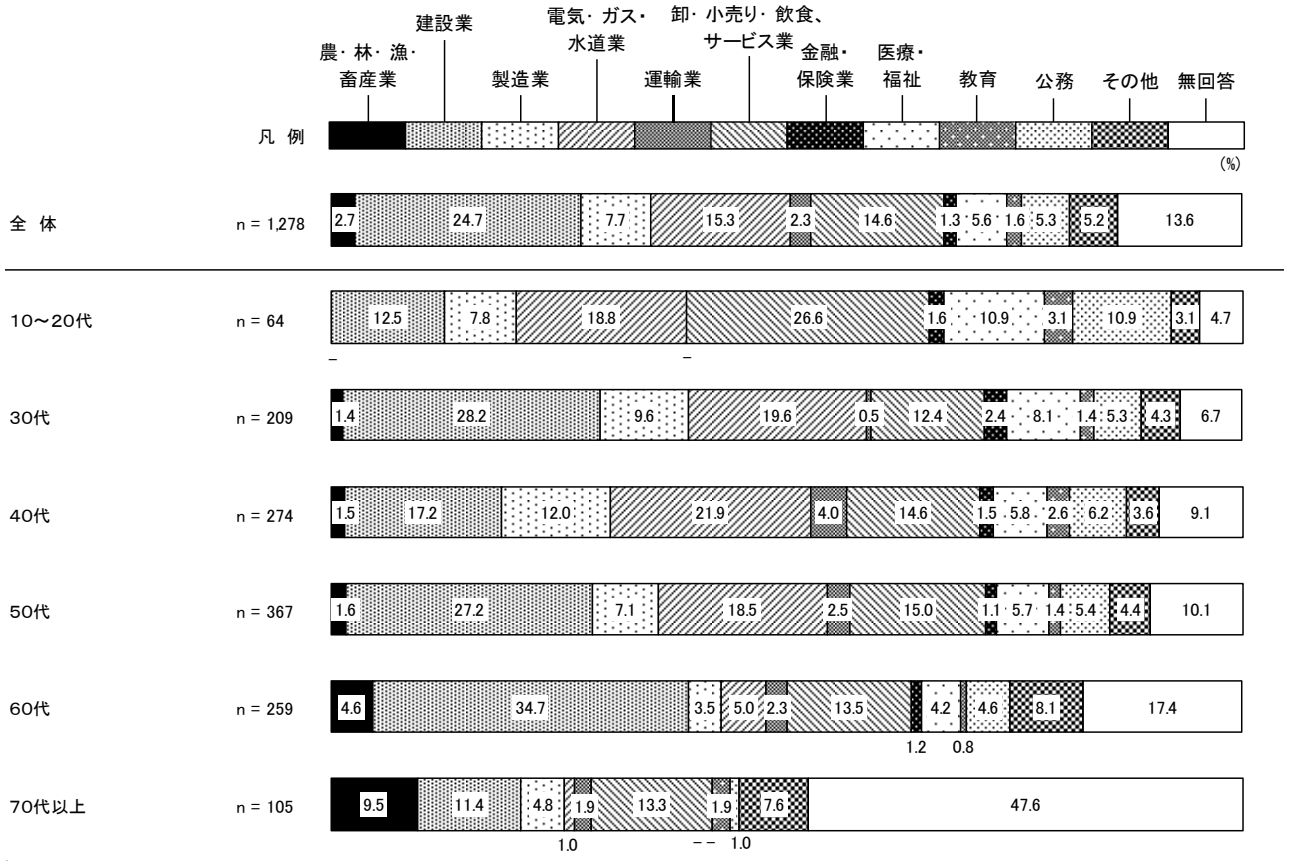
【仕事に就いている方（問２（1）で「1」から「7」、「11」と回答した方）にうかがいます。】

（2）　業種（○は１つ）

現在の業種については、「建設業」が 24.7%と最も高く、次いで「電気･ガス・水道業」が 15.3%、「卸･小売り･飲食、サービス業」が 14.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「建設業」は、30代が 28.2%、50 代が 27.2%、60 代が 34.7%、「電気・ガス・水道業」は、40 代が 21.9%、「卸･小売り･飲食、サービス業」は、10～20 代が 26.6%と、他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表３－１－３－３　業種（年齢別）＞



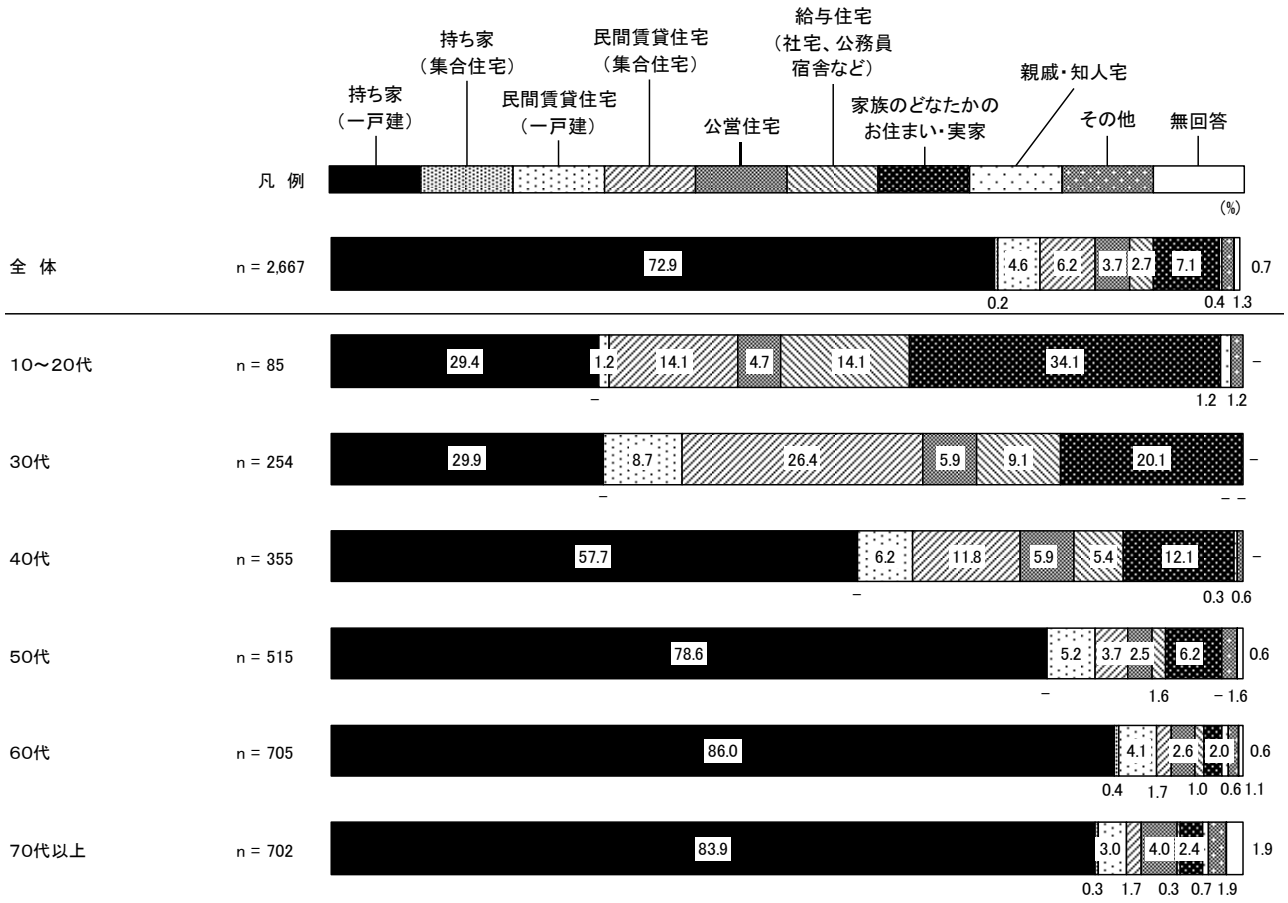
３－１－４　震災発生当時の住居形態

問４　震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。（○は１つ）

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が 72.9%と最も高く、次いで「家族のどなたかのお住まい・実家」が 7.1%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 6.2%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなる傾向があり、６０代では 86.0%となっている。「民間賃貸住宅（集合住宅）」は 30 代で 26.4%と他の年齢と比べ高くなっている。また、「家族のどなたかのお住まい・実家」は若年層で高く、１０～２０代では 34.1%、３０代では 20.1%となっている。

＜図表３－１－４－１　震災発生当時の住居形態（年齢別）＞



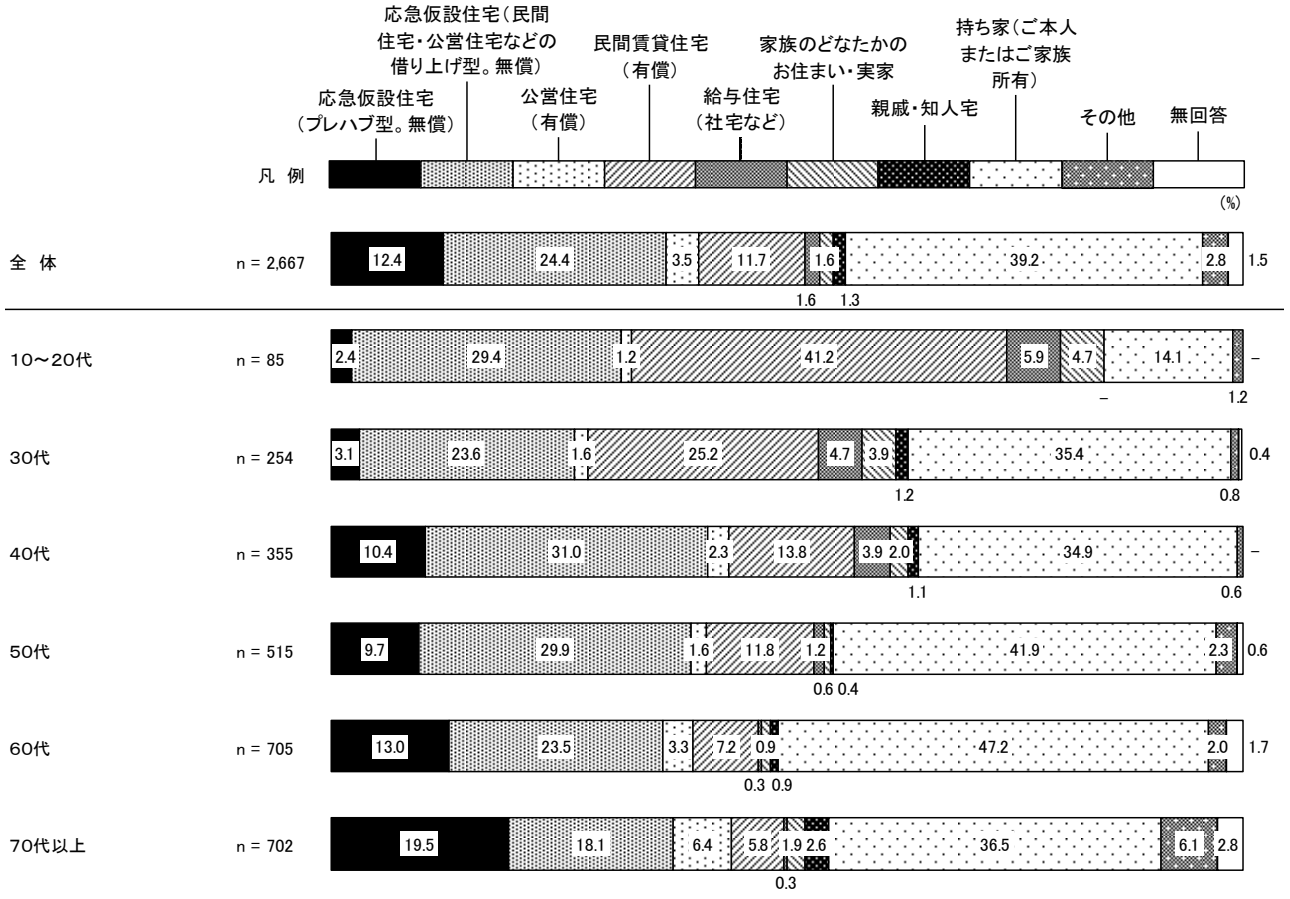
３－１－５　現在の住居形態

問７　現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は１つ)

現在の住居形態については、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」が 39.2%と最も高く、次いで「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」が 24.4%、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」が 12.4%となっている。

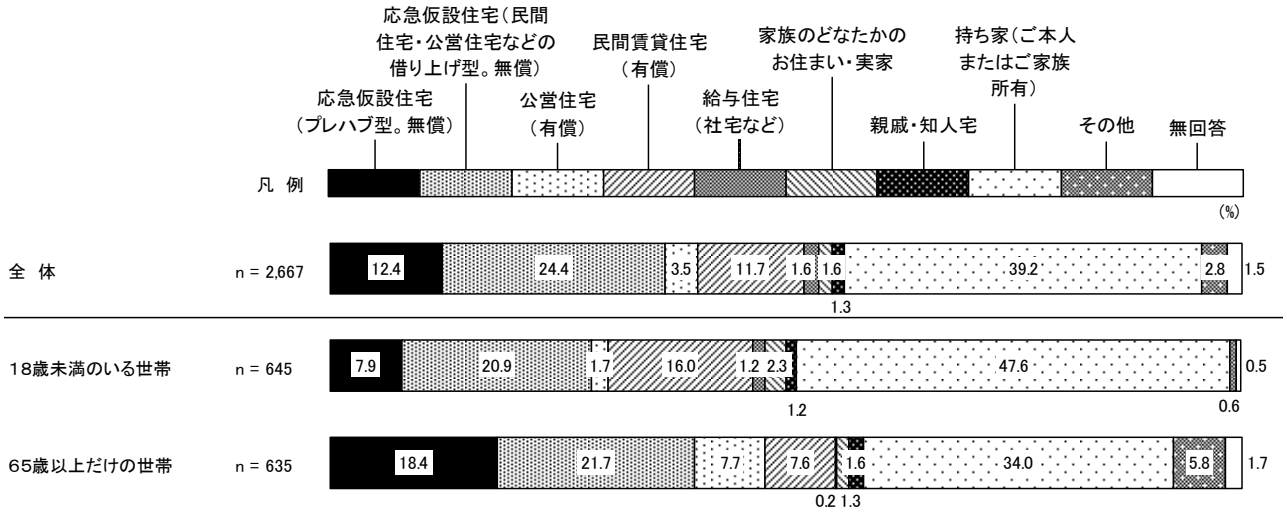
回答者の年齢別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、ほとんどの年代で最も高くなっているが、１０～２０代では「民間賃貸住宅（有償）」（41.2%）が最も高くなっている。

＜図表３－１－５－１　現在の住居形態（年齢別）＞



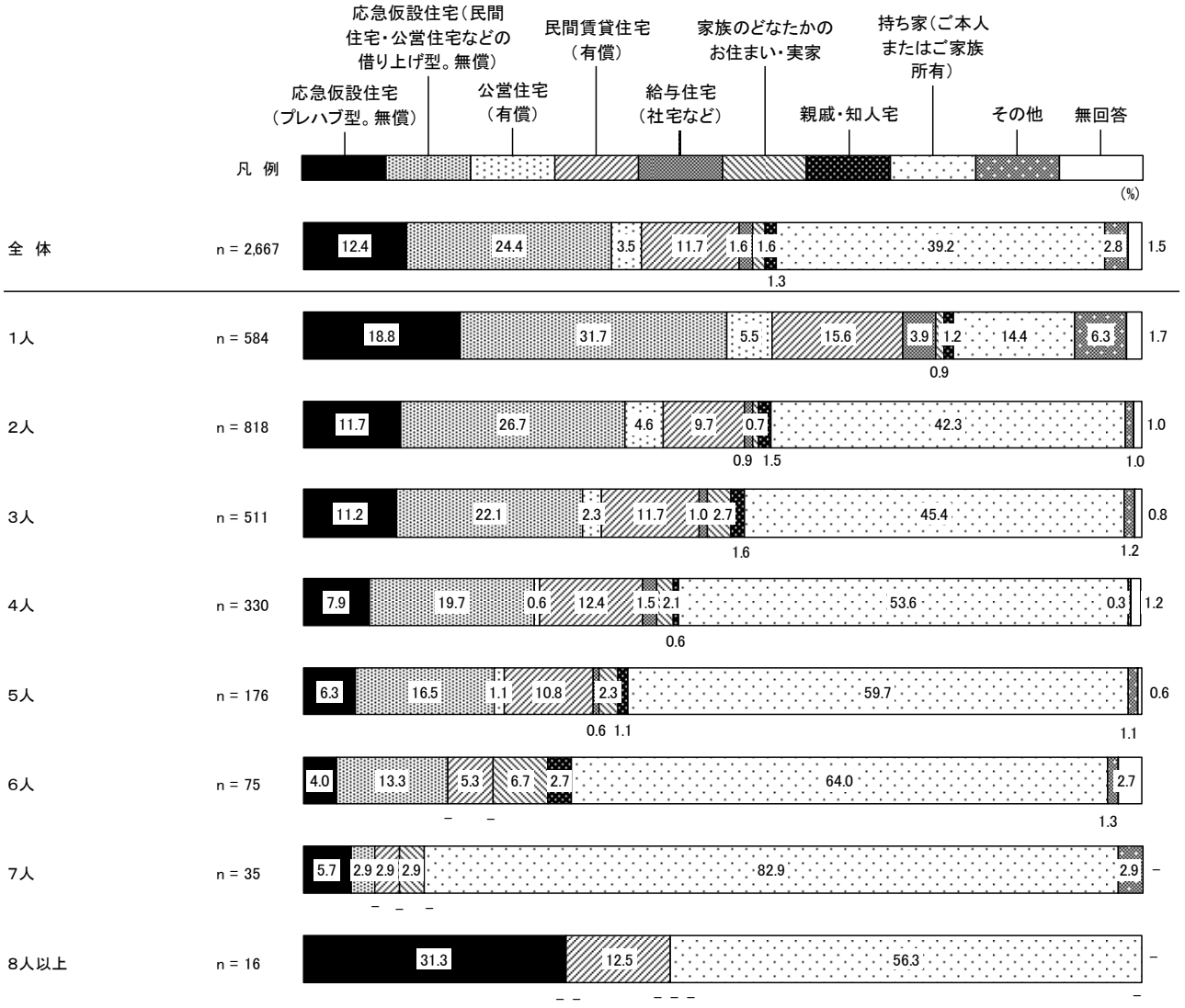
世帯構成別にみると、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は 18 歳未満のいる世帯が 47.6%と、全体の割合と比べ高くなっている。一方、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は 65 歳以上だけの世帯が 18.4%と、全体の割合と比べ高くなっている。

＜図表３－１－５－２　現在の住居形態（世帯構成別）＞



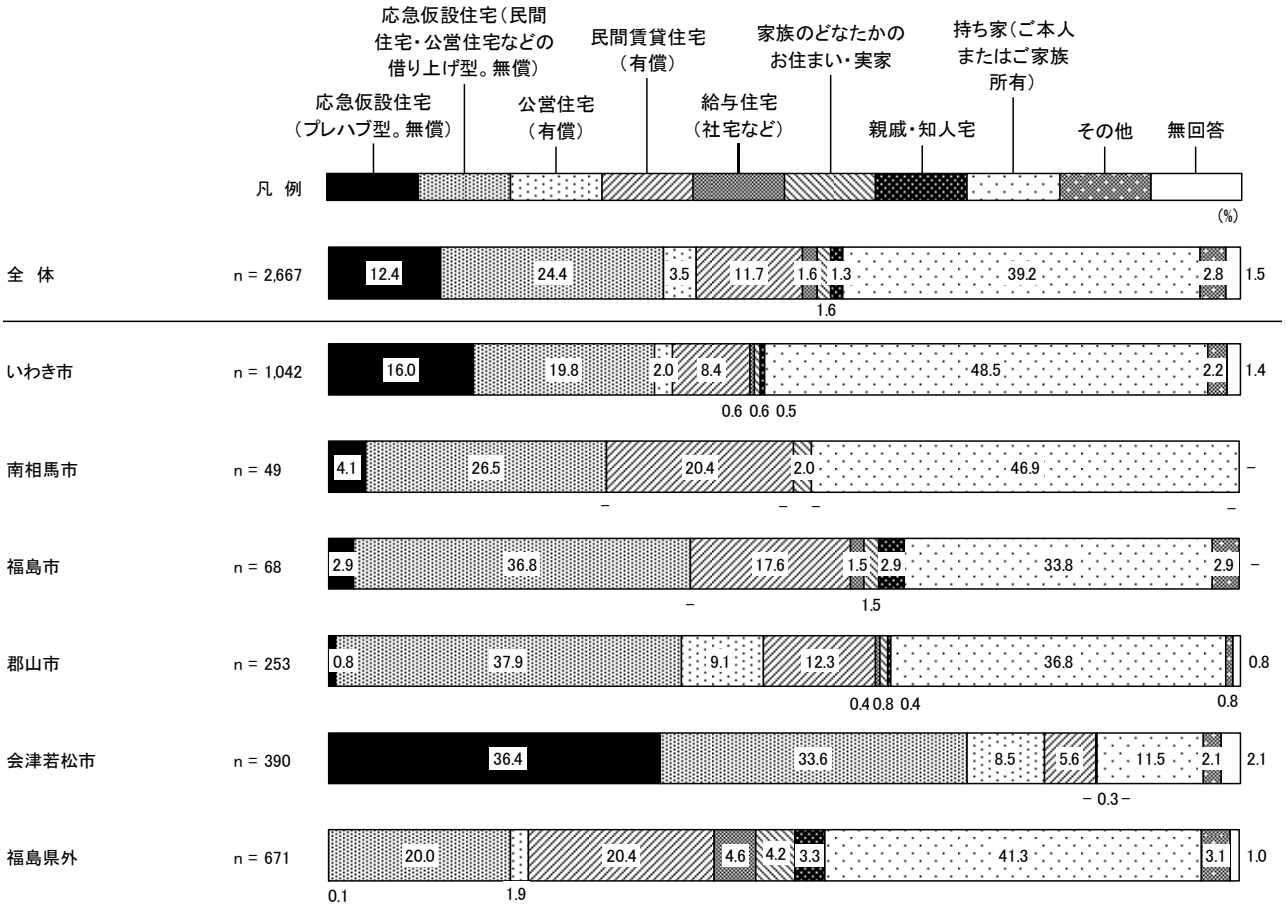
世帯人数別にみると、「応急仮設住宅（プレハブ型。無償。）」、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は世帯人数が多くなるにつれ割合が低くなり、「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は世帯人数が多くなるにつれ割合が高くなる傾向にある。

＜図表３－１－５－３　現在の住居形態（世帯人数別）＞



主な避難先自治体別にみると、「応急仮設住宅（民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償）」は、郡山市（37.9%）、福島市（36.8%）における割合が高い。「持ち家（ご本人またはご家族所有）」は、いわき市（48.5%）、南相馬市（46.9%）における割合が高い。「応急仮設住宅（プレハブ型。無償）」は、会津若松市で 36.4%、いわき市で 16.0%となっている。

＜図表３－１－５－４　現在の住居形態（主な避難先自治体別）＞



３－２　復興公営住宅の入居意向

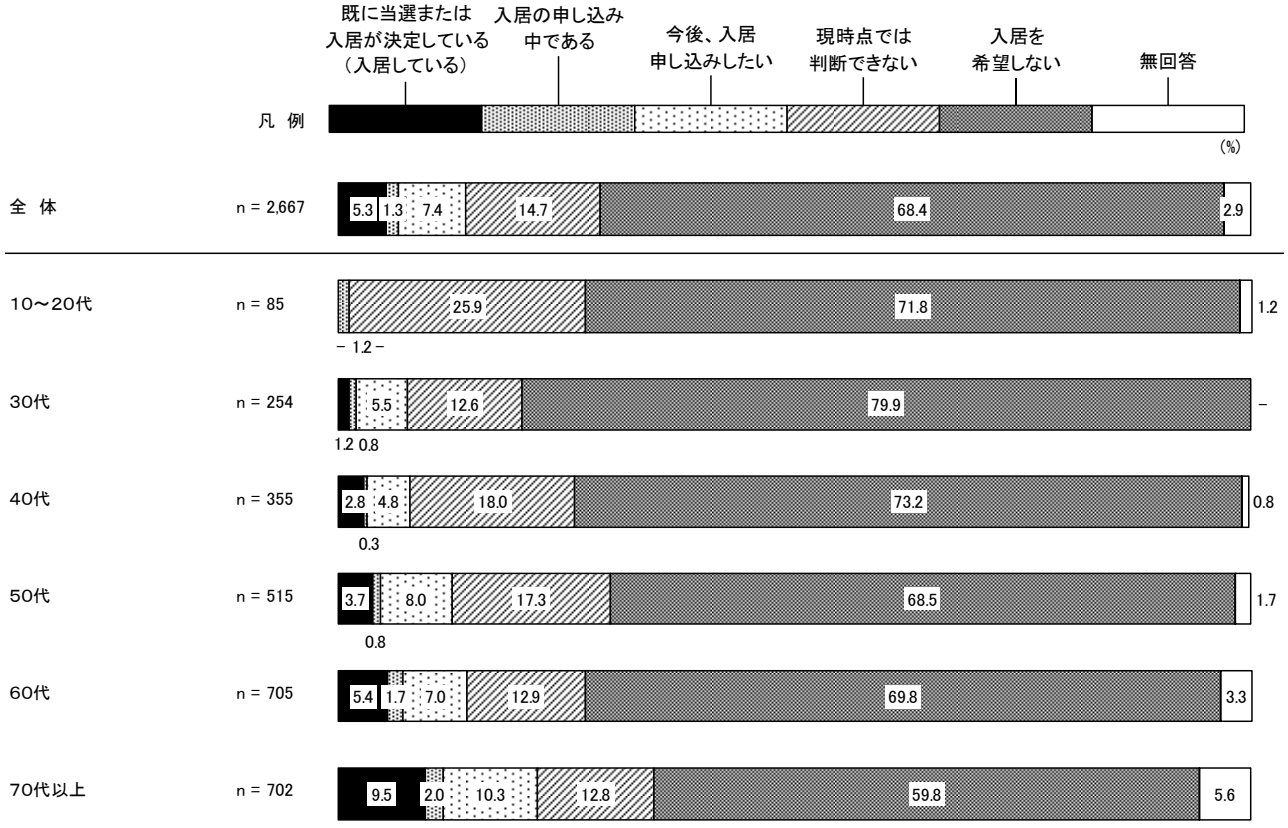
３－２－１　復興公営住宅への入居意向

問８　現在、福島県は別紙に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたの世帯は、復興公営住宅への入居を希望しますか。（○は１つ）

復興公営住宅への入居意向については、入居を希望しない世帯が 68.4%と最も高く、次いで現時点では判断できない世帯が 14.7%、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」、「入居の申し込み中である」、「今後、入居の申し込みをしたい」）が 14.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、入居意向のある世帯は、年齢が高くなるにつれ割合が高くなっている。

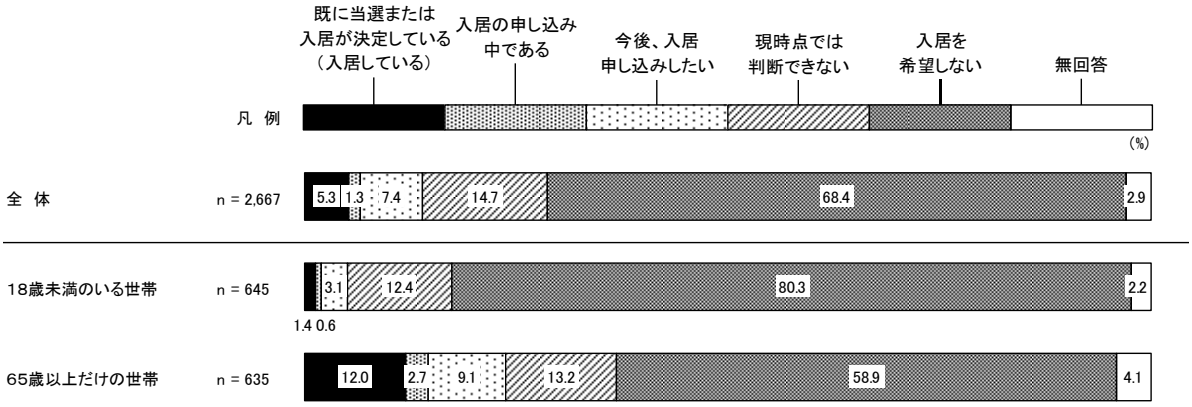
＜図表３－２－１－１　復興公営住宅への入居意向（年齢別）＞



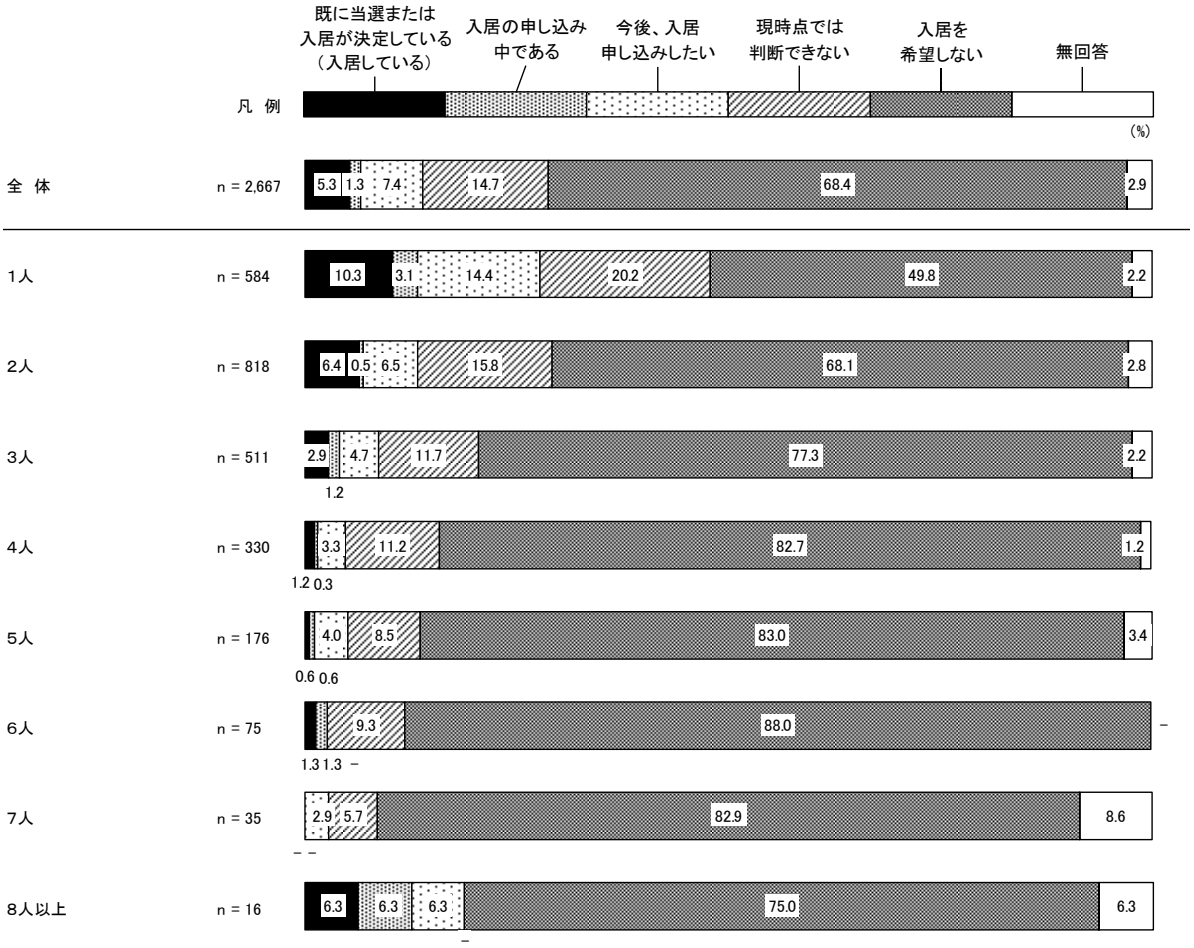
世帯構成別にみると、入居を希望しない世帯は１８歳未満のいる世帯で 80.3%と、全体の割合と比べ高くなっている。一方、入居意向のある世帯（「既に当選または入居が決定している」、「入居の申し込み中である」、「今後、入居の申し込みをしたい」）は６５歳以上だけの世帯で 23.8%と、全体の割合と比べ高くなっている。

世帯人数別にみると、入居を希望しない割合は世帯人数が多いほど概ね高い傾向にある。一方、入居意向のある世帯は１人の世帯が 27.8%と最も高い。

＜図表３－２－１－２　復興公営住宅への入居意向（世帯構成別）＞

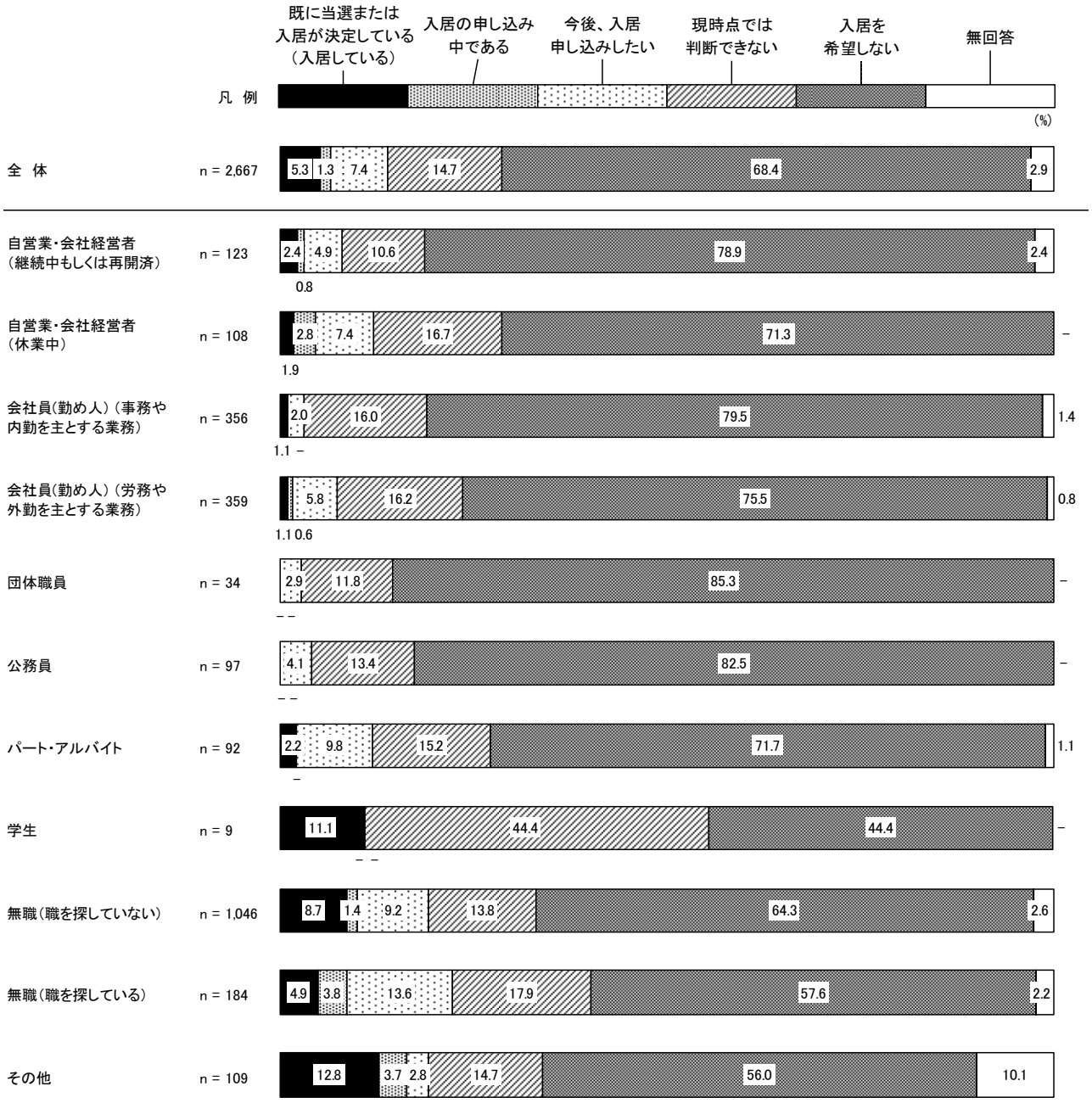


＜図表３－２－１－３　復興公営住宅への入居意向（世帯人数別）＞



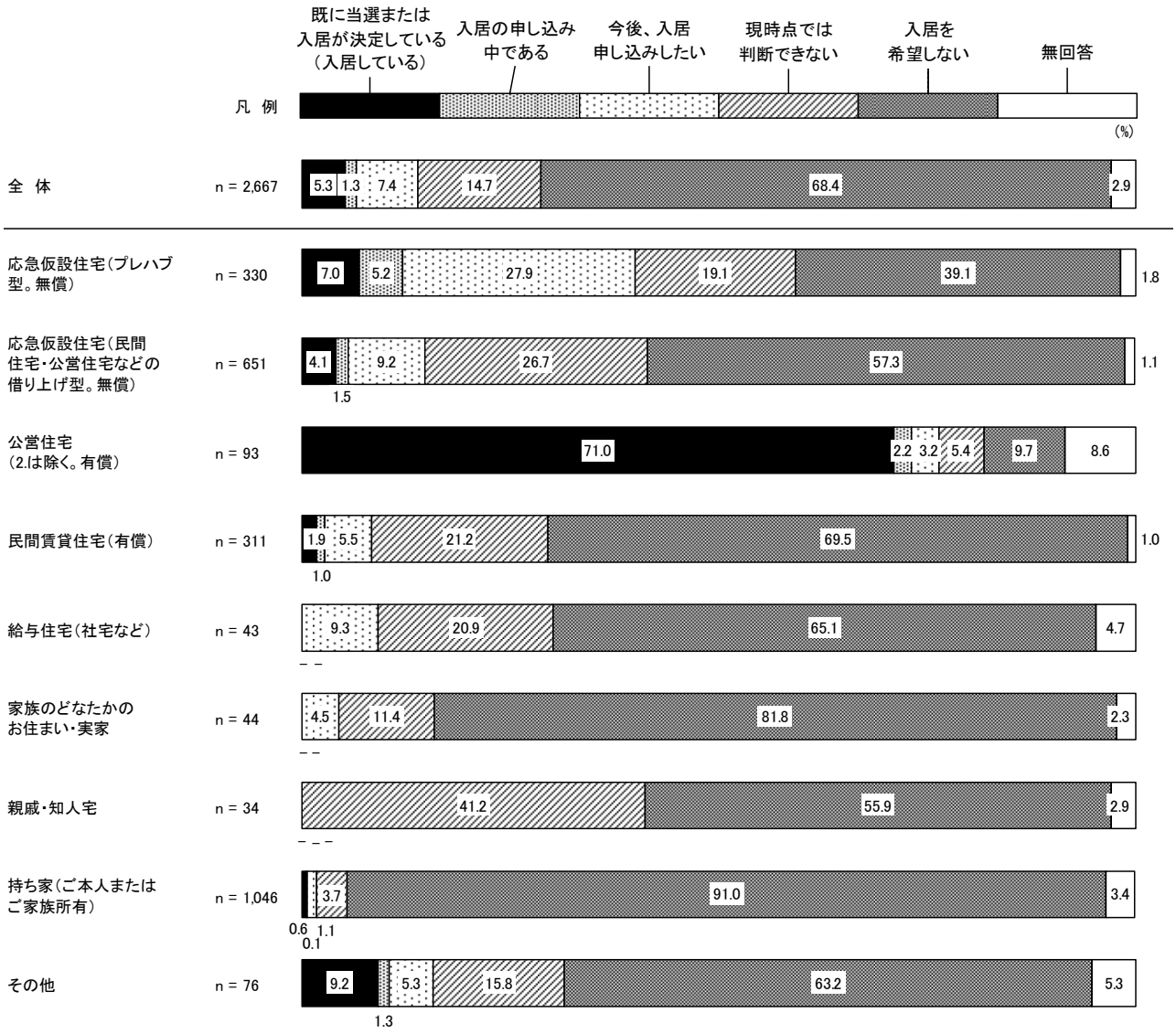
職業別にみると、入居意向のある世帯は無職（職を探している）（22.3%）、その他（19.3%）、無職（職を探していない）（19.3%）が、他の職業と比べ高くなっている。

＜図表３－２－１－４　復興公営住宅への入居意向（職業別）＞



現在の住居形態別にみると、入居意向のある世帯は、応急仮設住宅（プレハブ型。無償）（40.1%）が他の住居形態と比べ高くなっている。

＜図表３－２－１－５　復興公営住宅への入居意向（現在の住居形態別）＞



３－２－２　復興公営住宅への入居を希望する自治体と世帯構成

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している（入居している）方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問８で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問８－１　入居が決定している（入居している）、入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域（自治体名）、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

※家族が多い等の理由により、復興公営住宅を２戸借りられる方（希望も含む。）は、＜２世帯目＞の列にもお答えください。

※現在ご一緒にお住まいの家族についてご記入ください。

＜１世帯目＞

（１）自治体名を教えてください。（○は１つ）

（２）入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

＜２世帯目＞

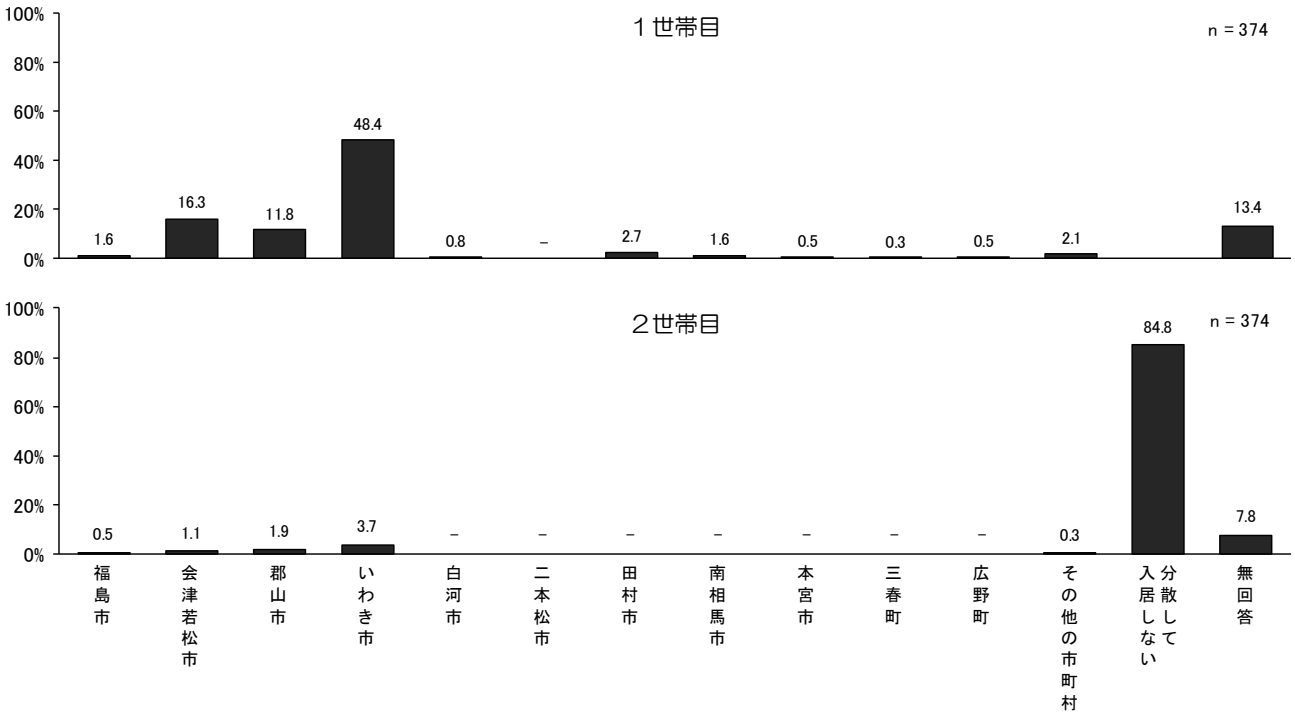
（１）自治体名を教えてください。（○は１つ）

（２）入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

＜１世帯目＞の復興公営入居への入居を希望する自治体については、「いわき市」が 48.4%と最も高く、次いで「会津若松市」が 16.3%、「郡山市」が 11.8%となっている。

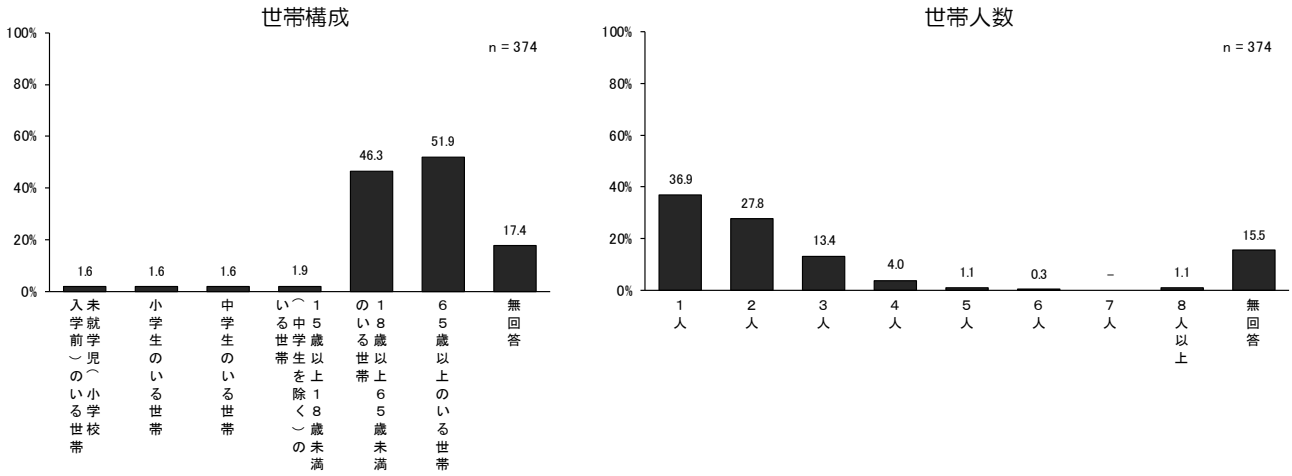
＜２世帯目＞の復興公営住宅への入居を希望する自治体については、「いわき市」が 3.7%と最も高く、次いで「郡山市」が 1.9%、「会津若松市」が 1.1%となっている。

＜図表３－２－２－１　復興公営住宅への入居を希望する自治体＞

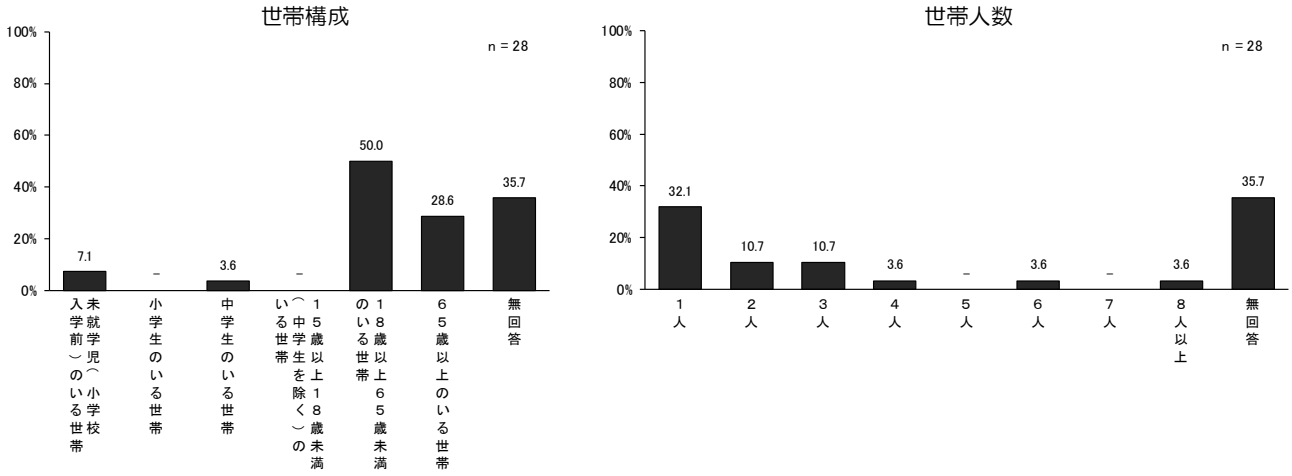


復興公営住宅への入居を希望する世帯構成（１世帯目）については、「１８歳以上６５歳未満のいる世帯」が 46.3%、「６５歳以上のいる世帯」が 51.9%となっている。一方、18 歳未満のいる世帯はいずれも 2%以下となっている。入居を希望する世帯人数（１世帯目）については、「1 人」が 36.9%で最も高く、次いで「2 人」が 27.8%、「３人」が 13.4%となっている。

＜図表３－２－２－２　復興公営住宅への入居を希望する世帯構成・人数（１世帯目）＞

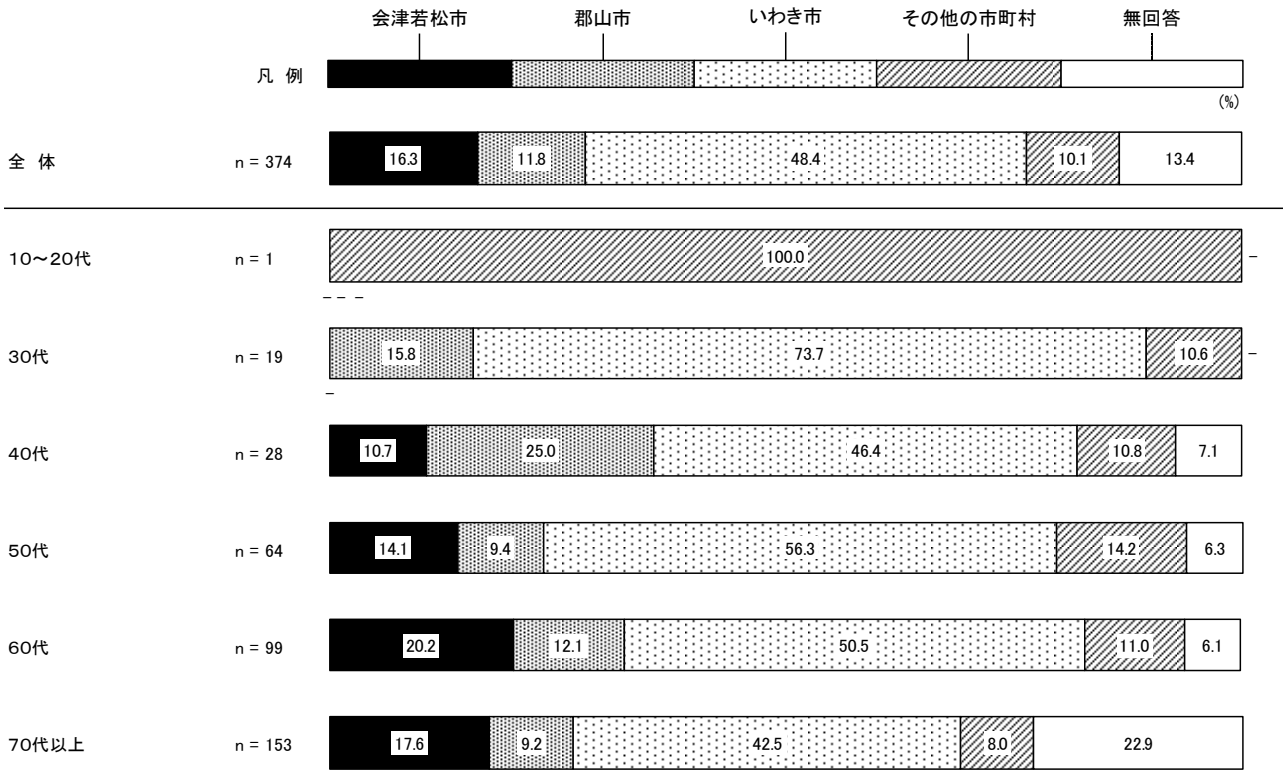


＜図表３－２－２－３　復興公営住宅への入居を希望する世帯構成・人数（２世帯目）＞



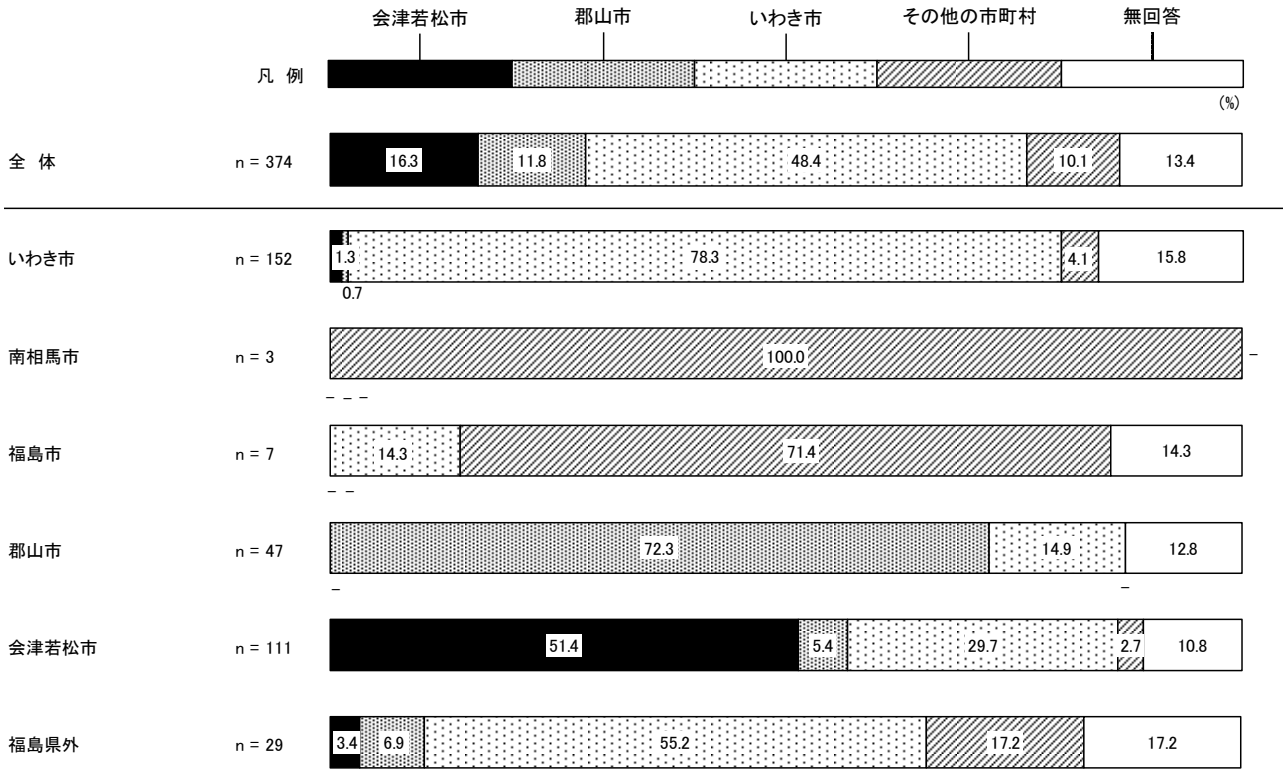
＜１世帯目＞の復興公営住宅への入居を希望する主な自治体について、回答者の年齢別にみると、全ての年齢で「いわき市」の割合が最も高くなっている。

＜図表３－２－２－４　復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（１世帯目）（年齢別）＞



＜１世帯目＞の復興公営住宅への入居を希望する主な自治体について、主な避難先自治体別にみると、いずれの自治体でも避難先の自治体に入居を希望する割合が高いが、福島県以外に避難している世帯では、「いわき市」が 55.2%となっている。

＜図表３－２－２－５　復興公営住宅への入居を希望する主な自治体（１世帯目）（主な避難先自治体別）＞



３－２－３　復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス

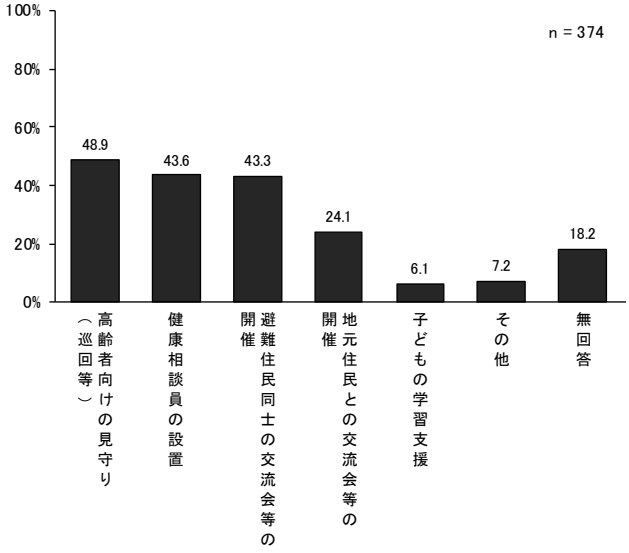
【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問８で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問８―２　復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（○は３つまで）

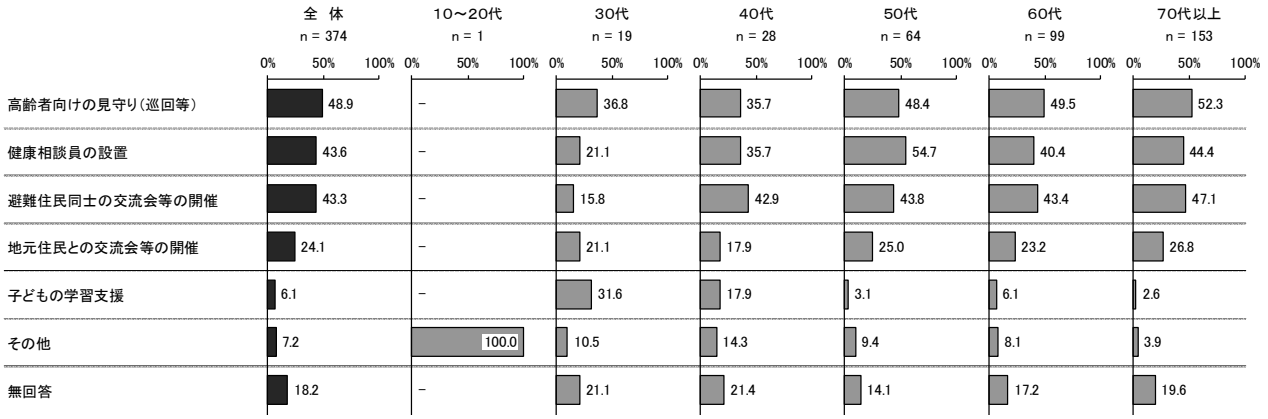
復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービスについては、「高齢者向けの見守り（巡回等）」が48.9%と最も高く、次いで「健康相談員の設置」が 43.6%、「避難住民同士の交流会等の開催」が 43.3%となっている。

回答者の年齢別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は 70 代以上が 52.3%、「健康相談員の設置」は 50 代が 54.7%と、他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表３－２－３－１　復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス＞



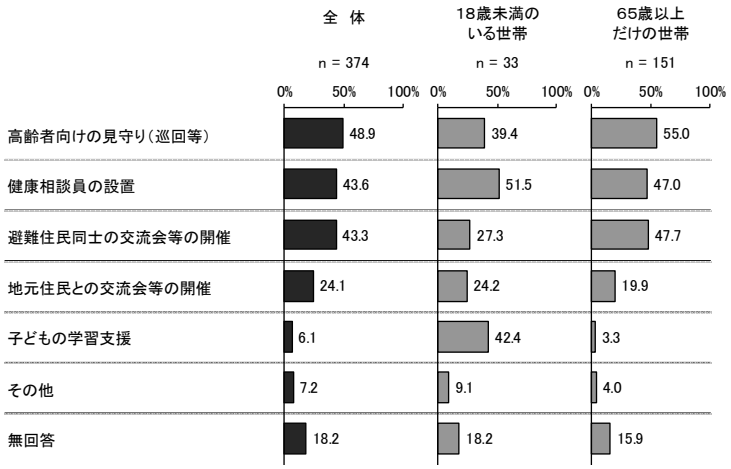
＜図表３－２－３－２　復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス（年齢別）＞



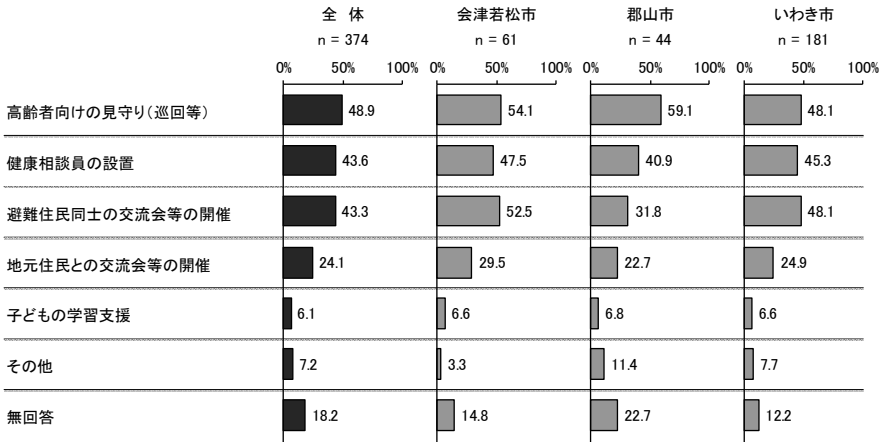
世帯構成別にみると、「高齢者向けの見守り（巡回等）」は 65 歳以上だけの世帯が 55.0%と、全体の割合と比べ高くなっている。また、「子どもの学習支援」は 18 歳未満のいる世帯が 42.4%と、全体の割合と比べ高くなっている。

入居を希望する主な自治体別にみると、いずれも「高齢者向けの見守り（巡回等）」が最も高くなっている。また、「避難住民同士の交流会等の開催」は会津若松市で 52.5%、いわき市で 48.1%となっている。

＜図表３－２－３－３　復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス（世帯構成別）＞



＜図表３－２－３－４　復興公営住宅に入居する場合に必要と考えるサービス（入居を希望する主な自治体別）＞

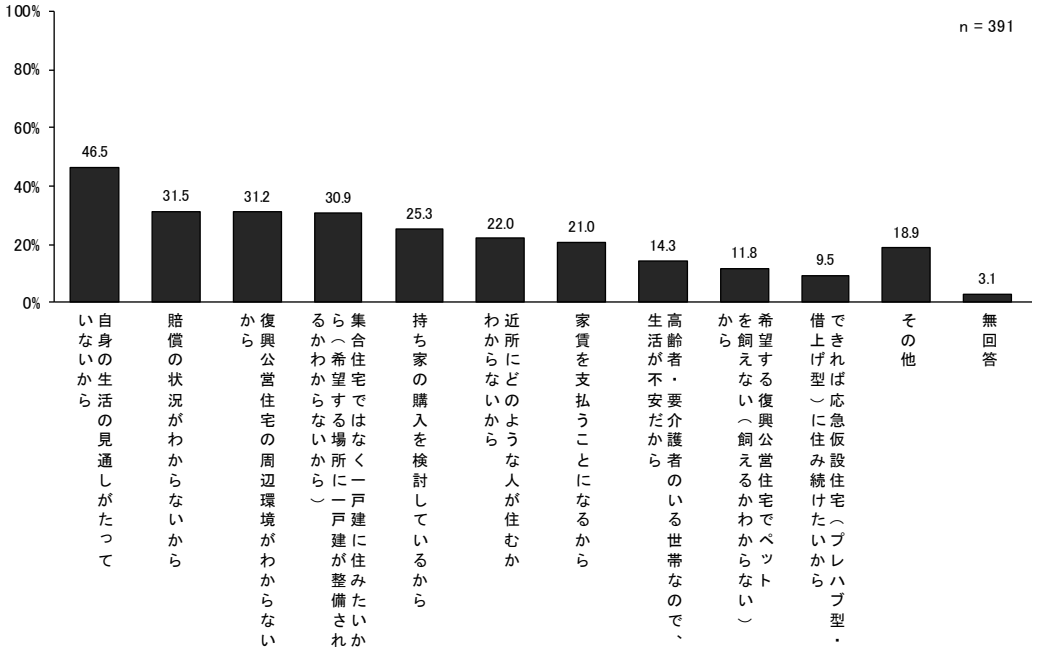


３－２－４　復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由

【問８で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】
問８―３　復興公営住宅への入居について、現時点で判断できない理由は何ですか。（○はいくつでも）

復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由については、「自身の生活の見通しがたっていないから」が 46.5%と最も高く、次いで「賠償の状況がわからないから」が 31.5%、「復興公営住宅の周辺環境がわからないから」が 31.2%となっている。

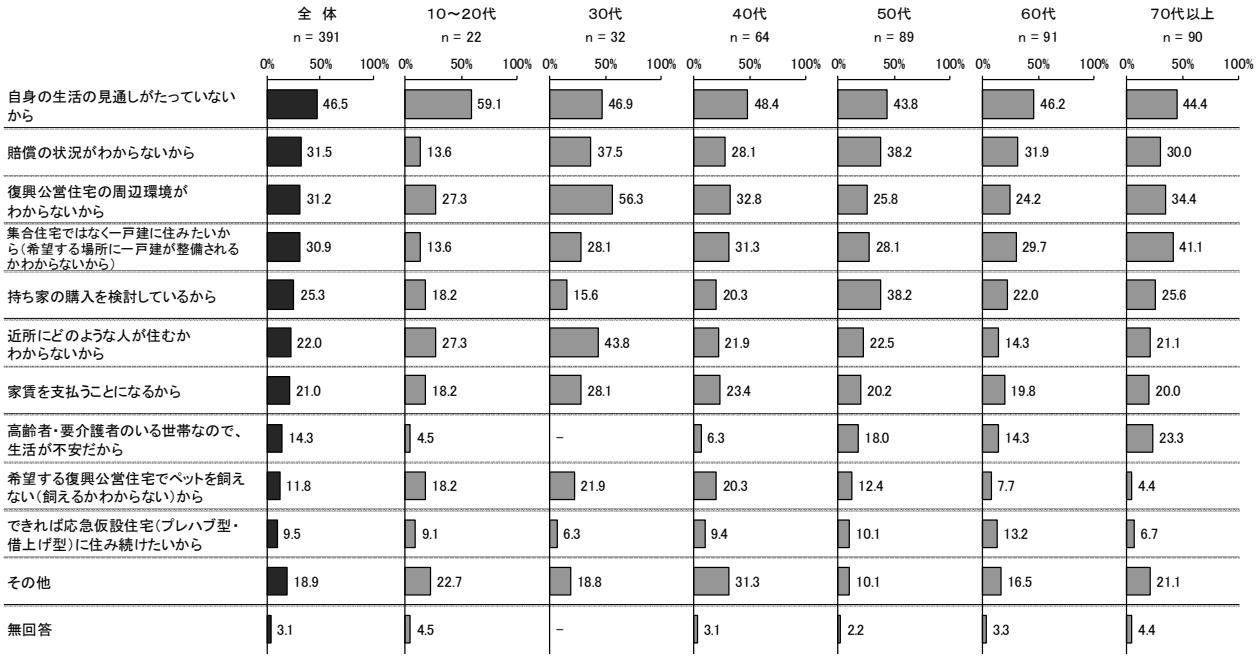
＜図表３－２－４－１　復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由＞



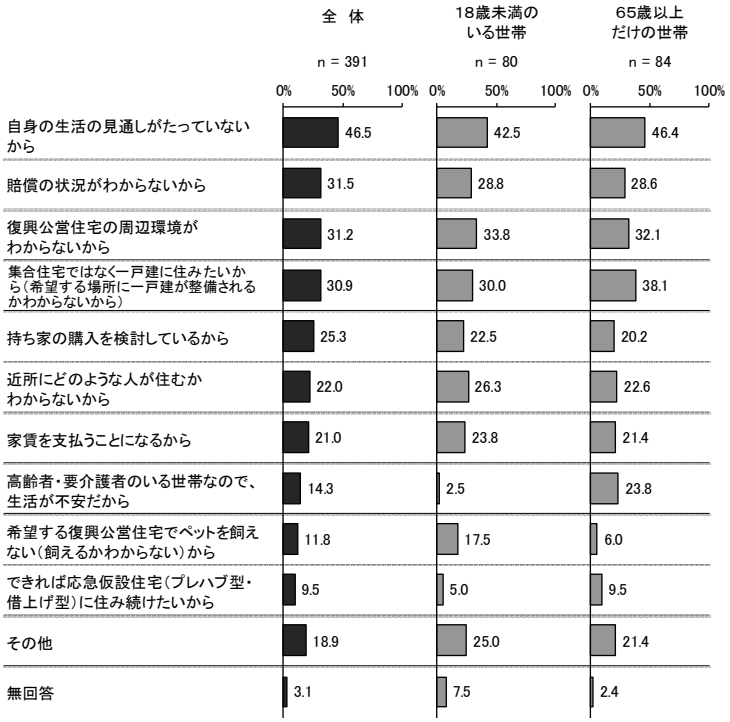
回答者の年齢別にみると、30 代では「復興公営住宅の周辺環境がわからないから」が 56.3%、「近所にどのような人が住むかわからないから」が 43.8%、50 代では「持家の購入を検討しているから」が 38.2%、70 代以上では「集合住宅ではなく一戸建に住みたいから（希望する場所に一戸建が整備されるかわからないから）」が 41.1%と、他の年齢と比べ高くなっている。

世帯構成別にみると、「高齢者・要介護者のいる世帯なので、生活が不安だから」は、65 歳以上だけの世帯が 23.8%と、全体の割合と比べ高くなっている。また、「希望する復興公営住宅でペットを飼えない（飼えるかわからない）から」は 18 歳未満のいる世帯が 17.5%と、全体の割合と比べ高くなっている。

＜図表３－２－４－２　復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由（年齢別）＞



＜図表３－２－４－３　復興公営住宅への入居を現時点で判断できない理由（世帯構成別）＞



３－２－５　復興公営住宅へ入居しない場合に希望する住居形態

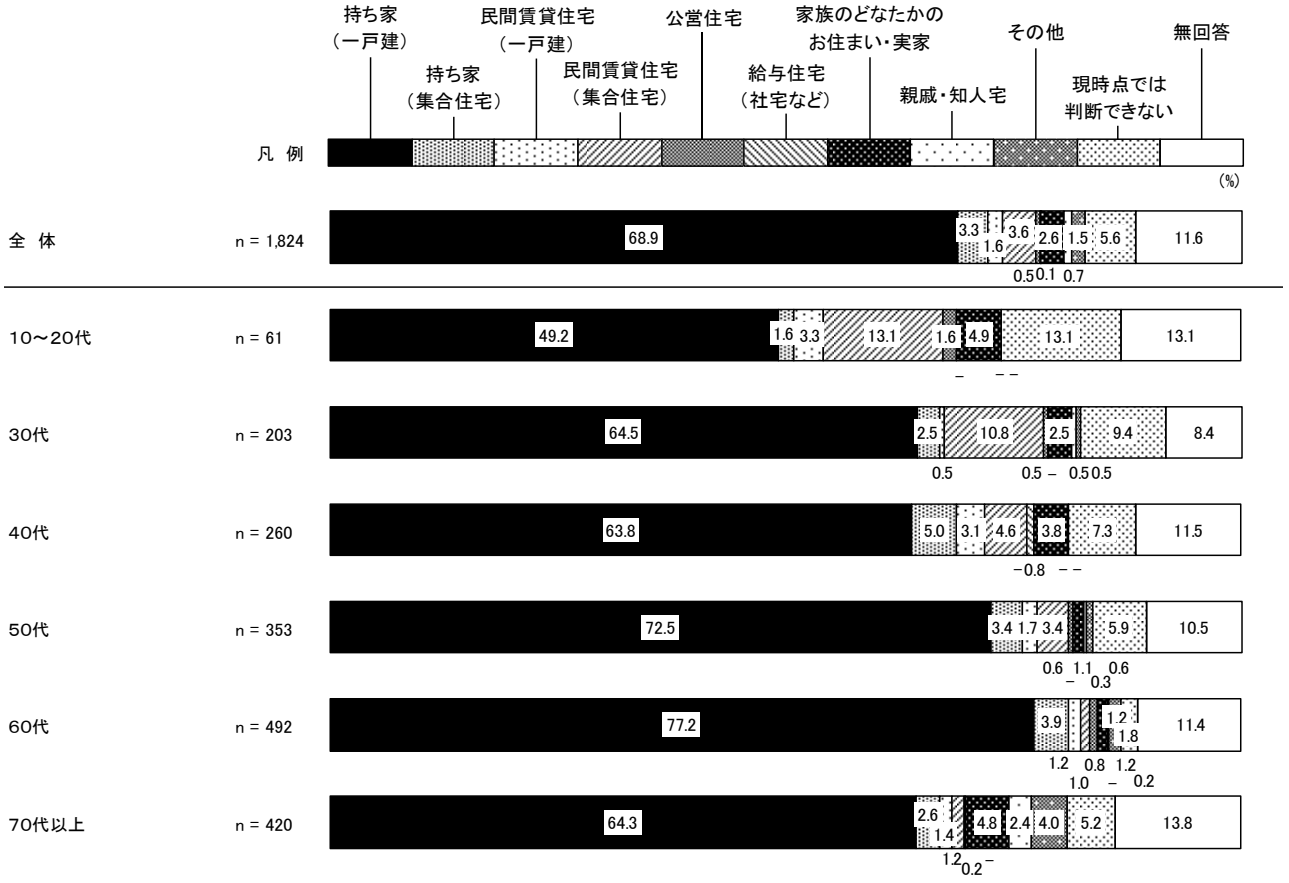
【問８で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問８―５　今後のお住まいとして、（現在、応急仮設住宅（プレハブ型・借上げ型）にお住まいの方は、いずれ制度が終了した場合、）希望する（既に居住している場合を含む）住宅はどのような形態ですか。（○は１つ）

復興公営住宅へ入居を希望しない場合に希望する住居形態については、「持ち家（一戸建）」が 68.9%と最も高く、次いで「現時点では判断できない」が 5.6%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 3.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は、いずれの年齢でも高い割合であり、50 代（72.5%）、60 代（77.2%）では７割を超えている。「民間賃貸住宅（集合住宅）」は 10～20 代で 13.1%、30 代で 10.8%と他の年齢と比べ高くなっている。

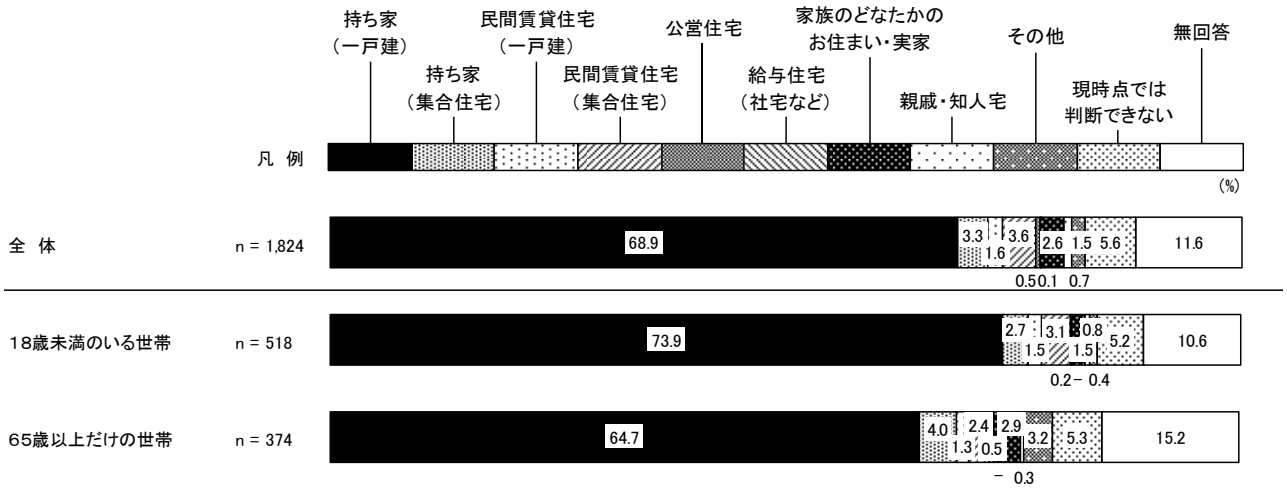
＜図表３－２－５－１　入居を希望しない場合に希望する住居形態（年齢別）＞



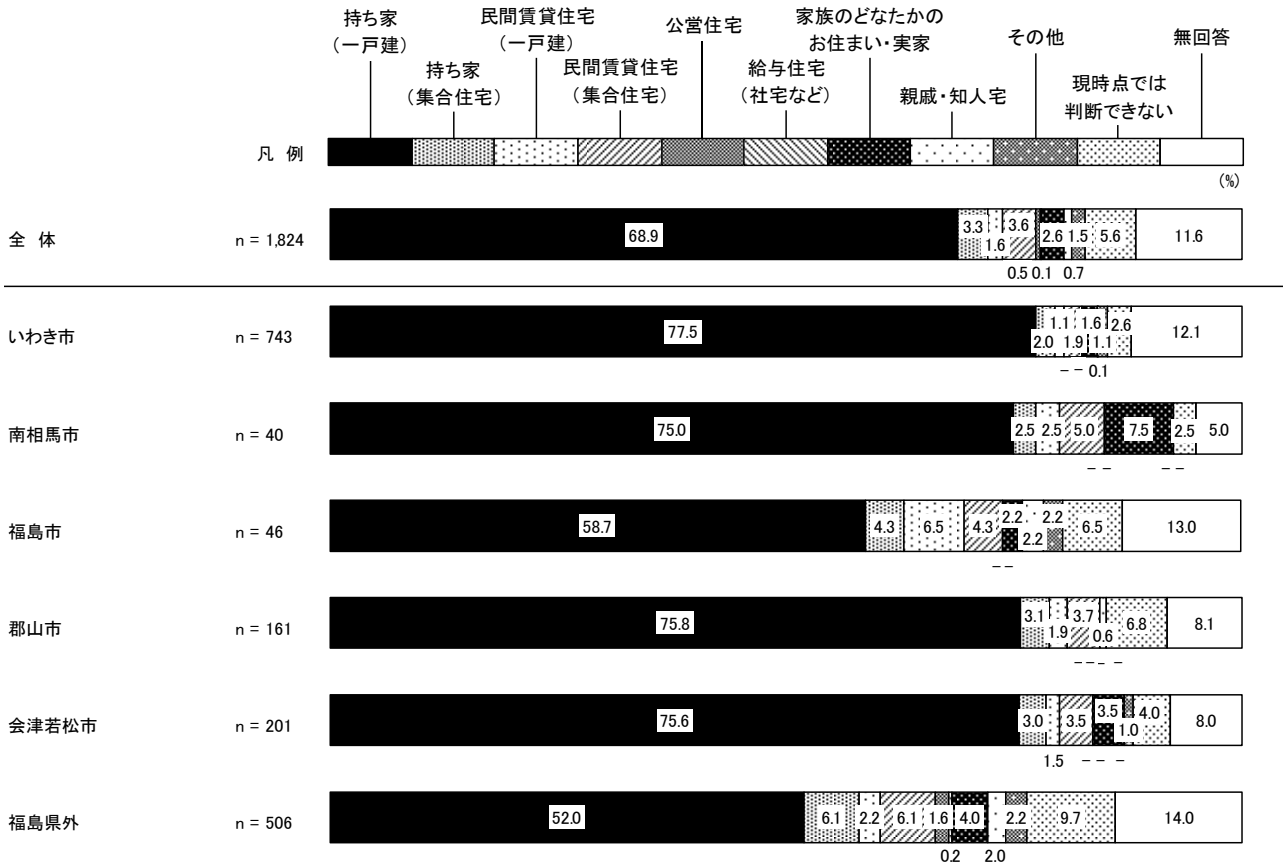
世帯構成別にみると、全体と同様の傾向にあり、「持ち家（一戸建）」が高い割合となっている。

主な避難先自治体別にみると、「持ち家（一戸建）」は福島市（58.7%）、福島県外（52.0%）で６割を下回り、他の自治体と比べ低くなっている。

＜図表３－２－５－２　入居を希望しない場合に希望する住居形態（世帯構成別）＞



＜図表３－２－５－３　入居を希望しない場合に希望する住居形態（主な避難先自治体別）＞

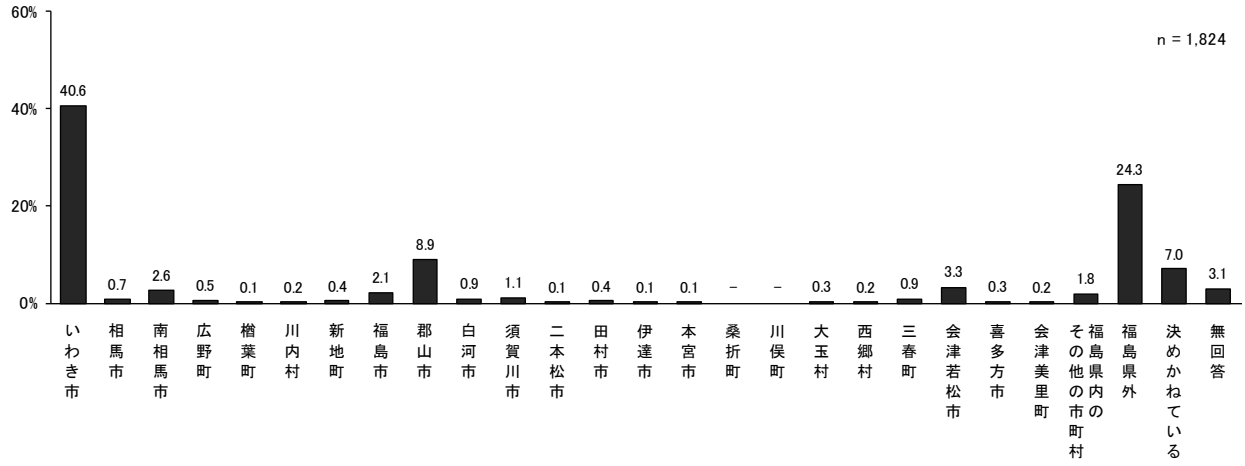


３－２－６　復興公営住宅への入居を希望しない場合に居住したい自治体

【問８で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】
問８―４　入居を希望しない場合に、居住を希望する（既に居住している場合をお含む）自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。（◯は１つ）

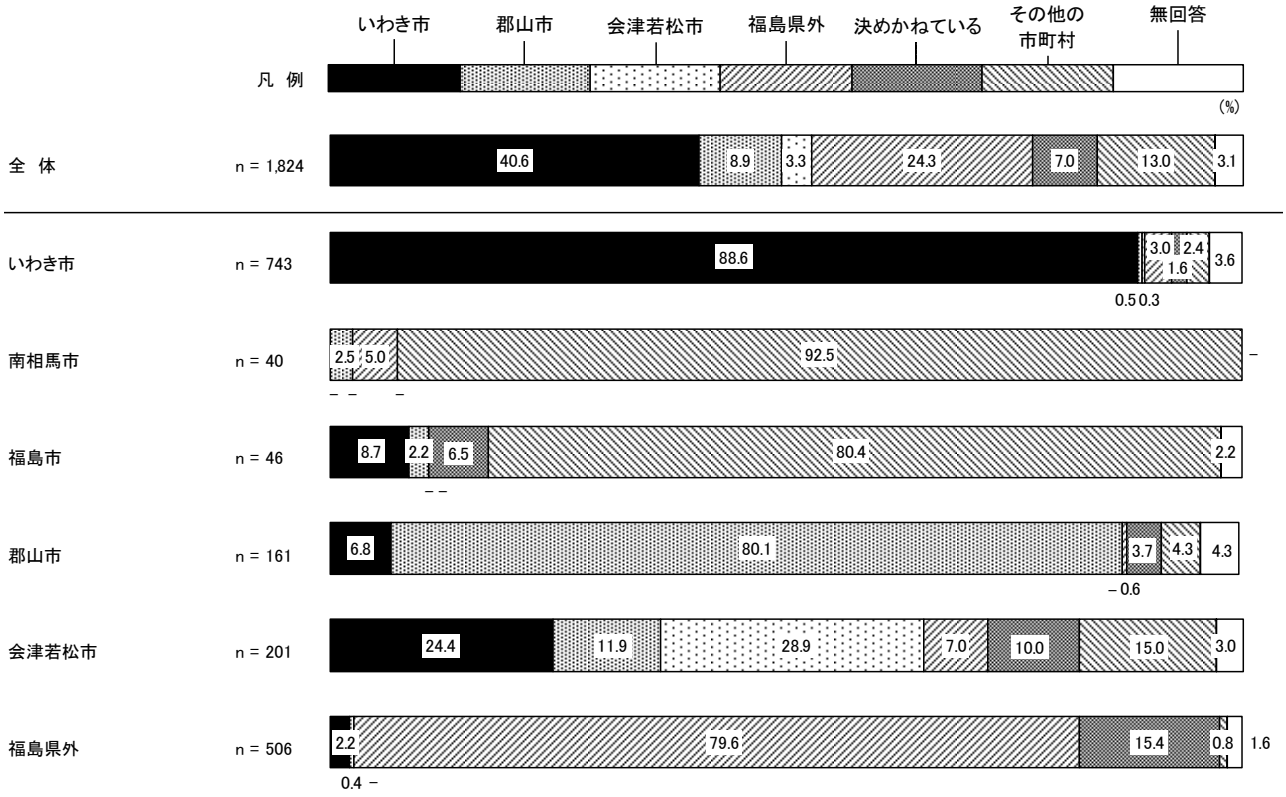
復興公営住宅に入居を希望しない場合に居住したい自治体については、「いわき市」が 40.6%と最も高く、次いで「福島県外」が 24.3%、「郡山市」が 8.9%となっている。

＜図表３－２－６－１　入居を希望しない場合に居住したい自治体＞



主な避難先自治体別にみると、現在いわき市に避難している世帯の 88.6%が同じ「いわき市」へ、現在郡山市に避難している世帯の 80.1%が同じ「郡山市」への転居を希望しており、会津若松市（28.9%）と比べ同じ自治体への転居を希望する割合が高くなっている。一方、福島県外に避難している世帯の 79.6%が福島県外への転居を希望しているが、「決めかねている」と回答した世帯も 15.4%と、他の避難先自治体と比べ高くなっている。

＜図表３－２－６－２　入居を希望しない場合に居住したい主な自治体（主な避難先自治体別）＞



３－３　将来の意向

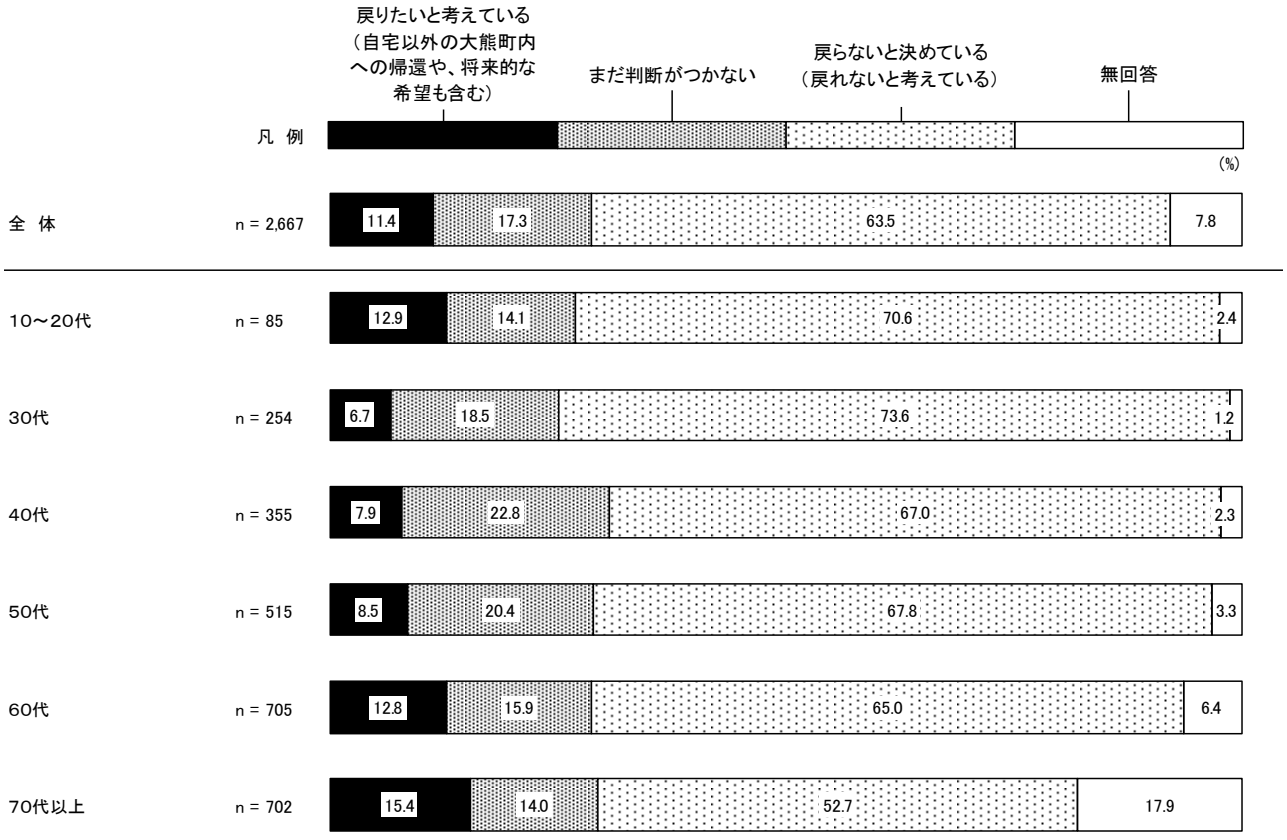
３－３－１　大熊町への帰還意向

問９　将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、現時点でどのようにお考えですか。
「1」から「3」の中から一つ選び、それぞれの質問にお答えください。（○は１つ）

将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還意向については、「戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」が 11.4%、「まだ判断がつかない」が 17.3%、「戻らないと決めている（戻れないと考えている）」が 63.5%となっている。

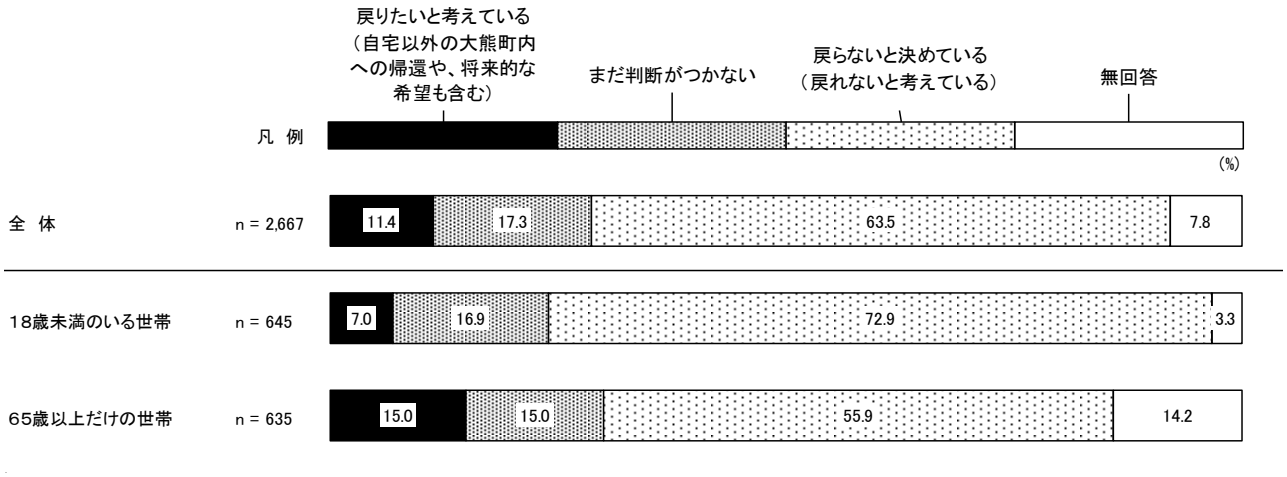
回答者の年齢別にみると、「戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」は、１０～２０代が 12.9%と、全体の割合と比べ高くなっている。また 30 代以降、年齢が高くなるにつれ高くなり、７０代以上では 15.4%となっている。

＜図表３－３－１－１　大熊町への帰還意向（年齢別）＞



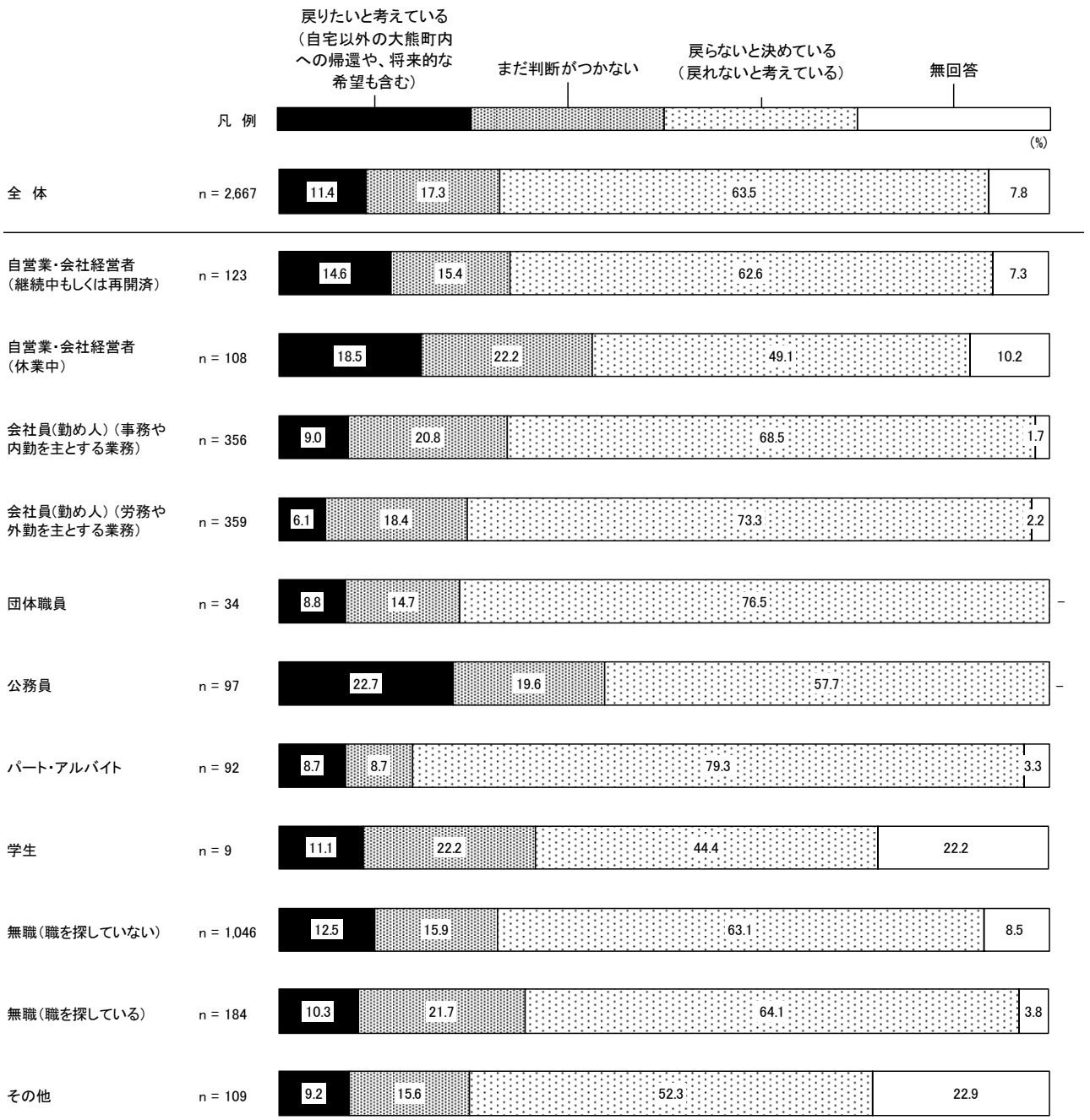
世帯構成別にみると、「戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」は、６５歳以上だけの世帯では 15.0%と、全体の割合と比べ高くなっている。

＜図表３－３－１－２　大熊町への帰還意向（世帯構成別）＞



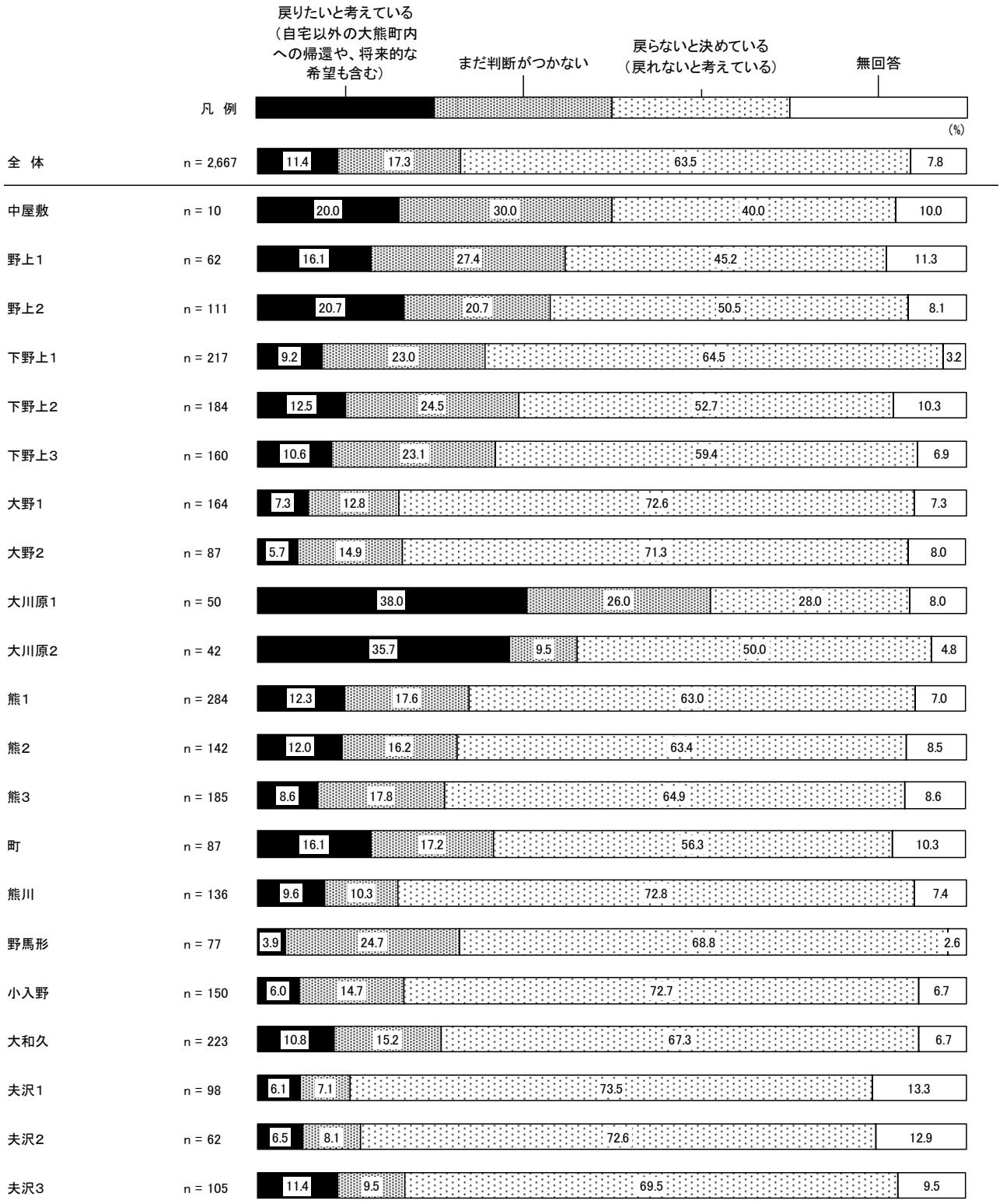
職業別にみると、「戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」は、公務員が 22.7%、自営業・会社経営者（休業中）が 18.5%と、他の職業と比べ高くなっている。一方、「戻らないと決めている（戻れないと考えている）」はパート・アルバイトが 79.3%、団体職員が 76.5%、会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）が 73.3%と、他の職業と比べ高くなっている。

＜図表３－３－１－３　大熊町への帰還意向（職業別）＞



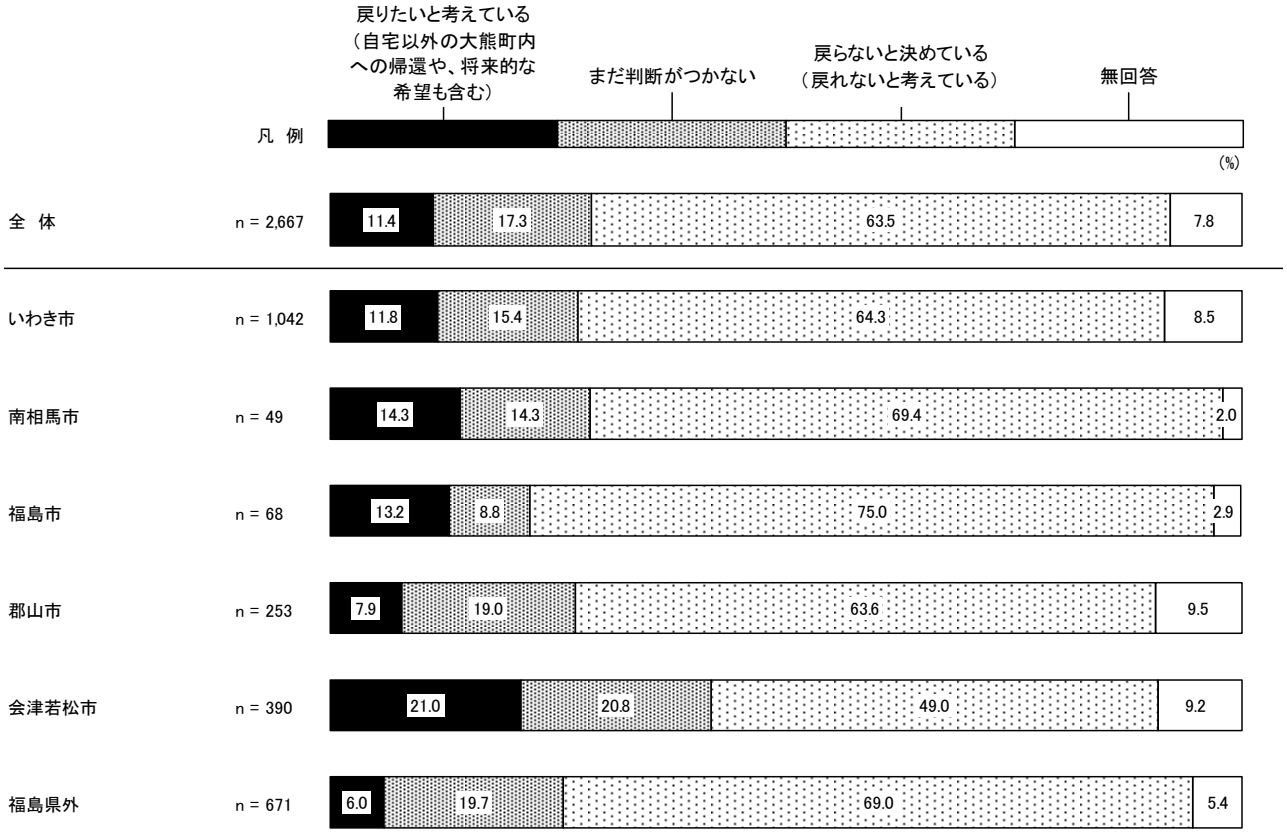
震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」は大川原１（38.0%）、大川原２（35.7%）が、他の行政区と比べ高くなっている。

＜図表３－３－１－４　大熊町への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区別）＞



主な避難先自治体別にみると、「戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」は、会津若松市で 21.0%と、他の避難先自治体と比べ高くなっている。「戻らないと決めている（戻れないと考えている）」は、福島市で 75.0%と、他の避難先自治体と比べ高くなっている。

＜図表３－３－１－５　大熊町への帰還意向（主な避難先自治体別）＞

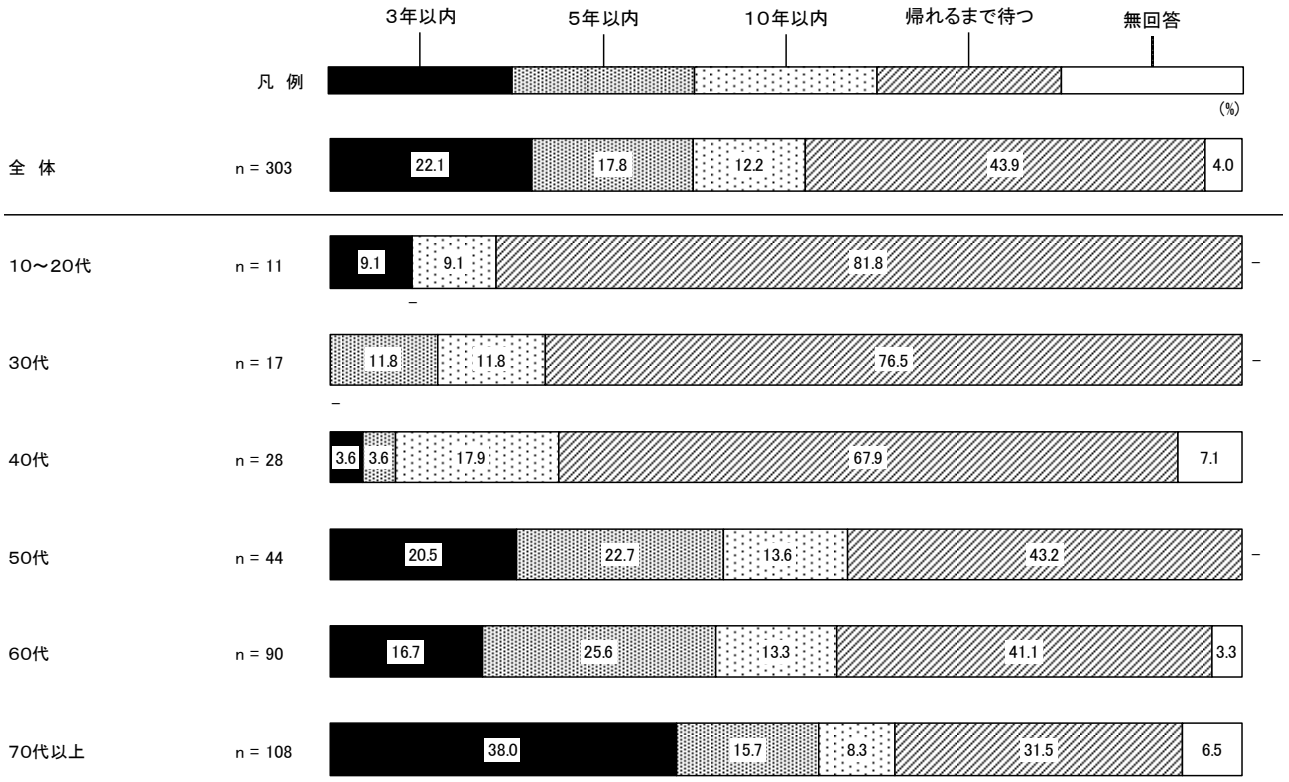


３－３－２　大熊町への帰還時期

【問９で「１. 戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】
問９－１－１　何年以内であれば待てますか。（○は１つ）

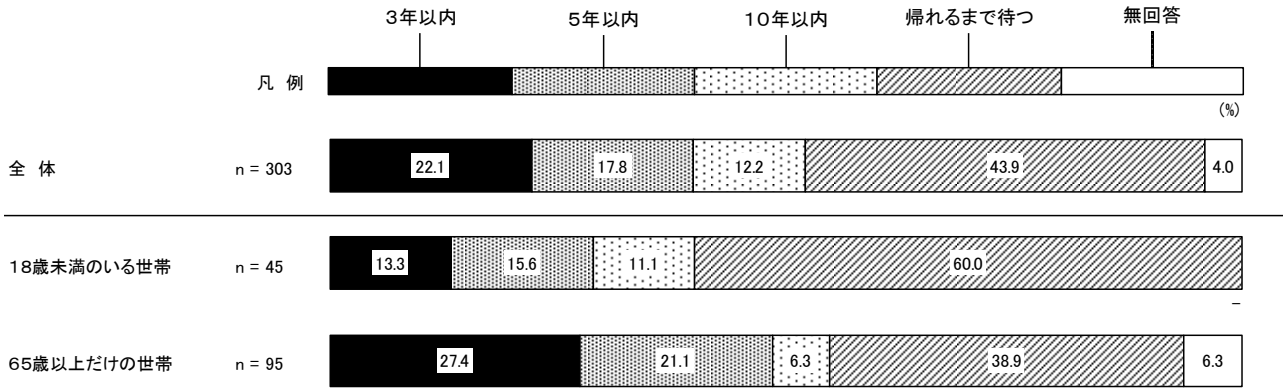
大熊町へ戻る場合の帰還時期については、「帰れるまで待つ」が 43.9%と最も高く、次いで「3 年以内」が 22.1%、「5 年以内」が 17.8%となっている。
回答者の年齢別にみると、70 代以上では「3 年以内」が 38.0%と、他の年齢と比べ特に高くなっている。

＜図表３－３－２－１　大熊町への帰還時期（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「帰れるまで待つ」は 18 歳未満のいる世帯が６割を占める。一方、「3 年以内」は 65 歳以上だけの世帯が 27.4%、18 歳未満のいる世帯が 13.3%となっている。

＜図表３－３－２－２　大熊町への帰還時期（世帯構成別）＞



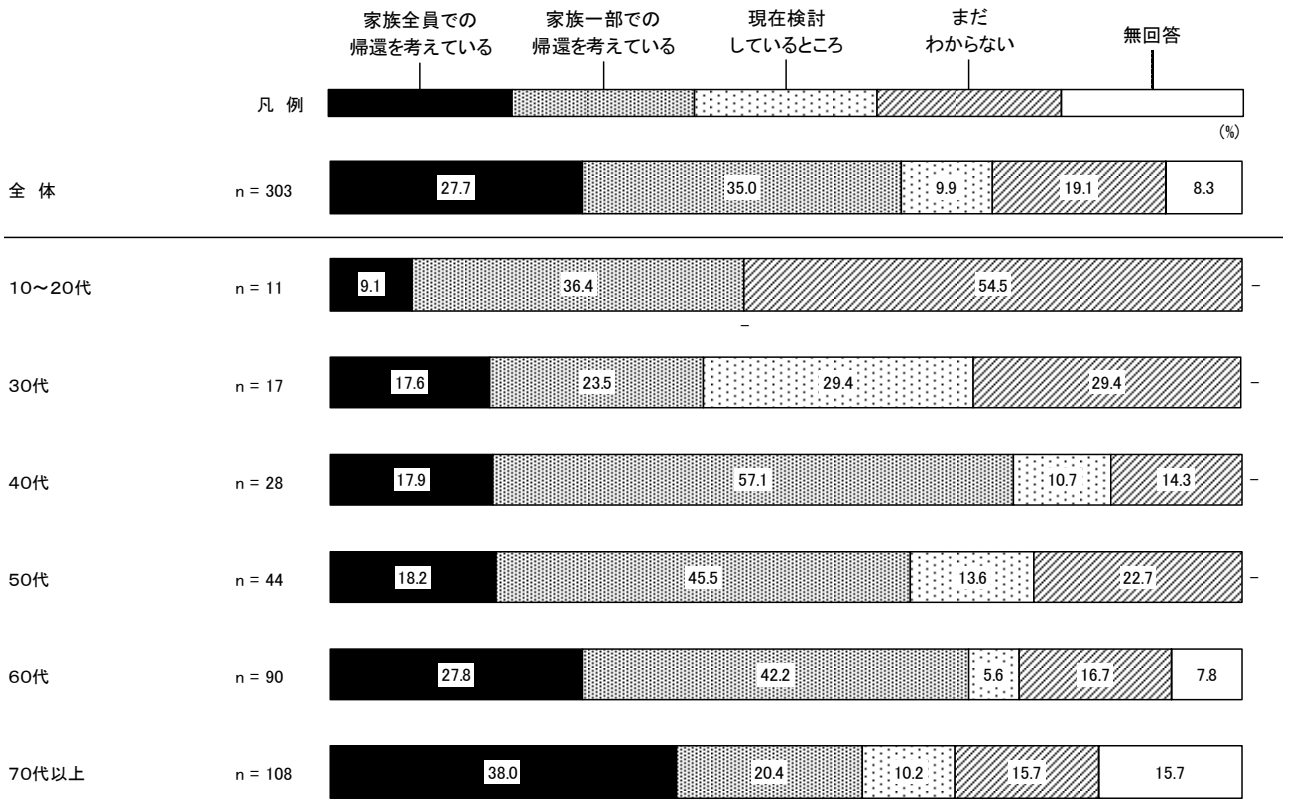
３－３－３　大熊町へ戻る場合の家族

【問９で「１. 戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】
問９－１－２　戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（○は１つ）

大熊町への戻る場合の家族については、「家族一部での帰還を考えている」が 35.0%と最も高く、次いで「家族全員での帰還を考えている」が 27.7%、「現在検討しているところ」と「まだわからない」を合わせて 29.0%となっている。

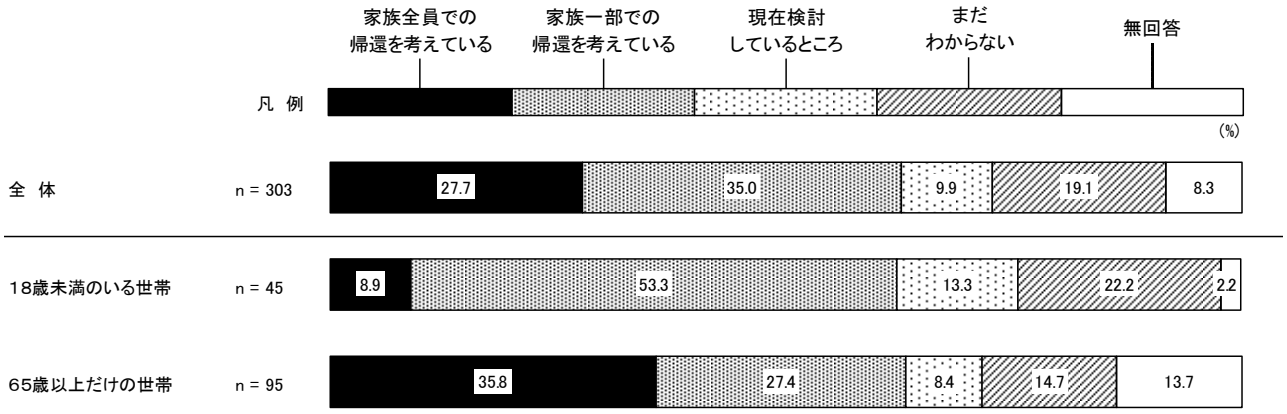
回答者の年齢別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

＜図表３－３－３－１　大熊町へ戻る場合の家族（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「家族全員での帰還を考えている」は、65 歳以上だけの世帯が 35.8%、18 歳未満のいる世帯では 8.9%となっている。一方、「家族一部での帰還を考えている」は 65 歳以上だけの世帯では 27.4%、18 歳未満のいる世帯では 53.3%となっている。

＜図表３－３－３－２　大熊町へ戻る場合の家族（世帯構成別）＞



３－３－４　大熊町へ帰還する場合の住居形態

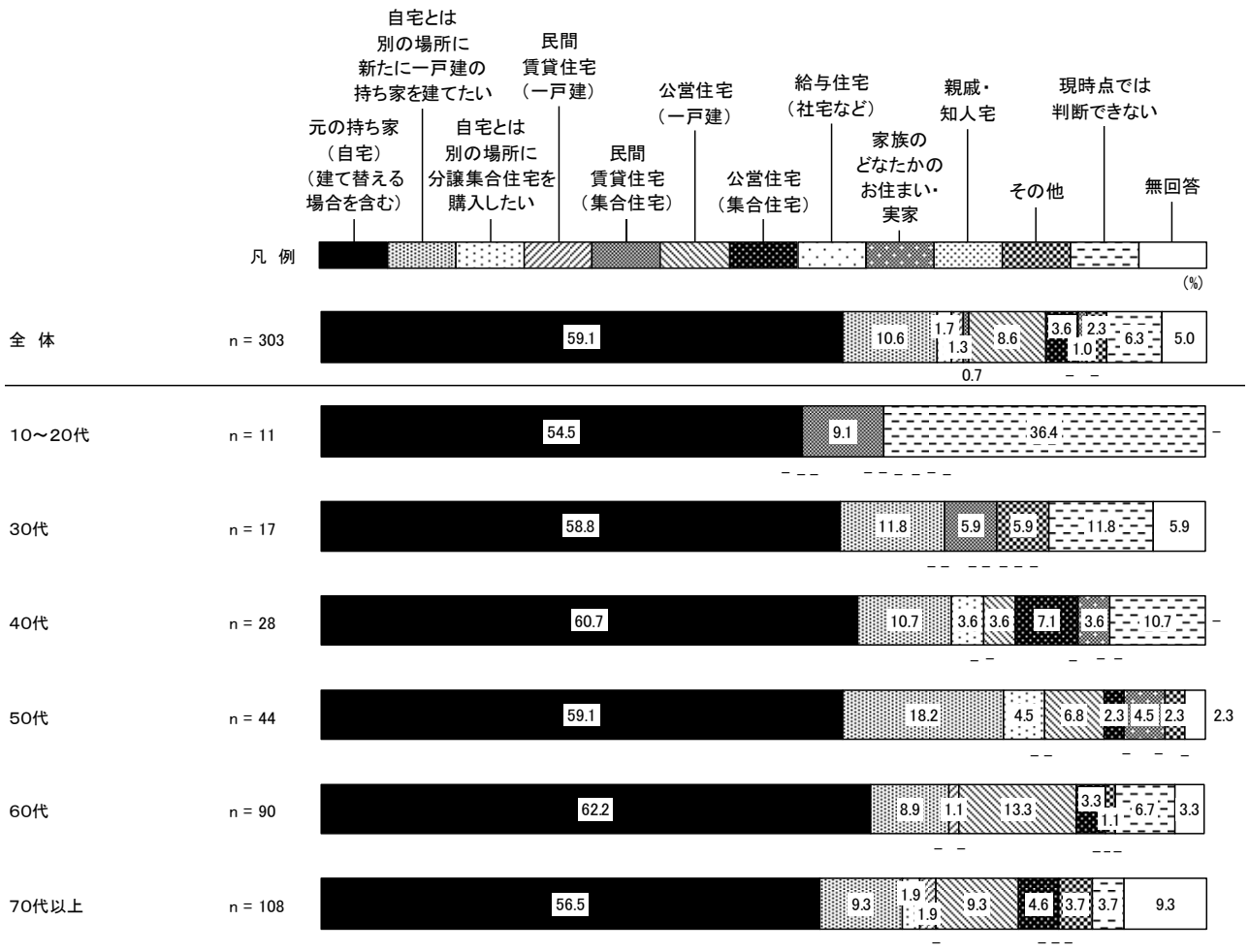
【問９で「１．戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】
問９－４　帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（○は１つ）

大熊町へ帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が 59.1%と最も高く、次いで「自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」が 10.6%、「公営住宅（一戸建）」が 8.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」はいずれも半数以上を占める。

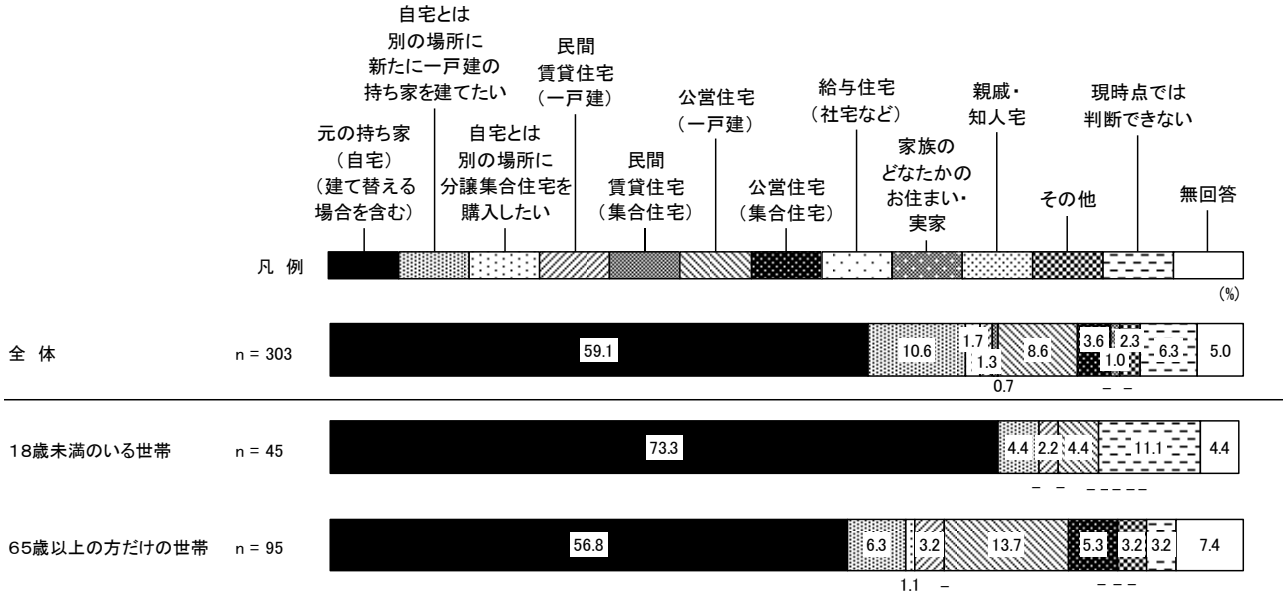
また、50 代では「自宅とは別の場所に新たに一戸建の住宅を購入したい」が 18.2%と高くなっている。

＜図表３－３－４－１　大熊町へ帰還する場合の住居形態（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」は 18 歳未満のいる世帯が 73.3%と、全体の割合と比べ高くなっている。また、「公営住宅（一戸建）」は 65 歳以上だけの世帯で 13.7%と全体の割合と比べ高くなっている。

＜図表３－３－４－２　大熊町へ帰還する場合の住居形態（世帯構成別）＞



サンプル数が少ないものの、震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」と回答した世帯は、ほとんどの行政区で高い割合を示しているが、大野１、熊川、小入野においては、３割を下回っている。また、「自宅とは別の場所に新たに一戸建ての持ち家を建てたい」と回答した世帯は、大野１、熊川、夫沢２において、他の行政区と比べ高くなっている。

＜図表３－３－４－３　大熊町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

(%)

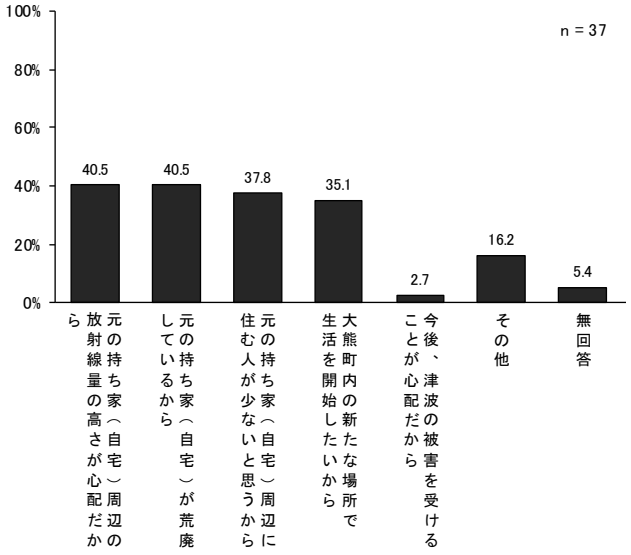
	n	元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）	自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい	自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい	民間賃貸住宅（一戸建）	民間賃貸住宅（集合住宅）	公営住宅（一戸建）	公営住宅（集合住宅）	給与住宅（社宅など）	家族のどなたかのお住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断できない	無回答
全　体	303	59.1	10.6	1.7	1.3	0.7	8.6	3.6	－	1.0	－	2.3	6.3	5.0
中屋敷	2	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
野上1	10	60.0	10.0	－	10.0	－	10.0	－	－	－	－	－	10.0	－
野上2	23	87.0	－	－	－	－	4.3	－	－	－	－	－	4.3	4.3
下野上1	20	65.0	5.0	－	－	－	10.0	5.0	－	－	－	－	10.0	5.0
下野上2	23	39.1	21.7	－	－	－	13.0	13.0	－	－	－	－	－	13.0
下野上3	17	70.6	11.8	－	－	－	5.9	－	－	－	－	5.9	5.9	－
大野1	12	25.0	25.0	－	8.3	8.3	8.3	－	－	－	－	－	25.0	－
大野2	5	80.0	－	－	－	－	20.0	－	－	－	－	－	－	－
大川原1	19	73.7	10.5	－	－	5.3	5.3	－	－	－	－	－	－	5.3
大川原2	15	93.3	6.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
熊1	35	77.1	5.7	2.9	2.9	－	－	－	－	－	－	－	2.9	8.6
熊2	17	58.8	5.9	5.9	－	－	5.9	－	－	5.9	－	－	5.9	11.8
熊3	16	43.8	12.5	－	－	－	12.5	25.0	－	－	－	－	6.3	－
町	14	64.3	7.1	7.1	－	－	14.3	－	－	－	－	－	7.1	－
熊川	13	15.4	30.8	7.7	7.7	－	15.4	－	－	－	－	7.7	15.4	－
野馬形	3	33.3	－	－	－	－	33.3	33.3	－	－	－	－	－	－
小入野	9	11.1	22.2	－	－	－	44.4	－	－	－	－	－	11.1	11.1
大和久	24	58.3	8.3	4.2	－	－	4.2	－	－	4.2	－	－	16.7	4.2
夫沢1	6	50.0	16.7	－	－	－	－	－	－	－	－	33.3	－	－
夫沢2	4	50.0	25.0	－	－	－	－	－	－	－	－	25.0	－	－
夫沢3	12	50.0	－	－	－	－	16.7	－	－	8.3	－	16.7	－	8.3

３－３－５　大熊町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問９－４で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】
問９－５　元の持ち家以外を希望される理由は何ですか。（○はいくつでも）

大熊町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから」、「元の持ち家（自宅）が荒廃しているから」がともに 40.5%と最も高く、次いで「元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから」が 37.8%となっている。

＜図表３－３－５－１　大熊町へ帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由＞



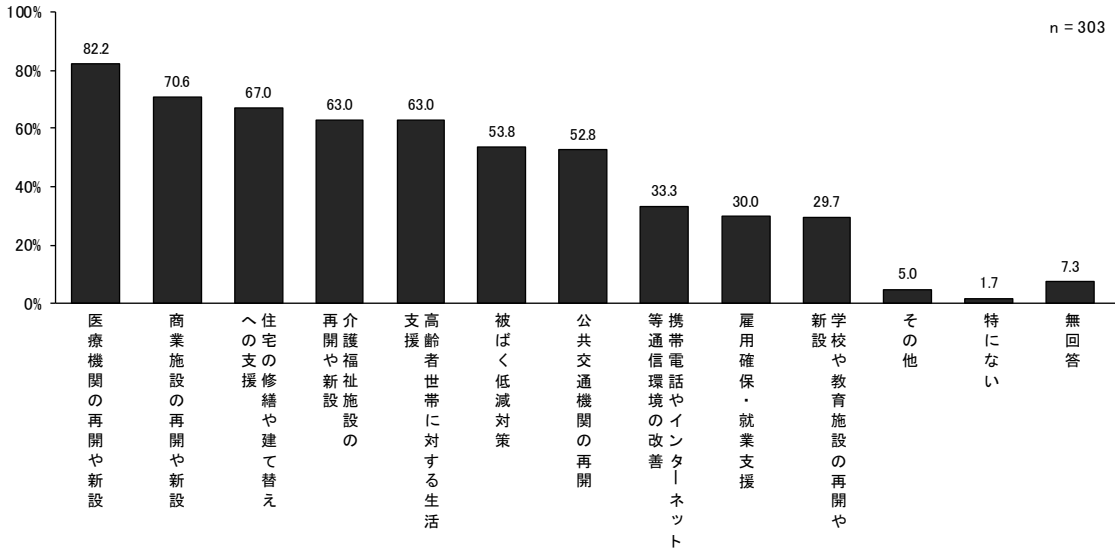
３－３－６　大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援

【問９で「１．戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】
問９－６　大熊町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。（○はいくつでも）

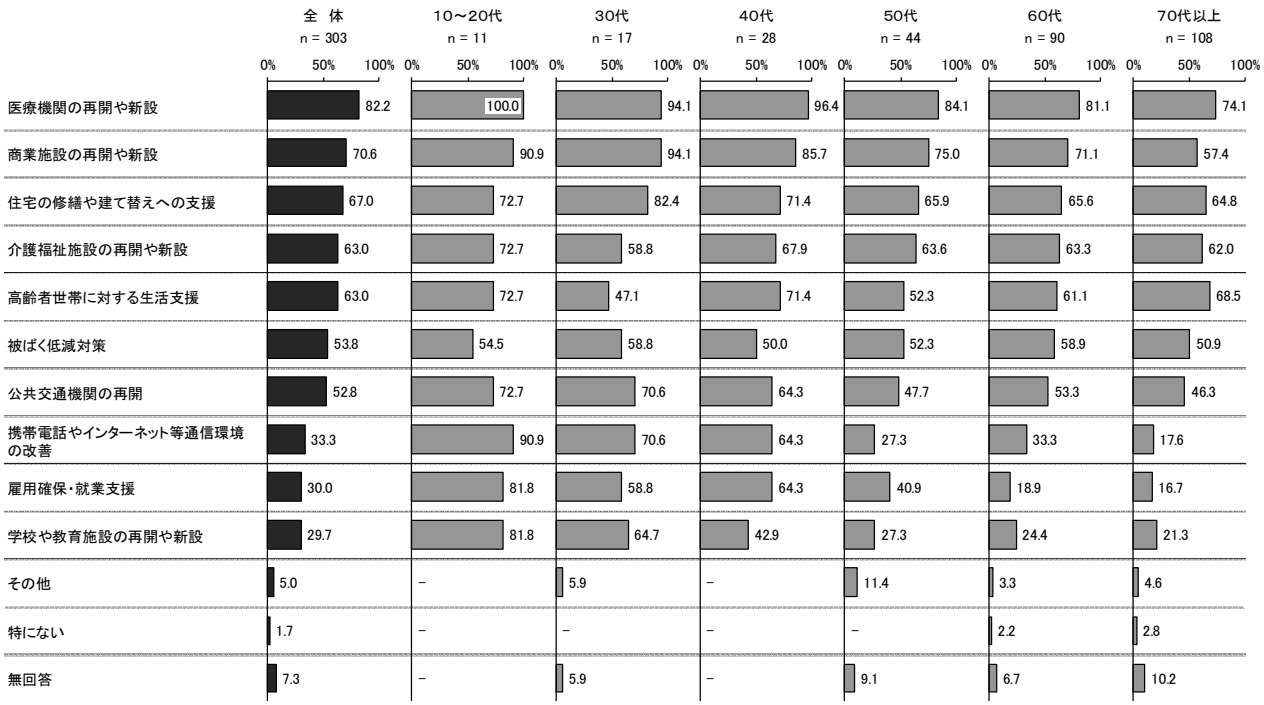
大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援については、「医療機関の再開や新設」が 82.2%と最も高く、次いで「商業施設の再開や新設」が 70.6%、「住宅の修繕や建て替えへの支援」が 67.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「医療機関の再開や新設」が最も高くなっている。

＜図表３－３－６－１　大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援＞

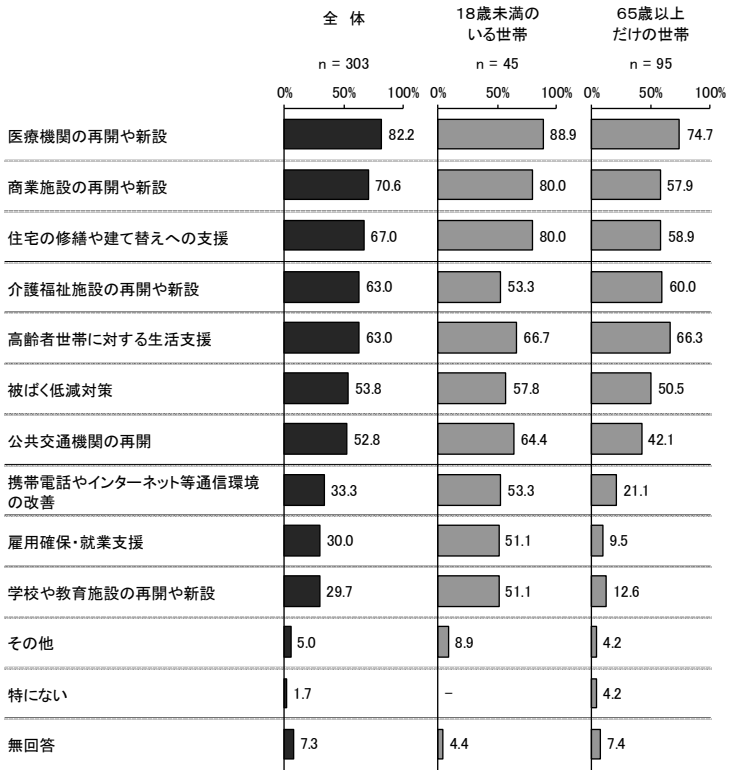


＜図表３－３－６－２　大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「医療帰還の再開や新設」が全体的に高く、18 歳未満のいる世帯では「携帯電話やインターネット等通信環境の改善」（53.3%）、「雇用確保・就業支援」（51.1%）、「学校や教育施設の再開や新設」（51.1%）と全体の割合と比べ高くなっている。

＜図表３－３－６－３　大熊町へ帰還する場合に今後の生活において必要な支援（世帯構成別）＞

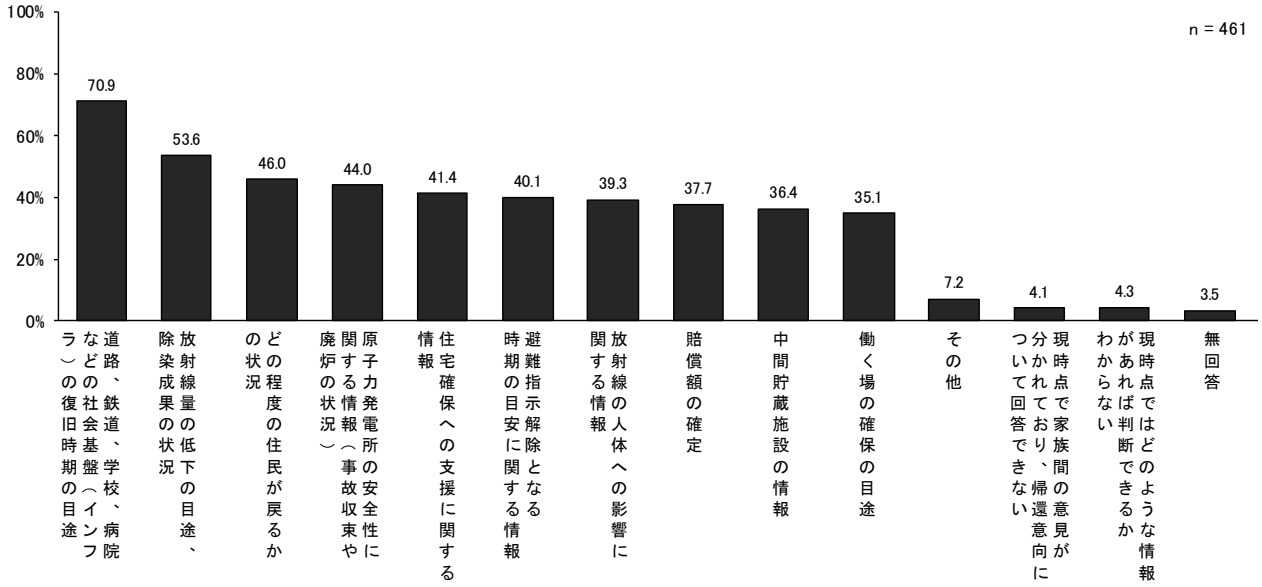


３－３－７　大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問９で「２. まだ判断がつかない」と回答した方にうかがいます。】
問９－２　大熊町へ戻ることを判断するために必要なことを教えてください。（○はいくつでも）

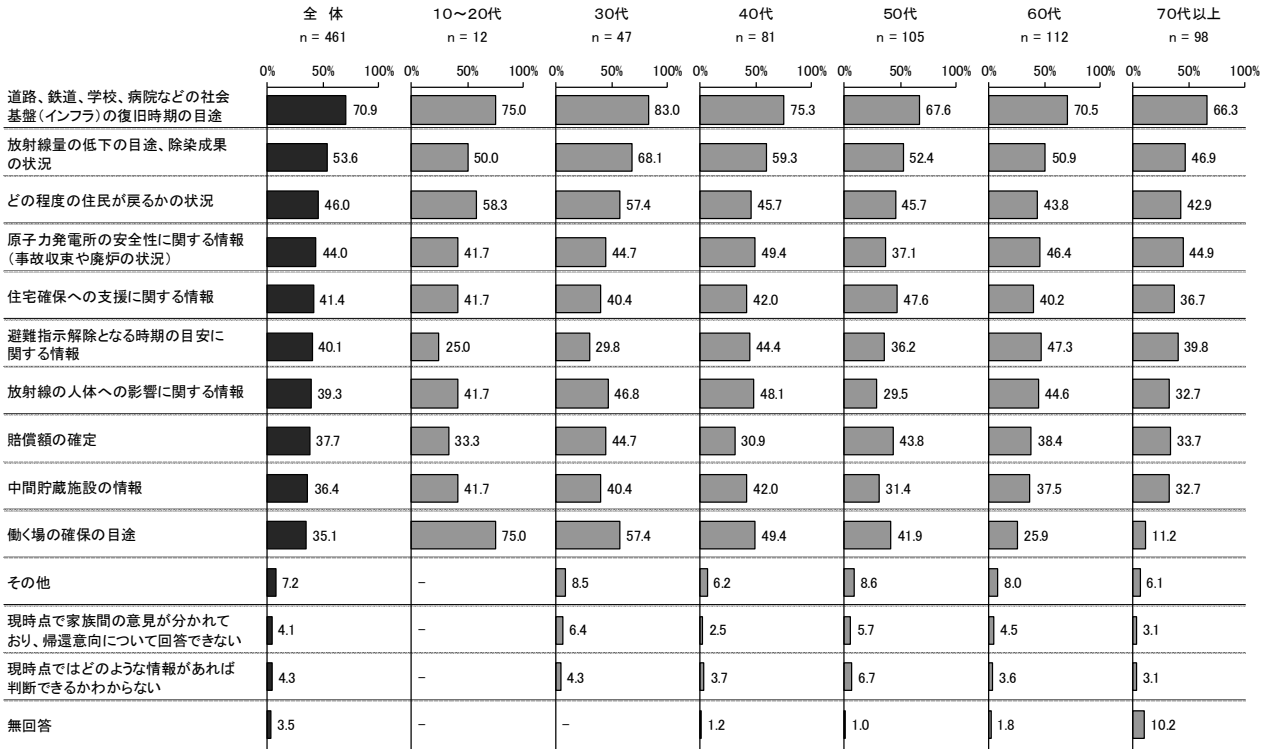
大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報については、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が 70.9%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が 53.6%、「どの程度の住民が戻るかの状況」が 46.0%となっている。

＜図表３－３－７－１　大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報＞



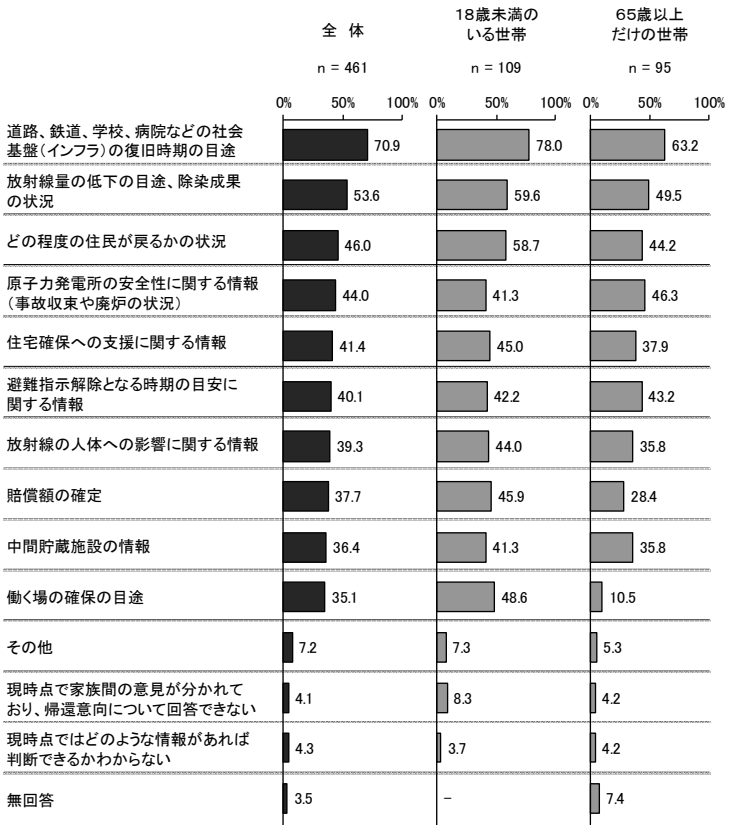
回答者の年齢別にみても、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」がいずれの年齢でも最も高くなっている。また、「住宅確保への支援に関する情報」が 50 代で 47.6%、「働く場の確保の目途」が 30 代（57.4%）、40 代（49.4%）、50 代（41.9%）と全体の割合に比べ高くなっている。

＜図表３－３－７－２　大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報（年齢別）＞



世帯構成別にみても、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が最も高くなっている。また、18 歳未満のいる世帯では「どの程度の住民が戻るかの状況」が 58.7%、「働く場の確保の目途」が 48.6%と全体の割合に比べ高くなっている。

＜図表３－３－７－３　大熊町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯構成別）＞

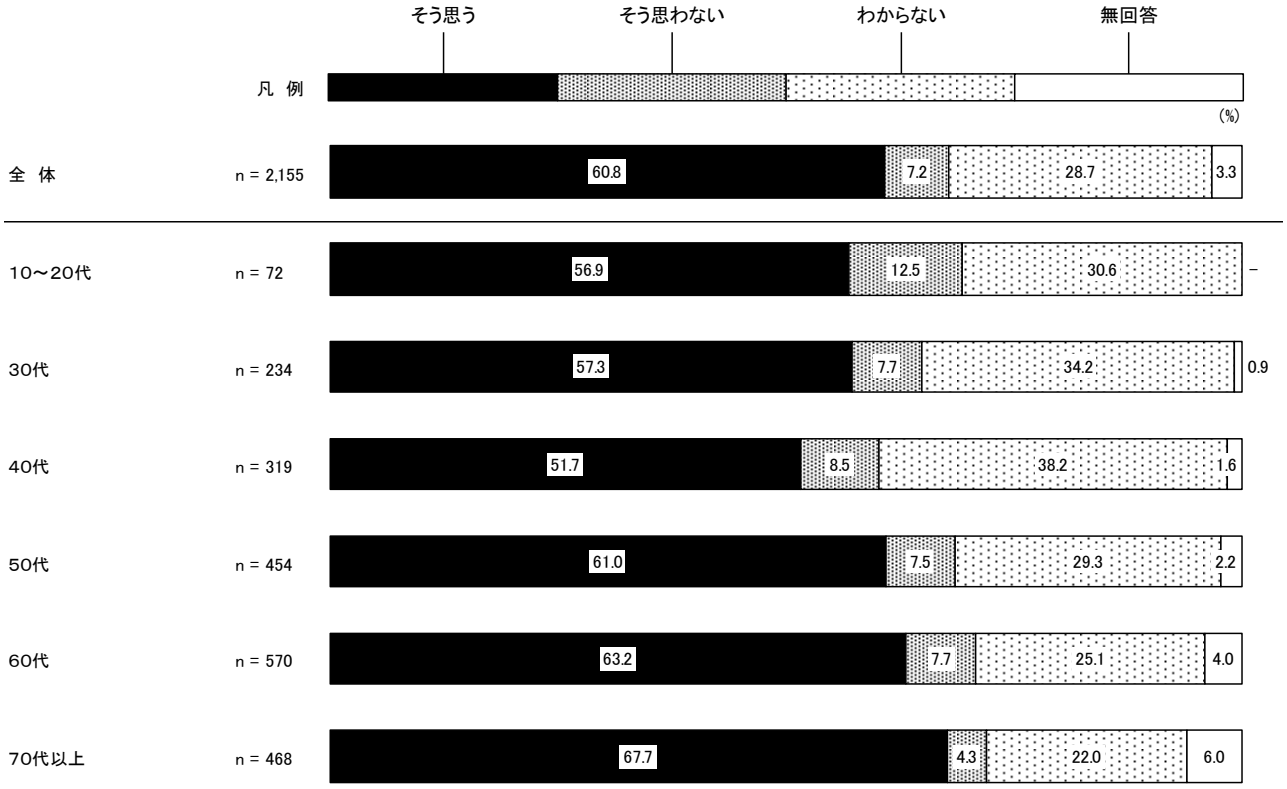


３－３－８　大熊町との“つながり”を保ちたいか

【問９で「２」、「３」と回答した方にうかがいます。】
問９－３　大熊町との“つながり”を保ちたいと思いますか。（○は１つ）

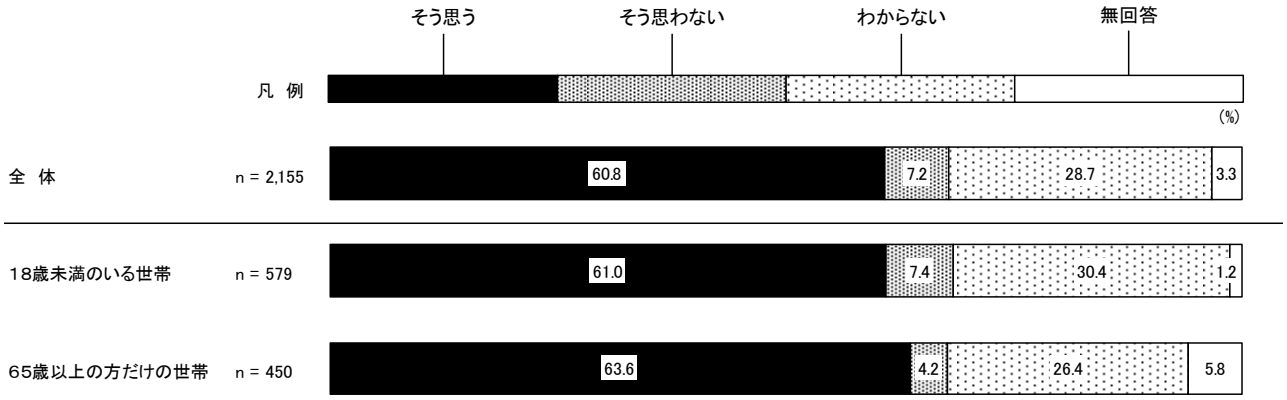
帰還について、まだ判断がつかない場合及び帰還しない場合に大熊町との“つながり”を保ちたいかについては、「そう思う」と回答した世帯が 60.8%と最も高く、次いで「わからない」と回答した世帯が 28.7%、「そう思わない」と回答した世帯が 7.2%となっている。
回答者の年齢別にみると、いずれの年齢でも「そう思う」と回答した世帯が半数以上を占める。

＜図表３－３－８－１　大熊町との“つながり”を保ちたいか（年齢別）＞

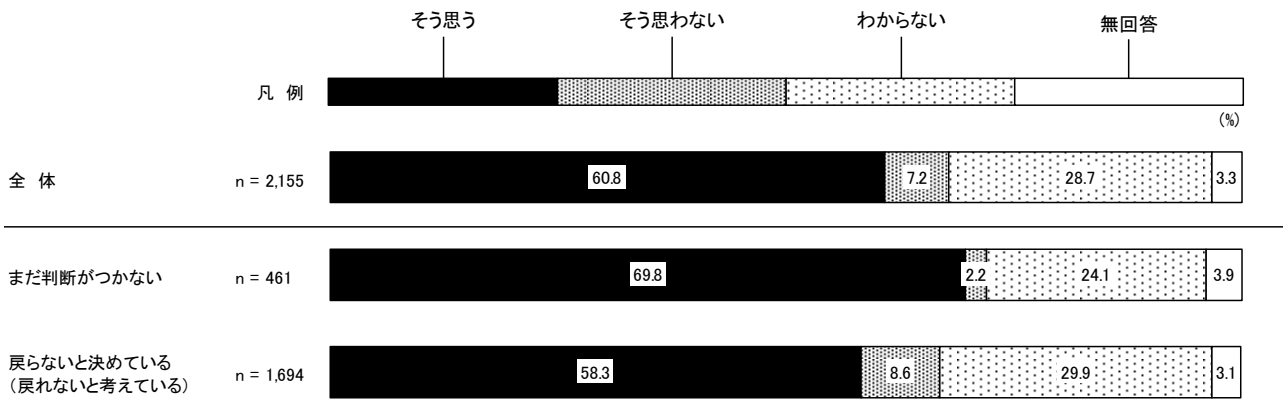


世帯構成別にみると、全体と同様の傾向にある。
帰還意向別にみると、「そう思う」は、まだ判断がつかないと回答した世帯が 69.8%となっている。

＜図表３－３－８－２　大熊町との“つながり”を保ちたいか（世帯構成別）＞



＜図表３－３－８－３　大熊町との“つながり”を保ちたいか（帰還意向別）＞

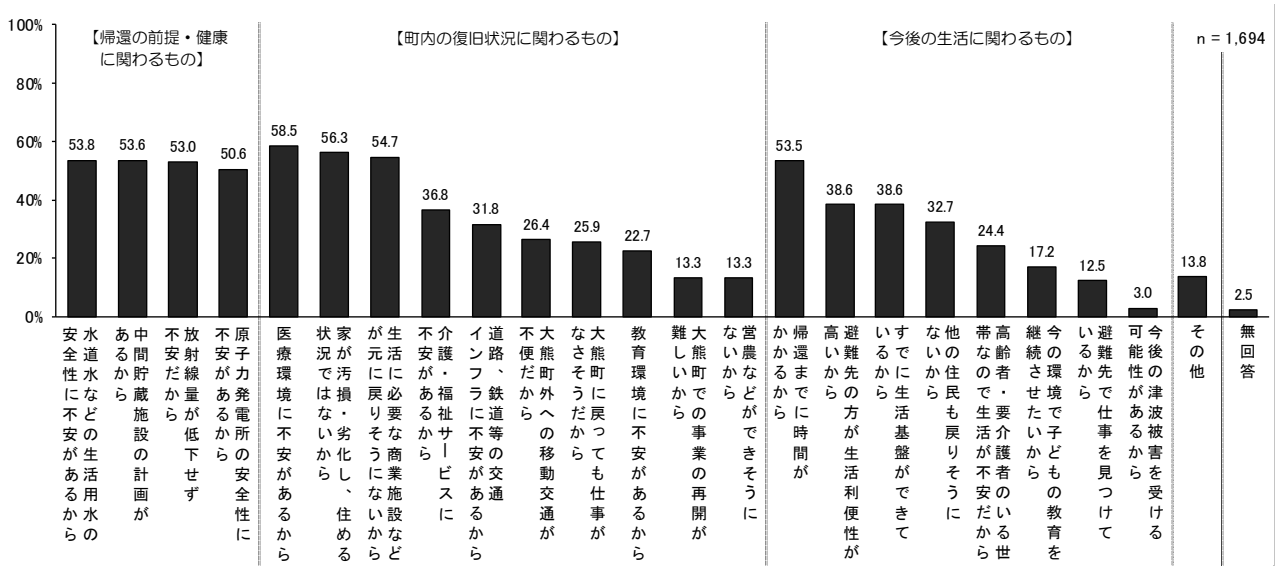


３－３－９　現時点で戻らないと決めている理由

【問９で「3. 現時点で戻らないと決めている（戻れないと考えている）」と回答した方にうかがいます。】
問９－７　現時点で戻らないと決めている（戻れないと考えている）理由はどのようなことですか。（○はいくつでも）

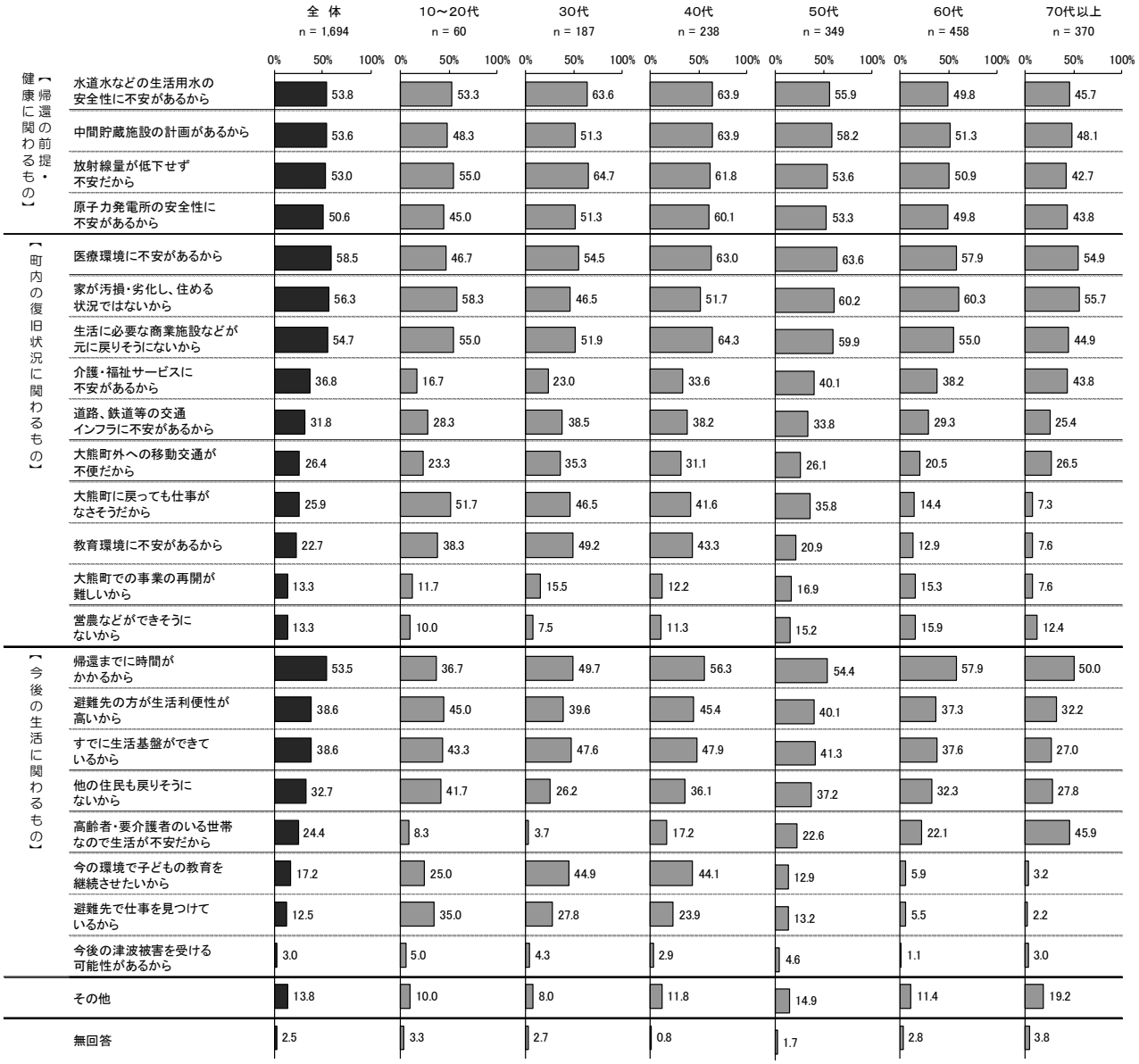
現時点で戻らないと決めている（戻れないと考えている）理由については、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」が 53.8%と最も高く、次いで「中間貯蔵施設の計画があるから」が 53.6%、「放射線量が低下せず不安だから」が 53.0%となっている。【町内の復旧状況に関わるもの】については、「医療環境に不安があるから」が 58.5%と最も高く、次いで「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」が 56.3%、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が 54.7%となっている。【今後の生活に関わるもの】については、「帰還までに時間がかかるから」が 53.5%と最も高く、次いで「避難先の方が生活利便性が高いから」が 38.6%、「すでに生活基盤ができているから」が 38.6%となっている。

＜図表３－３－９－１　現時点で戻らないと決めている（戻れないと考えている）理由＞



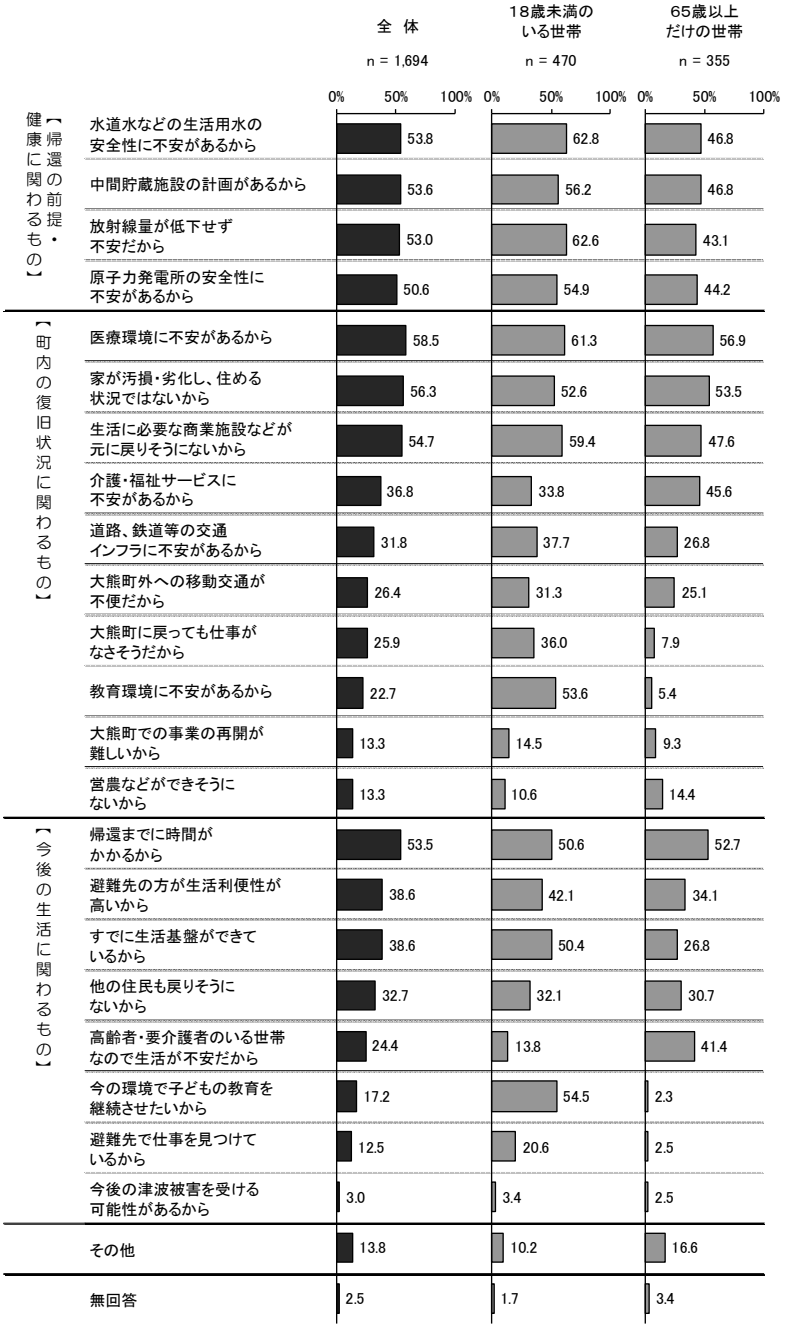
回答者の年齢別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」は、30 代（63.6%）、40 代（63.9%）で高くなっている。「中間貯蔵施設の計画があるから」は、40 代（63.9%）で高くなっている。【町内の復旧状況に関わるもの】については、「大熊町内に戻っても仕事がなさそうだから」は 10～20 代(51.7%)、「教育環境に不安があるから」は 30 代(49.2%)で高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は 30 代（44.9%）、40 代（44.1%）で高くなっている。「避難先で仕事を見つけているから」は、10～20 代（35.0%）、30 代（27.8%）、40 代（23.9%）で高くなっている。

＜図表３－３－９－２　現時点で戻らないと決めている（戻れないと考えている）理由（年齢別）＞



世帯構成別にみると、【帰還の前提・健康に関わるもの】については、「水道水などの生活用水の安全性に不安があるから」、「放射線量が低下せず不安だから」が、18 歳未満のいる世帯で６割強と、全体の割合と比べ高くなっている。【町内の復旧状況に関わるもの】については、「教育環境に不安があるから」は、18 歳未満のいる世帯（53.6%）と全体の割合と比べ高くなっている。【今後の生活に関わるもの】については、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」は、65 歳以上だけの世帯（41.4%）が全体の割合と比べ高くなっている。「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」は、18 歳未満のいる世帯（54.5%）が全体の割合と比べ高くなっている。

＜図表３－３－９－３　現時点で戻らないと決めている（戻れないと考えている）理由（世帯構成別）＞



3－4　意見・要望

問 10　国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、1,164 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

●生活について
・避難生活の長期化への不安
・元の生活が取り戻せるかどうかの不安
・元の生活、安定した生活の回復
・元の生活に戻ることについてのあきらめ
・現在の生活について
・現在の生活の人間関係・コミュニティについて
・現在の生活の経済的な不安について
・現在の生活の健康に関する不安について
・現在の生活の仕事・学業に関する不安について
・現在の生活全般の不安について
・将来の生活に関する考えについて
・将来の生活の経済的な不安について
・将来の生活の健康に関する不安について
・将来の生活の仕事・学業に関する不安について
・将来の生活全般の不安について
・生活（再建）支援について
・その他

●震災発生前の居住地について
・帰還困難区域への立入りについて
・帰還困難区域等の設定について
・所有する住まい・土地の買取りについて
・自宅の現状（被害状況）について
・自宅の再建・改築・解体について
・元の住居や土地などの管理・処分について
・元の住居や土地に対する税について
・所有する墓地の維持・管理・移転について
・その他

●賠償について
・賠償内容・方法について
・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について
・所有する住まい・土地に対する賠償全般について
・その他

●帰還について
・帰還への不安
・帰還可能時期の明確化について
・帰還したい
・帰還しない
・現時点では帰還の判断ができない
・帰還に関する施策について
・帰還を望まない人への対応について
・その他

●避難期間中及び将来の住宅について
・復興公営住宅の早期・迅速な建設について
・復興公営住宅の建設地・形態等について
・復興公営住宅に係る経済的負担について
・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安
・復興公営住宅への入居について
・居住場所の確保について
・借上げ住宅について
・住宅の購入について
・その他

●除染について
・除染作業の意義について
・除染作業にかける費用の他への活用について
・除染作業の効果などについて
・除染作業の実施箇所などについて
・除染作業の早期・迅速・的確な実施について
・除染作業スケジュールの明確化について
・除染廃棄物の処理について
・その他

●復旧・復興について
・復旧・復興の遅れ、長期化について
・復旧・復興のスケジュールについて
・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について
・町村合併について
・ライフライン・インフラの整備について
・社会福祉施設の整備について
・医療施設の復興・充実について
・学校の復興・充実について
・商業の復興・充実について
・住民の参加・自助努力について
・早期の原状回復・復興実現について
・その他

●原発の安全性について
・廃炉作業の迅速な実施について
・廃炉作業全般について
・その他

●原発事故に対する対応について
・行政や東電の対応について
・対応の長期化、遅れについて
・情報の開示・発信について
・中長期的スケジュールについて
・その他

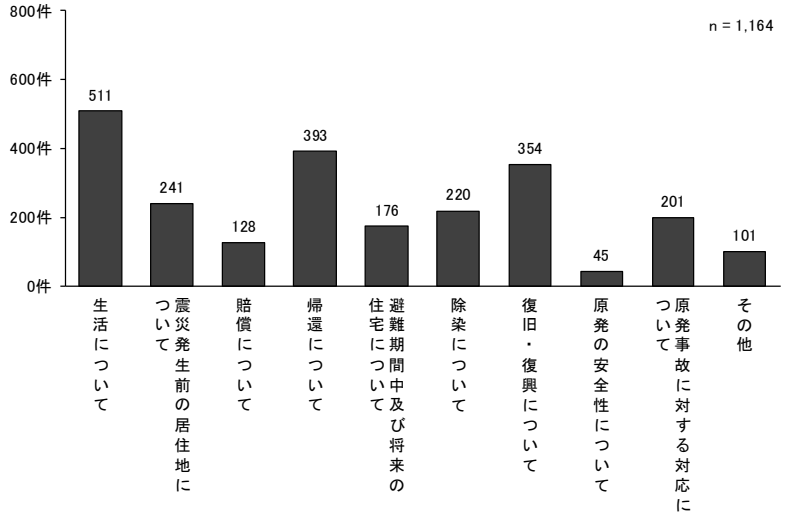
●その他
・今後のエネルギー政策について
・行政に対する謝意、励まし
・その他

※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。
※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10 の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が 511 件と最も多く、次いで「帰還について」が 393 件、「復旧・復興について」が 354 件などとなっている。

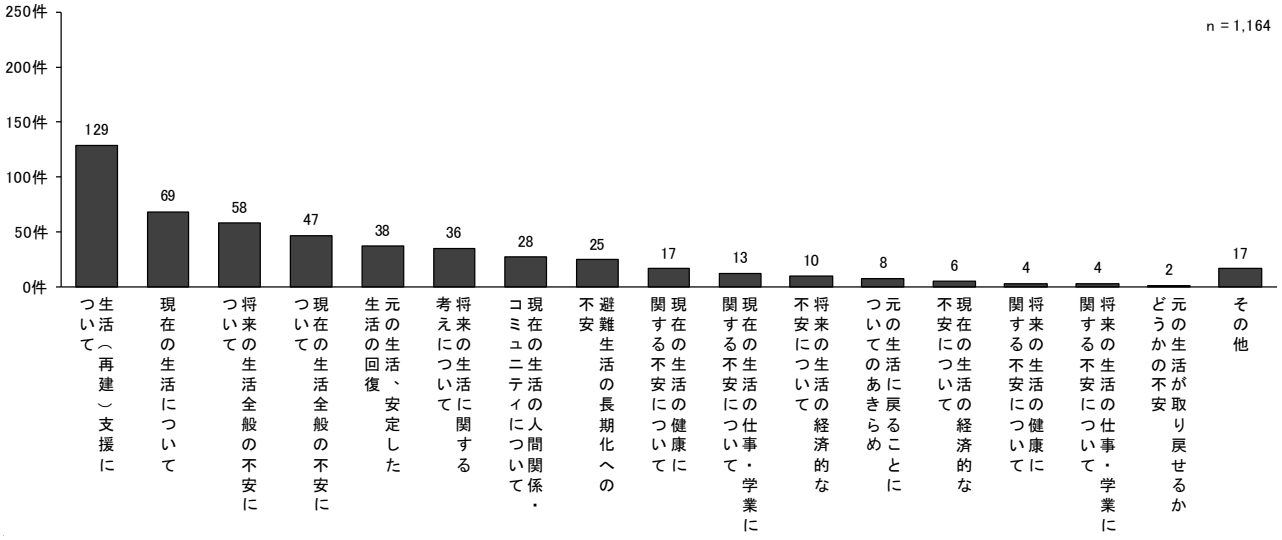
＜図表３－４－１　意見に係る記入内容の分類結果＞



（１）生活について

生活についての具体的な意見としては、「生活（再建）支援について」が 129 件と最も多く、次いで「現在の生活について」が 69 件、「将来の生活全般の不安について」が 58 件などとなっている。

＜図表３－４－２　生活についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［生活（再建）支援について］

- 帰還できなくても、いわき市あたり（近い所）から通える大熊町からの仕事をいろいろ考えて欲しいです。（60 代）
- 避難が続く間は医療費、各種税金等の減免や、公営住宅家賃、その他の賠償を継続してもらい避難生活に不安がないようにしてほしい。（50 代）
- すでに家を建てて移住を開始したが、色々と支援が打切りになって避難を続けている人と差があると感じられる。実体としては同じでも住民票の違いで対応を変えないよう災害発生当時の住所で一律に対応してほしい。（30 代）

［現在の生活について］

- 今まで住んでいた宅地面積で隣人宅に気がねなく大声で笑ったり騒いだり出来る環境が欲しい。現在では息づまりがする状態で両脇が１M位しかないので足音や車の出入まで聞こえてきている。大人はガマン出来るが孫・子供達はかわいそうだ。（70 代以上）
- 新しい土地でようやく家が完成し、生活としては安定して精神的に落ち着きましたが、何とも言えない寂しい気持ちもあります。子供が誕生し、この子にとっては私達の故郷と全く無関係で育っている訳で、今後、大きくなった時に「大熊町民」としての枠でくくられるのはこの子にとってどうなのか悩みます。今を精一杯生きようと思います。（30 代）
- 毎日、焦りはあるものの、子育て中でもあり、仕事や日々の生活に追われ、何も手につかない状態です。着のみ着のまま、一円も持てずに避難し、今ようやく、忙しい中にも生活のペースが出来て来ました。（40 代）

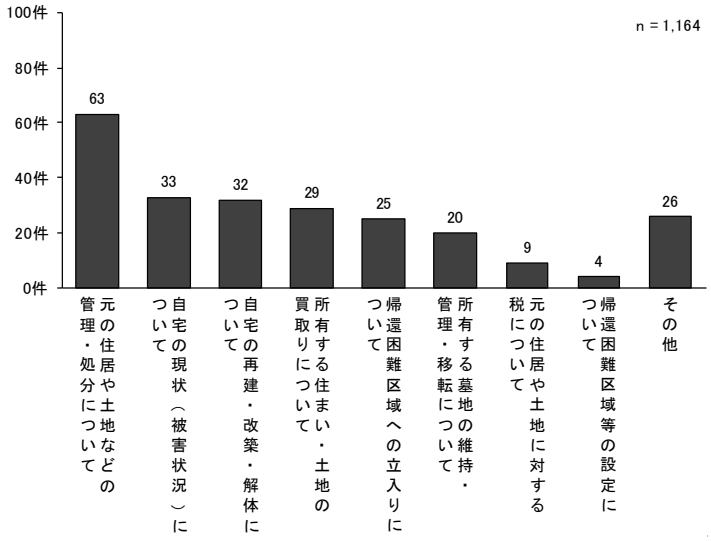
［将来の生活全般の不安について］

- 個人の考えでは帰りたいと思うが子供達は成長に伴い住んでいる場が故郷となってきている。国、自治体の方々の努力は理解するが年を重ねる事に不安が募り自分の生き方がわからなくなってしまう。会津に家を持つ予定だが好んで建てた訳ではない。職業など家族の関係でやむなく辞め、１からやり直し給料も低く安定した生活を続けられるか不安だらけです。（50 代）
- 自分の気持ちをどうしていいか、わからない状態です。１つ考えこむと、色々重なり悲しくなります。（50 代）
- 老人には時間がない。この先どうすればいいのか自分ではどうしようもない。どうやって生き、どうやって死んでいけばいいのか…（70 代以上）

（2）震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が 63 件と最も多く、次いで「自宅の現状（被害状況）について」が 33 件、「自宅の再建・改築・解体について」が 32 件などとなっている。

＜図表３－４－３　震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［元の住居や土地などの管理・処分について］

- 居住はいわきに作りたいと考えているが、大熊の家をどうすれば良いのか。火災保険や補修費用が必要になってくる。勤務上、発電所業務なので使えるなら使いたい。（30 代）
- 戻らない人達の家（空屋）の処分について今後高齢化に伴って空屋の維持管理は難しくなる事は明白で、何らかの支援が必要（個人的には、解体費用を国や自治体に出して貰って無償で所有権を移動するのも良い方法では）。（60 代）
- 帰宅困難地区のゴミ処理について検討願いたい。家の片付けを行いたいのと、庭木を処分したいが、廃棄の方法が決まっていないので行えない。（50 代）

［自宅の現状（被害状況）について］

- 一時帰宅する度に自宅の荒廃が進んでいます。もう、自宅には戻らない（戻れない）と考えています。（40 代）
- 大熊の家はしっかりしており、ネズミの侵入も無くいつでも戻れる状況です。（50 代）
- 大熊町にある自宅は、窓ガラスが２箇所こわされて、ブルーシートで応急処置はしてあるが、強風でいつシートがはがされるかわからない。（60 代）

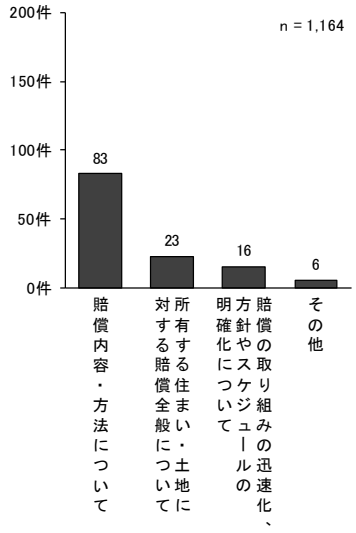
［自宅の再建・改築・解体について］

- 大熊町にある持ち家を解体しようと考えていますが、解体にかかる費用の補助をお願いしたいと思います。（70 代以上）
- 大熊に帰る場合、自宅の修繕（雨漏れ）が必要となるが、帰宅困難区域の自宅の修繕について、支援してもらえる制度がまったくない。少なくとも瓦の応急修理について、町、県、国が本気で支援を差しのべて欲しい。（50 代）
- 帰還困難区域にある自宅の補修をすすめて欲しい（認めてほしい）。（40 代）

（３）賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が 83 件と最も多く、次いで「所有する住まい・土地に対する賠償について」が 23 件、「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が 16 件などとなっている。

＜図表３－４－４　賠償についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［賠償内容・方法について］
- 補償金等は、もう十分頂いた。早く打ち切り、震災前に一生懸命働いていた頃に戻らなければ。（50 代）
- 東電の賠償請求等、町で一括で実施できる様にしてもらいたい。（40 代）
- 住所変更する場合、東電の賠償金は切られてしまうのか、それが心配です。（50 代）

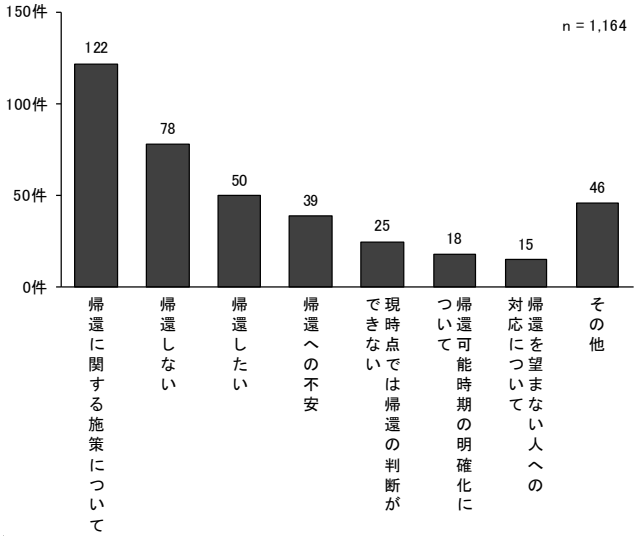
［所有する住まい・土地に対する賠償全般について］
- 早めに戻れない土地としてその分は賠償金で払ってほしい。（30 代）
- 東京電力の土地・建物の賠償額が低く、避難しているいわき市で土地が購入できない状態（いわき市好間地区２５万／坪）。（40 代）
- 地代賠償額が、購入時金額を下回っており、見直しを要望したい。（50 代）

［賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について］
- 帰還困難区域の住民には「精神的賠償額」を増やし、今後１０年を目安に支払いの計画を早く立ててほしい。（70 代以上）
- 完全に戻れるという証明ができるまでの補償は、厳守して頂きたい。（30 代）
- 中間貯蔵施設予定地の地権者との土地等の補償契約がなかなか進んでいないような報道がされているが、あたかも地権者側がごねているかのように捉えている方もおり、非常に不快な思いをする。用地補償の流れで、どの段階がどこまで進んでいるのかをきちんと公表すべきである。（50 代）

（4）帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が 122 件と最も多く、次いで「帰還しない」が 78 件、「帰還したい」が 50 件などとなっている。

＜図表３－４－５　帰還についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［帰還に関する施策について］

- お金をかけて、無理を押して帰還を進めることに疑問を感じる。だめなものはだめ、と言われれば、多少反対が出てもいずれあきらめて、生活を再建するように人はなると思う。甘やかしすぎなのでは？（40 代）
- 帰町する、させると町や国は言うがもっと現実的な計画を示してほしい。10 年後とか、20 年とかではなく。（50 代）
- やれることから一歩ずつやって、戻れる人・戻りたい人を少しずつふやして行くしかないと思います。人が集まればそこに人の輪と力ができます。（60 代）

［帰還しない］

- 中間貯蔵施設の計画のため、大熊町の自宅に戻りたくとも戻れません。（60 代）
- 今、いわき市に住んでいますが、駅前なので、病院、郵便局、買い物等、充実していますので、現時点では、戻らない方向です。（60 代）
- 大熊町に住み続けるつもりでいたが、今は新しい仕事もなれてきた所なので、大熊町には戻らない。（10～20 代）

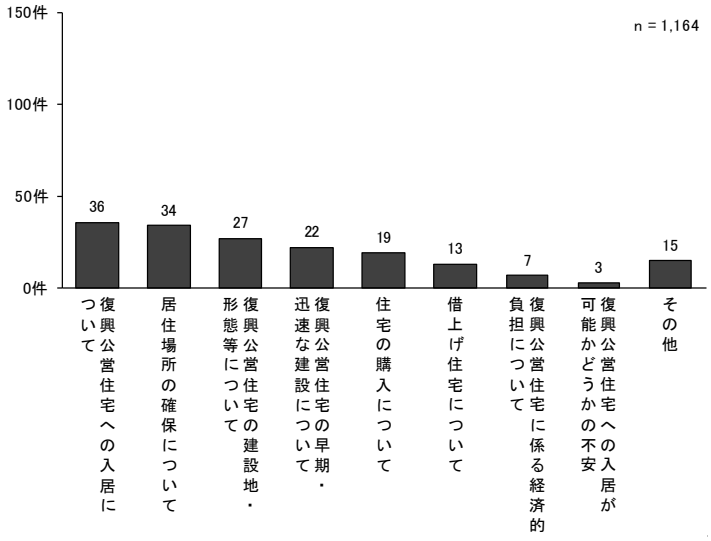
［帰還したい］

- 大熊町は本当に良い町だったと日に日に思うようになっている。諸々の心配事から解放されれば帰りたいと思う。（60 代）
- 大熊へ戻って老後をゆっくり過したい。（70 代以上）
- 大熊町に戻りたい気持ちは決してなくなりません。大熊町に住んでいたあの頃の環境が、どれだけ恵まれていたか日々、痛感しています。（30 代）

（5）避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「復興公営住宅への入居について」が 36 件と最も多く、次いで「居住場所の確保について」が 34 件、「復興公営住宅の建設地・形態等について」が 27 件などとなっている。

＜図表３－４－６　避難期間中及び将来の住宅についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［復興公営住宅への入居について］

- 早く好間の復興住宅に入り自分の足もとをかためて仕事を見つけ１日も早く自分自身を取り戻したいです。（30 代）
- 復興住宅の手続もかなり面倒なのでもう少し簡単に出きれば。（60 代）
- 第３期の復興公営住宅の抽選において、当選しましたが、復興の先が見えないので不安です。復興公営住宅は特に期限は定めていないのか？（40 代）

［居住場所の確保について］

- 被災された皆さん多くの人がすぐに住める様な生活の場を早く与えて欲しい！（60 代）
- 復興公営住宅の建設より各戸に補助を出して各個人の好きな土地に住ませた方がいいのではないか。理由は復興公営住宅に入った人の評判が良くないので建設しても入居しないのではないかと思われる。建設費の無駄になりかねないのではないか。（60 代）
- もう住めないなら、早く住民に対して新しい土地を提供するなど対応策をこうじて欲しい。（30 代）

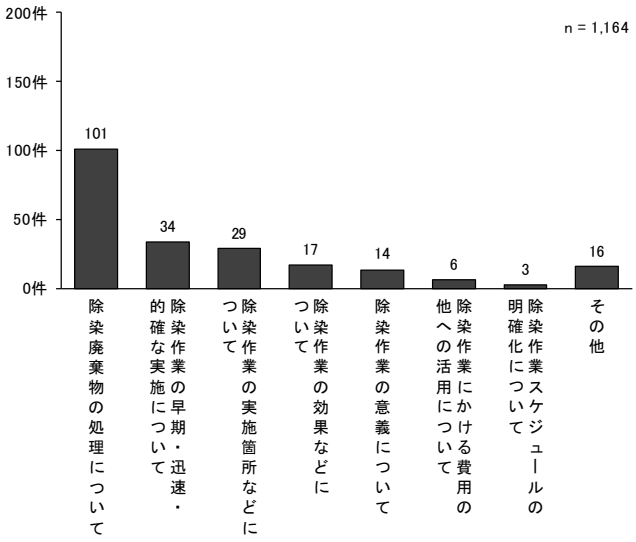
［復興公営住宅の建設地・形態等について］

- 早く皆さんが入居出来る復興災害住宅をそれもなるべく入居しやすい１戸建てを作って頂き納得の出来る住居であることを切に願います。住居があっても作りが悪い生活しづらい等の理由でキャンセルする方が多いと聞きます。もったいないです。だったら最初から住みたい方の意見も聞きいい住みやすい住居を作って頂きたいと思います。（60 代）
- 復興公営住宅（集合住宅型）は、ペット（室内小型犬）と一緒に入居できず戸建住宅（ペット可）が少なく、入居が難しい状況です。（50 代）
- 早く復興公営住宅にて暮らしたい願いです。いわき方面希望して居ります。（70 代以上）

（6）除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染廃棄物の処理について」が 101 件と最も多く、次いで「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が 34 件、「除染作業の実施箇所などについて」が 29 件などとなっている。

＜図表３－４－７　除染についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［除染廃棄物の処理について］

- 中間貯蔵施設はほんとうに県外にするのでしょうか。それがはっきりしないと皆んな、心配なのではないのでしょうか。（60 代）
- 個人的意見として、全国に飛散した、放射性廃棄物を大熊町の中間貯蔵施設に保管し、他自治体の負担を無くすべきと考えます。中間貯蔵施設は 30 年後に最終処分場とすべきと思います。（50 代）
- 中間貯蔵施設は、大熊、双葉でずっとこのままになるのはまちがいないと思います。コミュニティの回復はむずかしいと思います。（50 代）

［除染作業の早期・迅速・的確な実施について］

- 除染作業はしっかりやってほしい。除染しても放射性物質は地下深く入り込むので水質検査は常に正確に行ってほしい。（60 代）
- 除染の施工方法や保管方法に大きな間違いが有るのがとても不安でならない。（60 代）
- 早急に除染の徹底。聞くところによると西平地区の一部に線量の高い場所が有ると聞く。再度除染をお願いする。（70 代以上）

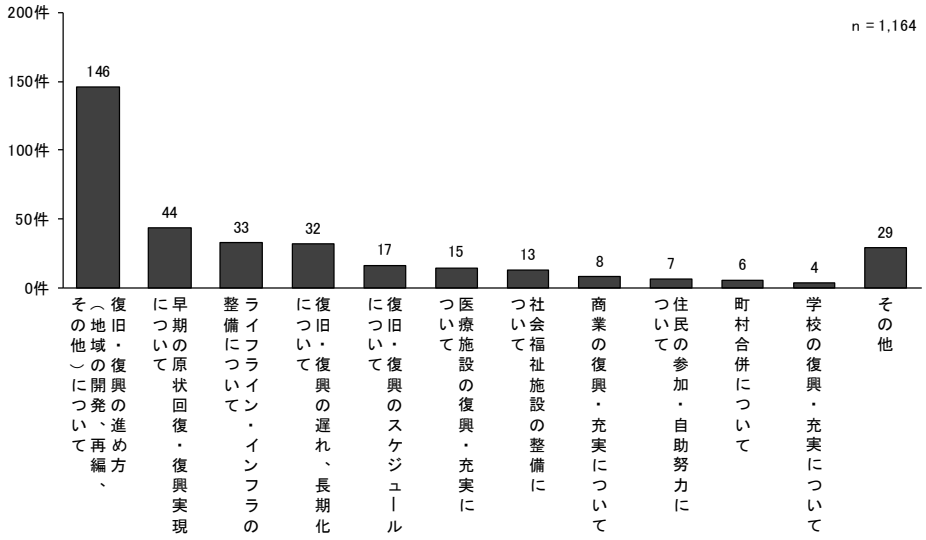
［除染作業の実施箇所などについて］

- 国は住宅地及びその近傍以外は除染しない考えの様だが、山林等も出来るだけ除染すべきである。いくら、住宅地が除染されていても、汚染された山林がすぐ近くにあってはとても帰る気にならない。（60 代）
- 中間貯蔵施設もできるし、帰れる可能性が低いのに線量の高い所の除染（下野上二区等）は全くする必要がないと思います。（70 代以上）
- 除染や整備していくのは線量が比較的低い所だけにして、あとは、もう無駄なお金を使わなくても良いのではないか。（40 代）

（7）復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について」が 146 件と最も多く、次いで「早期の原状回復・復興実現について」が 44 件、「ライフライン・インフラの整備について」が 33 件などとなっている。

＜図表３－４－８　復旧・復興についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について］

- 国や自治体は大熊町の将来をどのように考えているか決定して欲しい。その決定が無いといつまでも方針が決められない。（30 代）
- 復興計画が 10 年程度の年間数で策定されていることは、町民の１人としてわかりやすく、復興の実現が期待されます。ただ、担当、事業化される方々に、次をになう若い人達にもどんどん関わっていただいて、世代を受け継いで永遠に復興のために努力してほしいと思います。何といっても「大熊町」という地域、町民が消滅しないようにしてほしいです。（70 代以上）
- 住民の健康や安全を考えて、国の実績作りのためなどではなく、本当の意味での復興を目指して欲しい。（40 代）

［早期の原状回復・復興実現について］

- 帰還を望む多くの住民の方々の気持ちを少しでもご理解いただき、１年でも早く復興が進んで欲しいです。（40 代）
- 早急に大型予算を組み、除染や整備に努めてほしいものです。郡内除染の予告も入りましたが、一日も早く本当の「ふるさと」にして下さい。（60 代）
- 復興計画により次世代の住環境を整備され、町の復興・再生を一日も早くお願いします。（70 代以上）

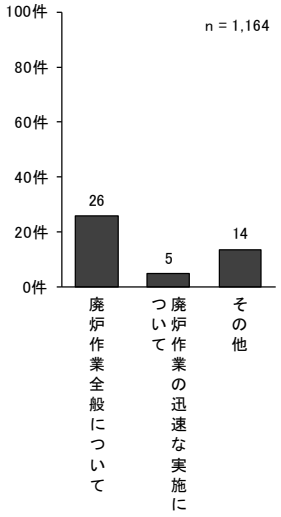
［ライフライン・インフラの整備について］

- 中間貯蔵施設の運搬で高速（常磐道が）混雑するので片側２車線にして欲しい。（50 代）
- 大熊町と双葉町へのインターチェンジの設置は不要と考える。その費用は、別にまわすべき。（10～20 代）
- 帰還する為にインフラの整備とくに飲料水などの対策を、充分に行ってほしい。（60 代）

（8）原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が 26 件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が５件などとなっている。

＜図表３－４－９　原発の安全性についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［廃炉作業全般について］

- 廃炉に向けて仕事をすることで少しでも福島の復興につながればいいと思います。（30 代）
- 廃炉に向けての技術と技術者の育成が追いついていない。もっと世界の協力を取り入れた方が良い。（60 代）
- まず第１なのは原発廃炉だと思うが、常に廃炉作業に問題が起きている。これからも問題が起きるでしょう。40 年ぐらいで廃炉にならないのに（実際）、誤魔化していると思います。（50 代）

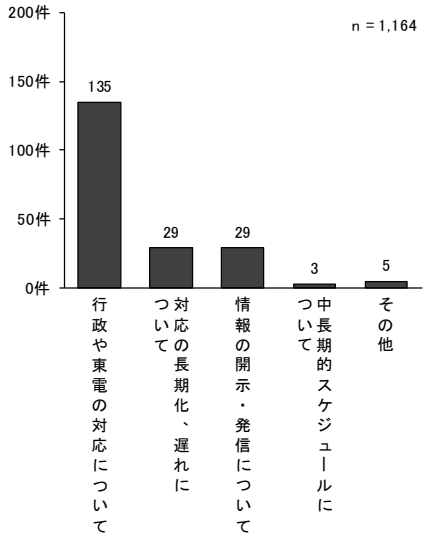
［廃炉作業の迅速な実施について］

- 復興拠点として、電力の廃炉への道が１日も早く終える事を願っています。（60 代）
- 東電の事故収束を一日も早く完了させるよう国は全力を傾注してほしい。（60 代）
- 原発の早期の廃炉作業の終結。（70 代以上）

（9）原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が 135 件と最も多く、次いで「対応の長期化、遅れについて」が 29 件、「情報の開示・発信について」が 29 件などとなっている。

＜図表３－４－10　原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［行政や東電の対応について］

- 東電は、原発事故の責任を、いつまでも忘れないでもらいたい。又、避難者への充分な賠償と、町の復興に全力で協力してもらいたい。（40 代）
- オリンピックにお金をかけてしまい、私たちのことを忘れてしまわないか。オリンピックがあるせいで、避難している人を投げださないでほしいです。（10～20 代）
- 年代によって考え方や価値観が異なるのは当然です。私は技術者でしたが技術の現場では異常が発生すれば可能な限り（いろいろと駆使して）正常化します。現状は異常状態にあると思います。柔軟かつ弾力的な対応で正常化を望みます。（70 代以上）

［対応の長期化、遅れについて］

- 正直な所、行先が見えない状況が続いているのは、国の対応が遅れているのではないか？（60 代）
- 今まで要望をアンケートに書いて、訴えてきましたが、全く反映されませんでした。（40 代）
- 震災から５年になろうとしています。あまりにも対応がおそいのではないですか。（60 代）

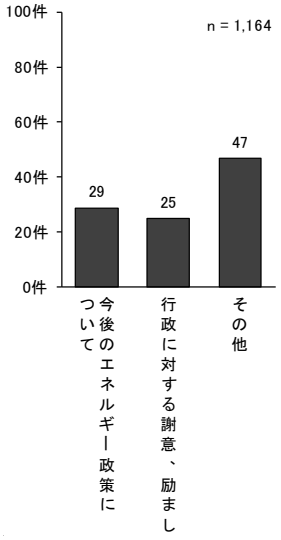
［情報の開示・発信について］

- ヒバクの健康影響について知識として普及させる必要がある。その上での議論をしないと、後悔すると思う。（50 代）
- 中間貯蔵施設用地への搬入状況を広報、タブレット等で情報を流して欲しい。※搬入場所、搬入町村、搬入袋数等（60 代）
- 現状何が起こっているのか、包み隠さず教えてほしい。不透明な部分が多すぎる。（30 代）

（10）その他

その他についての具体的な意見としては、「今後のエネルギー政策について」が 29 件と最も多く、次いで「行政に対する謝意、励まし」が 25 件などとなっている。

＜図表３－４－11　その他についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

［今後のエネルギー政策について］

- 福島第一原発事故で、まだ数万人の住民が避難し、事故原因等明確になっていない状況での川内原発等の再稼動は納得いかない。国は本気になって原発にたよらない自然エネルギーの促進を早急に進めてもらいたい。（50 代）
- 原発関係の仕事をしていた人も多く、その人達が福島で生活し、地域を活性させていたが、今は働く場がないことから福島第二原発の再起動も考えるべき。（30 代）
- 原発事故の代償は大きすぎる。原発０の国には出来ないものなのでしょうか？（40 代）

［行政に対する謝意、励まし］

- 町長さんはじめ役場の職員の皆さん毎日大変ご苦労様です。大熊町復興のため頑張って下さい。よろしくお願いします。（70 代以上）
- 町の行政の方々が震災直後から、しっかり対応して下さり町としての支援をして下さって、本当にありがとうございました。個人個人でなく町が動いて下さっているので大熊町民一人一人が様々なサポートをいただくことができています。これからもよろしくお願いします。（60 代）
- 復興へはまだまだ長い道のりですが、適切な対応をいつもありがとうございます。今後ともお世話になります。（30 代）

［その他］

- 心の中を文字で表す事はむずかしいです。（60 代）
- 時代の流れと云う事でどうしようもありません。私もとしなのでいまはなにも云えないです。（70 代以上）
- 多くの方々が帰還の為に努力していることには感謝しておりますが、帰還の前提、復旧状況等を考えると多くの困難があり、簡単でないことは周知の通りです。若ければ別の考えも浮びますが、７６才を迎える現在は帰還しても何も出来ないのが現実です。出来る限りのんびり、穏かに余生を送りたいと思っております。（70 代以上）

Ⅳ　参考資料

大熊町住民意向調査

記入上の注意

● **調査をお願いする方**

震災発生時、大熊町に住民登録をしていた世帯（避難後の転出者を含む）が対象です。
ご回答は、**世帯の代表者の方**にお願いいたします。
現在、世帯が何ヶ所かに分かれて避難されている場合には、**それぞれの場所に調査票を送付しておりますので、本調査票の送付されたお住まいの代表者の方**に、ご回答をお願いいたします。

● **ご回答方法**

ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
「その他」に○をされた場合は、（　　）内に具体的な内容もご記入ください。
［　　］の中に具体的な内容の記入をお願いしている問には、具体的な内容（地名、数など）をご記入ください。
・調査票は記名式でお願いしております。よろしければ、最終ページに「氏名」、「住所」、「連絡先」のご記入をお願いします。

➢ **個人情報について**

・調査票に記載いただいた個人情報は、大熊町、福島県及び復興庁において適切に管理するとともに、各種施策の検討目的以外には使用いたしません。
・また、回答はすべて統計的な処理を行い、個人の特定につながるような内容が公表されることはありません。

● **ご提出方法**

ご記入済みの調査票は、**８月１７日（月）まで**に、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストにご投函ください（切手は不要です）。

【お問い合わせ先】

復興庁
「住民意向調査」
問い合わせセンター

調査の趣旨、記入方法について
フリーダイヤル　０１２０－９０１－８４１
［設置期間：８月４日（火）～８月１７日（月）10 時～17 時］
土･日を除く

復興公営住宅について

福島県
〒960-8670　福島県福島市杉妻町 2 番 16 号
避難地域復興局　生活拠点課
Tel　024-521-8617

大熊町
〒965-0873　福島県会津若松市追手町 2 番 41 号
（会津若松市役所追手町第二庁舎）
大熊町役場会津若松出張所　企画調整課
Tel　0120-26-3844

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 1　あなたの現在の年齢（○は1つ）

1. ～19歳
2. 20～24歳
3. 25～29歳
4. 30～34歳
5. 35～39歳
6. 40～44歳
7. 45～49歳
8. 50～54歳
9. 55～59歳
10. 60～64歳
11. 65～69歳
12. 70～74歳
13. 75～79歳
14. 80歳以上

【すべての方にうかがいます。】

問 2　現在のあなたの職業を教えてください。
仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合は、主な収入源になっている職業を教えてください。

(1) 職業（就業形態）（○は1つ）

1. 自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）
2. 自営業・会社経営者（休業中）
3. 会社員（勤め人）（事務や内勤を主とする業務）
4. 会社員（勤め人）（労務や外勤を主とする業務）
5. 団体職員
6. 公務員
7. パート・アルバイト
8. 学生　⇒問 3 へ
9. 無職（職を探していない）　⇒問 3 へ
10. 無職（職を探している）　⇒問 3 へ
11. その他（具体的に　　）

【仕事に就いている方（問 2（1）で「1」から「7」、「11」と回答した方）にうかがいます。】

(2) 業種（○は1つ）

1. 農・林・漁・畜産業
2. 建設業
3. 製造業
4. 電気・ガス・水道業
5. 運輸業
6. 卸・小売り・飲食、サービス業
7. 金融・保険業
8. 医療・福祉
9. 教育
10. 公務
11. その他（具体的に　　）

東日本大震災発生時および震災前の、あなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 3　震災発生当時にお住まいだった行政区を教えてください。（○は1つ）

1. 中屋敷	7. 大野1	13.熊3	19.夫沢1
2. 野上1	8. 大野2	14.町	20.夫沢２
3. 野上2	9. 大川原1	15.熊川	21.夫沢３
4. 下野上1	10.大川原2	16.野馬形	22.その他 （わからない場合は住所を記載してください）
5. 下野上2	11.熊1	17.小入野	
6. 下野上3	12.熊2	18.大和久	（　　）

【すべての方にうかがいます。】

問 4　震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。（○は1つ）

1. 持ち家（一戸建）
2. 持ち家（集合住宅）
3. 民間賃貸住宅（一戸建）
4. 民間賃貸住宅（集合住宅）
5. 公営住宅
6. 給与住宅（社宅、公務員宿舎など）
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他（具体的に　　）

避難状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 5 あなたが現在避難されている自治体を教えてください。（○は1つ）

【 浜 通 り 】
1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 楢葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】
8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】
21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村（1から23以外） 】
24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください
（市・町・村）

【 福島県外 】
25. 福島県外
→具体的にご記入ください
（都・道・府・県）
（市・町・村）

【すべての方にうかがいます。】

問 6 震災発生当時と現在の世帯構成についてうかがいます。

（1）**「震災発生当時」**に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。
あなた自身を含めて、現在の年齢・学年にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

ア）未就学児（小学校入学前）	人	エ）15 歳以上 18 歳未満（中学生を除く）	人
イ）小学生	人	オ）18 歳以上 65 歳未満	人
ウ）中学生	人	カ）65 歳以上の方	人

（2）**「現在」**、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。
あなた自身を含めて、現在の年齢・学年にあてはまる人数でご回答ください。（人数で回答）

ア）未就学児（小学校入学前）	人	エ）15 歳以上 18 歳未満（中学生を除く）	人
イ）小学生	人	オ）18 歳以上 65 歳未満	人
ウ）中学生	人	カ）65 歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

問 7　現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

1. 応急仮設住宅(プレハブ型。無償)
2. 応急仮設住宅(民間住宅・公営住宅などの借り上げ型。無償)
3. 公営住宅(2.は除く。有償)
4. 民間賃貸住宅(有償)
5. 給与住宅(社宅など)
6. 家族のどなたかのお住まい・実家
7. 親戚・知人宅
8. 持ち家(ご本人またはご家族所有)
9. その他 (具体的に　　)

復興公営住宅など今後の避難期間中の居住意向についてお聞かせください。

【すべての方にうかがいます。】

問 8　現在、福島県は別紙に記載の通り、復興公営住宅の整備を進めています。あなたの世帯は、復興公営住宅への入居を希望しますか。（○は1つ）

※この質問で、入居申し込みや入居の確約を行うものではありません。

1. 既に当選または入居が決定している（入居している）
2. 入居の申し込み中である
3. 今後、入居申し込みしたい

⇒問 8-1 へ

4. 現時点では判断できない　⇒問 8-3 へ
5. 入居を希望しない　⇒問 8-4 へ

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している（入居している）方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問 8 で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問 8-1　入居が決定している（入居している）、入居を希望する、または申し込みを行っている復興公営住宅の地域（自治体名）、入居する際の家族構成についてお聞かせください。

（1）自治体名を教えてください。

	復興公営住宅（生活拠点）を整備済みまたは整備中の市町村												
	福島市	会津若松市	郡山市	いわき市	白河市	二本松市	田村市	南相馬市	本宮市	三春町	広野町	その他の市町村	分散して入居しない
＜1世帯目＞（○は1つ）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12（　　）	
＜2世帯目＞（○は1つ）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12（　　）	13

※1　家族が多い等の理由により、復興公営住宅を2戸借りられる方（希望も含む。）は、＜2世帯目＞の列にもお答えください。

※2　「12. 」を選択した場合は、（　）内に具体的にご希望の市町村名を記入してください。

（2）入居する際の家族構成をご記入ください。（人数で回答）

※現在ご一緒にお住まいの家族についてご記入ください。

	ア）未就学児（小学校入学前）	イ）小学生	ウ）中学生	エ）15歳以上18歳未満（中学生を除く）	オ）18歳以上65歳未満	カ）65歳以上
＜1世帯目＞	人	人	人	人	人	人
＜2世帯目＞	人	人	人	人	人	人

【復興公営住宅へ既に当選または入居が決定している方、入居の申し込み中である方、今後、入居申し込みしたい方（問 8 で「1」、「2」、「3」と回答した方）にうかがいます。】

問 8-2　復興公営住宅に入居する場合に、サービスとして必要だと思うものは何ですか。（○は3つまで）

1. 避難住民同士の交流会等の開催
2. 地元住民との交流会等の開催
3. 高齢者向けの見守り（巡回等）
4. 子どもの学習支援
5. 健康相談員の設置
6. その他（具体的に　　）

問 9 へ

【問 8 で「4. 現時点では判断できない」と回答した方にうかがいます。】

問 8-3　復興公営住宅への入居について、現時点で判断できない理由は何ですか。（○はいくつでも）

1. 持ち家の購入を検討しているから
2. できれば応急仮設住宅（プレハブ型・借上げ型）に住み続けたいから
3. 集合住宅ではなく一戸建に住みたいから（希望する場所に一戸建が整備されるかわからないから）
4. 希望する復興公営住宅でペットを飼えない（飼えるかわからない）から
5. 高齢者・要介護者のいる世帯なので、生活が不安だから
6. 復興公営住宅の周辺環境がわからないから
7. 近所にどのような人が住むかわからないから
8. 自身の生活の見通しがたっていないから
9. 賠償の状況がわからないから
10. 家賃を支払うことになるから
11. その他（具体的に　　）

問 9 へ

【問 8 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます。】

問 8-4　入居をしない場合に、居住を希望する(既に居住している場合を含む)自治体はどちらですか。その自治体を教えてください。(○は1つ)

【 浜 通 り 】
1. いわき市
2. 相馬市
3. 南相馬市
4. 広野町
5. 楢葉町
6. 川内村
7. 新地町

【 中 通 り 】
8. 福島市
9. 郡山市
10. 白河市
11. 須賀川市
12. 二本松市
13. 田村市
14. 伊達市
15. 本宮市
16. 桑折町
17. 川俣町
18. 大玉村
19. 西郷村
20. 三春町

【 会 津 】
21. 会津若松市
22. 喜多方市
23. 会津美里町

【 福島県内のその他の市町村(1から23以外) 】
24. 福島県内のその他の市町村
→具体的にご記入ください
□ (市・町・村)

【 福島県外 】
25. 福島県外
→具体的にご記入ください
□ (都・道・府・県)
□ (市・町・村)

【 その他 】
26. 決めかねている

【問 8 で「5. 入居を希望しない」と回答した方にうかがいます】

問 8-5　今後のお住まいとして、(現在、応急仮設住宅(プレハブ型・借上げ型)にお住まいの方は、いずれ制度が終了した場合、)希望する(既に居住している場合を含む)住宅はどのような形態ですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建)
2. 持ち家(集合住宅)
3. 民間賃貸住宅(一戸建)
4. 民間賃貸住宅(集合住宅)
5. 公営住宅
6. 給与住宅(社宅など)
7. 家族のどなたかのお住まい・実家
8. 親戚・知人宅
9. その他(具体的に　　)
(応急仮設住宅(プレハブ型・借上げ型)を除く)
10. 現時点では判断できない

将来に関するご意向につ

【すべての方にうかがいます。】

問 9　将来、大熊町の避難指示が解除された後の大熊町への帰還について、現時点でどのようにお考えで

1.　戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）　2.

「1」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

問 9-1-1　何年以内であれば待てますか。（○は1つ）

1.　3年以内
2.　5年以内
3.　10年以内
4.　帰れるまで待つ

問 9-1-2　戻る場合に家族の全員か一部かについて教えてください。（○は1つ）

1.　家族全員での帰還を考えている
2.　家族一部での帰還を考えている
3.　現在検討しているところ
4.　まだわからない

問 9-4 へ

問 9-2　大熊町へ（○はいく

1. 避難指示解除とな
2. 道路、鉄道、学校、
3. どの程度の住民が
4. 放射線量の低下の
5. 中間貯蔵施設の情
6. 原子力発電所の安
7. 放射線の人体への
8. 働く場の確保の目
9. 賠償額の確定
10. 住宅確保への支援
11. その他（具体的に
12. 現時点で家族間の
13. 現時点ではどのよ

問 9-3　大熊町との

1.　そう思う
2.　そう思わない
3.　わからない

いてお聞かせください。

すか。「1」から「3」の中から１つ選び、それぞれの質問にお答えください。（〇は1つ）

まだ判断がつかない　　3.　戻らないと決めている（戻れないと考えている）

「2」を選んだ方のみ、
こちらへお進みください

「3」を選んだ方は、
こちらへお進みください

戻ることを判断するために必要なことを教えてください。つでも）

る時期の目安に関する情報
病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途
戻るかの状況
目途、除染成果の状況
報
全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況）
影響に関する情報
途

に関する情報
）
意見が分かれており、帰還意向について回答できないうな情報があれば判断できるかわからない

“つながり”を保ちたいと思いますか。（〇は1つ）

問 9 で「2. まだ判断がつかない」を選んだ方は問 10 へ

問 9 で「3. 戻らないと決めている（戻れないと考えている）」を選んだ方は問 9-7 へ

【問 9 で「1. 戻りたいと考えている（自宅以外の大熊町内への帰還や、将来的な希望も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 9-4　帰還した場合のお住まいは、どのような形態を希望されますか。（○は1つ）

1. 元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）　⇒問 9-6 へ
2. 自宅とは別の場所に新たに一戸建の持ち家を建てたい　⇒問 9-5 へ
3. 自宅とは別の場所に分譲集合住宅を購入したい　⇒問 9-5 へ
4. 民間賃貸住宅（一戸建）
5. 民間賃貸住宅（集合住宅）
6. 公営住宅（一戸建）
7. 公営住宅（集合住宅）
8. 給与住宅（社宅など）
9. 家族のどなたかのお住まい・実家　⇒問 9-6 へ
10. 親戚・知人宅
11. その他（具体的に　　）
12. 現時点では判断できない

【問 9-4 で「2」、「3」と回答した方にうかがいます。】

問 9-5　元の持ち家以外を希望される理由は何ですか。（○はいくつでも）

1. 元の持ち家（自宅）周辺の放射線量の高さが心配だから
2. 元の持ち家（自宅）周辺に住む人が少ないと思うから
3. 大熊町内の新たな場所で生活を開始したいから
4. 今後、津波の被害を受けることが心配だから
5. 元の持ち家（自宅）が荒廃しているから
6. その他（具体的に　　）

【問 9-4 に回答した方全員にうかがいます。】

問 9-6　大熊町に戻る場合に、今後の生活においてどのような支援が必要と考えますか。（○はいくつでも）

1. 被ばく低減対策
2. 住宅の修繕や建て替えへの支援
3. 商業施設の再開や新設
4. 医療機関の再開や新設
5. 介護福祉施設の再開や新設
6. 学校や教育施設の再開や新設
7. 公共交通機関の再開
8. 雇用確保・就業支援
9. 高齢者世帯に対する生活支援
10. 携帯電話やインターネット等通信環境の改善
11. その他（具体的に　　）
12. 特にない

問 10 へ

【問 9 で「3. 戻らないと決めている（戻れないと考えている）」と回答した方にうかがいます。】

問 9-7　現時点で戻らないと決めている（戻れないと考えている）理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

【帰還の前提・健康に関わるもの】

1. 放射線量が低下せず不安だから
2. 原子力発電所の安全性に不安があるから
3. 水道水などの生活用水の安全性に不安があるから
4. 中間貯蔵施設の計画があるから

【町内の復旧状況に関わるもの】

5. 大熊町に戻っても仕事がなさそうだから
6. 大熊町での事業の再開が難しいから
7. 営農などができそうにないから
8. 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
9. 大熊町外への移動交通が不便だから
10. 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
11. 医療環境に不安があるから
12. 介護・福祉サービスに不安があるから
13. 教育環境に不安があるから
14. 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

15. 高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから
16. 他の住民も戻りそうにないから
17. 今後の津波被害を受ける可能性があるから
18. 帰還までに時間がかかるから
19. 避難先で仕事を見つけているから
20. 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
21. 避難先の方が生活利便性が高いから
22. すでに生活基盤ができているから
23. その他（具体的に　　）

【すべての方にうかがいます。】

問 10　国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

最後に、あなたご自身のことについて教えてください。

避難生活を安心して過ごしていただくためには、仮設住宅等から、早期に安定的な居住・生活環境にお移り頂くことが重要と考えております。

今後、入居を迷っている方などに今後の居住についてご意向をお聞きするほか、復興公営住宅の進捗に応じて復興公営住宅への入居希望をお持ちの方、また、大熊町への帰還をご希望される方などに希望の状況について改めてお聞きしたりする場合がありますので、あなたの氏名と現在のご住所、ご連絡先をご記入いただけますと幸いです。

なお、本調査は、今後の大熊町のまちづくりや、復興公営住宅整備に向けて、住民のみなさまのご意見やご要望などをお伺いすることを目的として実施しております。当該欄にご記入いただくことによって、復興公営住宅への入居申し込みや入居の確約となるわけではありません。

F1　あなたの氏名を教えてください

F2　現在のあなたの住所（番地、アパート名・部屋番号までご記入ください）

F3　あなたの連絡先（電話番号）

以上でご回答いただく内容は終わりです。

ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒にご記入済み調査票を入れて、

８月１７日（月）までに郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

大熊町　住民意向調査

報告書

平成２８年３月

復興庁　福島県　大熊町

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター